

上粕屋・秋山遺跡Ⅰ

新東名高速道路（伊勢原市秋山地区）建設事業に伴う発掘調査

2025. 3

公益財団法人 かながわ考古学財団

かながわ考古学財団調査報告 346

か み か す や あ き や ま い せ き
上粕屋・秋山遺跡 I

新東名高速道路（伊勢原市秋山地区）建設事業に伴う発掘調査

2025.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

序 文

本書で報告する上粕屋・秋山遺跡は、伊勢原市中央部の上粕屋扇状地北端の緩やかな北向きの緩斜面地に立地しています。

伊勢原市の上粕屋一帯は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路の伊勢原大山インター建設予定地付近にあたり、新東名高速道路上下線部分の秋山高架橋部分として、発掘調査を平成 27 年度からはじめました。

上粕屋・秋山遺跡は、旧石器時代、縄文時代、古墳時代から奈良・平安時代、中世、近世の遺構・遺物が発見された複合遺跡です。周辺では、西側に隣接して上粕屋・秋山上遺跡第 2 次調査が行われ、今回の調査は同時平行で行われた、橋脚部分の調査です。現在周辺では、新東名高速道路と交差する国道 246 号線バイパス厚木・秦野道路のインターチェンジ建設に先立つ発掘調査が、引き続き行われています。

今回の調査で発見された中で注目されるのは、旧石器時代・縄文時代の遺構・遺物であり、数量・内容ともに充実しています。なかでも伊勢原市を舞台に活躍した縄文時代後期の人たちが生活を営んだ遺跡の様相は、縄文時代の豊かな暮らしぶりを彷彿とさせるものがあります。

新東名高速道路にかかわる伊勢原市域の発掘調査成果については、すでに西富岡・向畑遺跡、東富岡・南三間遺跡や秋山地区の第 1 分冊・上粕屋・秋山上遺跡第 2 次調査他の報告書が刊行されています。また今後は、広範囲に発掘調査を行ってきた多くの遺跡の調査成果が報告書刊行により続々と明らかにされてまいります。これらは、伊勢原のこれまで知られなかった歴史を明らかにする発見といえます。本報告は、それらの発掘調査成果の一つとして活用いただければ幸いです。

最後に、現地調査から本書刊行にいたる中で、多くの関係者、関係機関からご指導、ご協力をいただきました。感謝申し上げます。

2025(令和 7) 年 3 月

公益財団法人かながわ考古学財団
理 事 長 中 島 栄 一

例 言

1. 本書は、公益財団法人かながわ考古学財団が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書であり、次の遺跡について収録している。

神奈川県伊勢原市上粕屋地先 上粕屋・秋山遺跡（伊勢原市 No. 74・205）

なお、秋山地区の高架橋建設に伴う報告書については、既刊の上粕屋・秋山上遺跡第2次調査（本財団報告 333 集）を第Ⅰ分冊として、本書の上粕屋・秋山遺跡Ⅰを第Ⅱ分冊、上粕屋・秋山遺跡Ⅱを第Ⅲ分冊、上粕屋・辻遺跡を第Ⅳ分冊として刊行する。

2. 発掘調査は、中日本高速道路株式会社東京支社土木工務事務所の委託を受け、新東名高速道路建設事業に伴う事前の記録保存調査として実施し、調査に係る経費は中日本高速道路株式会社が負担した。
3. 発掘作業から報告書刊行までの期間及び出土品等整理場所は次のとおりである。

発掘作業期間

上粕屋・秋山遺跡 平成 27(2015) 年 4 月 1 日～平成 29(2017) 年 3 月 31 日

出土品等整理作業期間 令和 4 (2022) 年 3 月 1 日～令和 5 (2023) 年 9 月 30 日

報告書刊行期間 令和 6 (2024) 年 4 月 1 日～令和 7 (2023) 年 3 月 25 日

出土品等整理場所 公益財団法人かながわ考古学財団野庭出土品整理室（横浜市港南区野庭町 1660）

4. 発掘作業は、調査研究部村松 篤・砂田佳弘・池田 治・後藤喜八郎・須田英一・長澤保崇（平成 27 年度）、村松 篤・池田 治・眞鍋早紀・田村良照・曾根博明・澁谷正信・塚田順正・村澤正弘（平成 28 年度）が、また出土品等整理作業及報告書刊行（作成・編集）は、調査研究部村松 篤・小滝 勉・後藤喜八郎・戸羽康一（令和 3～5 年度）が担当した。

5. 発掘作業から報告書刊行に係る調整は、神奈川県教育局生涯学習部文化遺産課埋蔵文化財グループ丸吉繁一・長岡文紀（平成 27・28 年度）、高屋敷雅夫（令和 3～4 年度）、渡辺千尋（令和 4～5 年度）、三戸 芽（令和 6 年度）が担当した。また発掘作業から報告書刊行にかかる監理は文化遺産課中村町駐在事務所の近野正幸（平成 27・28 年度）、加藤勝仁（令和 3～4 年度）、三戸 芽（令和 5 年度）、富永樹之（令和 6 年度）が担当した。

6. 発掘作業・出土品等整理作業においては次の分析・鑑定を外部機関に委託し、結果の一部を第 6 章に掲載した。また、脆弱遺物の応急的保存処理について下記 1 件について委託した。

〔委託調査・分析内容〕

〔委託先〕

出土黒曜石の産地推定（第 6 章第 1 節）

（株）東京航業研究所

石器石材の岩種同定（第 6 章第 2 節）

（有）石器石材研究所

〔応急的保存処理〕

鉄製品の保存処理

静岡文化財研究所

7. 発掘作業では、遺跡の基準点測量を飯田測量設計株式会社、敷石住居跡測量写真撮影を（株）シン技術コンサルに委託して実施した。なお、測量基準杭の設置にあたっては新測地系（世界測地系 JGD2011）IX 系）を用い第 6 図に座標値を示した。

8. 発掘作業における遺構測量及び遺物取上げにはシステムプログラム「遺構くん 2015～2016」（株）C

UBICと、出土品等整理作業における各種分布図等の作成にあたっては、システムプログラム「トレースくん 2021～2023」(株)CUBICを使用した。なお遺物実測と3D写真撮影に関しては、(株)CUBIC「遺物3Dモデル化システム 2021～2023」を使用した。

9. 発掘作業及び出土品等整理作業にあたっては、次の諸氏・諸機関から現地指導・ご協力を賜った(敬称略)。

縄文時代数石住居について 山本輝久(昭和女子大学名誉教授)
獣骨鑑定について 浪形早季子(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団)
近世遺物鑑定について 能芝 勉(元公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所)
調査全般について 立花 実(伊勢原市教育委員会)

岡本孝之、石井 寛、鈴木次郎、瀬田哲夫、西井幸雄、山本典幸、岡村道雄、清藤一順、小倉 均、大澤伸啓、小林重義、田中和之、金子直行、諏訪間 順、竹内順一、園村維敏、麻生順司、長田友也、大上周三、村澤正弘、出縄康行(順不同)

10. 本報告書の執筆は下記のとおり分担して、全体の原稿の加除筆・編集は村松 篤が担当した。

戸羽康一 第5章第1～8節(1)近世出土遺物、(2)中世出土陶磁器、(3)奈良・平安時代～古墳時代出土土器、第7章第1節まとめ(1)～(3)

上記以外の箇所を、村松 篤が担当した。

11. 写真撮影は、遺構を村松 篤・砂田佳弘・池田 治・後藤喜八郎・長澤崇崇、遺物を村松 篤が行った。
12. 本調査に係る出土品及び図面・写真等の記録類については、神奈川県教育委員会にて保管している。
13. 本調査に係る出土品の注記については遺跡名の略号を「AKY」とした。
14. 本調査に係る既発表・報告としては、各年度の年報の他に下記発表会などでの要旨に記載したものがあるが、本報告書の内容をもって正式な調査報告とする。

(公財)かながわ考古学財団発掘調査成果発表会・展示会

平成28年7月15日実施「平成28年度発掘調査成果発表会要旨」

平成29年7月8日実施「平成29年度発掘調査成果発表会要旨」

平成28年11月13日実施「第40回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨」神奈川県考古学会

平成27年度伊勢原の遺跡調査報告会

平成28回考古資料展伊勢原の遺跡

また、現地説明会を平成28年2月27日(土)に実施して、623名の見学者を迎えた。

15. 遺構の名称・番号・帰属時期等については、調査時や概報記載内容から変更したものが、本例言末尾に変更に係る新旧対照表を掲載した。また、各調査区の遺構一覧を各省に掲載した。なお、上粕屋・秋山遺跡の遺構番号は、調査地区ごとに遺構の種類別に番号を1号からナンバリングをした。また、遺構番号先頭の記号は、遺構の帰属時代を示し、「K」が近世以降、「C」が中世、「H」が奈良・平安時代～古墳時代、「Y」が弥生時代、「J」が縄文時代、を示す。旧石器時代は時代表記なしとした。ピットの番号は、「IP」と略称した。

上粕屋・秋山遺跡の遺物Noに関しては、時代ごと(節単位)に「小文字の時代表記+1～」の通しNoとしている。近世はk1～、中世はc1～、奈良・平安時代から古墳時代はh1～、縄文時代はj1～、旧石器時代は時代表記なしで1～となる。

16. 本報告書の遺構・遺物挿入図の指示は次のとおりである。

- ・遺構実測図の標高は海拔高度を示す。
- ・遺構・遺物等の挿図縮尺は、原則として各挿図表題右端に示した。
- ・特に凡例を示していない遺構・遺物挿図中のパターンによる指示は、以下のとおりである。

遺構図関係

	断面図中の地山		焼土範囲		炭化物範囲
	硬化面		断面図中のカマド・炉範囲		粘土範囲
	赤化範囲				

遺物図関係

	須恵器断面		敲打痕		研磨痕		煤
--	-------	--	-----	--	-----	--	---

- ・遺構からの遺物出土分布図中のドットによる指示は以下のとおりである。

土器・磁器・陶器・瓦質陶器・土製品：● 石器・石製品：◆ 金属製品・銭：◇ 骨：×

- ・遺構図の中で、他の遺構、擾乱と接する線は細い実線として、同様に推定ラインも表記する。オーバーハングした箇所は破線で表記する。
- ・石器類の擦れ痕が認められる箇所については、——と表記した。

17. 遺物写真の縮尺は、おおむね実測図版と同じとして、遺物の種別ごとに近世から旧石器時代の順に掲載した。
18. 発掘作業及び出土品等整理作業の参加者は下記の通りである。なお現地調査や出土品等整理作業においては、このほか作業内容によって一時的に従事した調査補助員・整理作業員がいる（当財団年報の職員名簿参照）。

発掘作業（順不同）

飯尾阿由子・石黒研一・佐々木章子・正木恵子・溝呂木健一・千葉洋一・小林宇宙・片山翔太・金山富美・長岡希枝・鈴木晴菜・本田一矢・安部秀三郎・小山侑里子・金井美幸・指田来実・大須賀菜緒・大上咲子・木内 愛・菅原愛里沙・矢島大暉・島海美由紀・猪子絵美・小野奈々華・窪田有希・串間楓花・竹内俊晋・藤野頌子・吉川優子・大野朝日・杉山一樹（平成 27 年度、平成 28 年度）（以上調査補助員）

下山隆志・栗城安紀子・増田文男・荒谷美子・飯野正文・石垣ひとみ・石原幸男・市川政一・伊藤吉正・巖 昭子・内海しおり・宇夫方軍二・梅田秀徳・大越敬子・大島貞二・亀井久美子・木原龍太郎・君塚京子・小篠洋平・小田 樹・小泉佐吉・小林克利・小林守穂・斎藤 寧・坂田美知子・佐藤謙次・島川岩雄・関水健一・中條秀保・花沢栄一・日暮俊郎・八木千悟・山田カツ子・吉田明子・加藤博司・金野詩暢・松下成夫・石丸夏基・井波万里子（平成 27 年度、平成 28 年度）（以上発掘作業員）

出土品等整理作業（順不同）

浅野由美子・飯尾阿由子・五十嵐幸子・五十嵐ふじ子・池田京子・汐口凜太郎・杉原 琴・木下麻弥・北野麻里・豊永紗千香・渡邊享子（以上調査補助員）

赤沼なな子・石原みさこ・内海由美・亀井恵美子・小柴佳代子・佐藤裕子・白川美沙・高山細香・富樫久美子・千葉信也・馬場まみ子・濱田美佐・藤田桐人・細田麻美・三浦奈月・村松寿子（以上整理作業員）

上粕屋・秋山遺跡、遺構名新旧対照表

地区	遺構名	旧遺構名	地区	遺構名	旧遺構名	地区	遺構名	旧遺構名
ピア17 (下9)区	J 3号配石掘り方	J 24号土坑	ピア16 (下9)区	J 1号機設土器	J 12号土坑	ピア16 (上9)区	J 1号柱穴群	J 遺物集中
	J 1号配石掘り方	J 26号土坑		J 2号機設土器	J 13号土坑		J 2号柱穴群	J 2号配石
	J 6号配石掘り方	J 27号土坑		J 3号機設土器	J 16号土坑			J 1号集石
	J 4号配石掘り方	J 31号土坑		J 4号機設土器	J 45号土坑	ピア15 (下9)水路区	K 44号土坑	J 5号位石跡
	J 5号配石掘り方	J 32号土坑		J 2号配石	J 5号配石			K 1号土坑
	J 2号配石掘り方	J 33号土坑		J 3号配石	J 6号配石		K 45号土坑	K 3号土坑
				J 4号配石	J 7号配石	ピア15 (下9)区	H 2号位石跡	H 1号機土坑

遺構名の変更があったものについては、主なものだけここで記載をし、欠番等があったものは、各調査区冒頭の遺構一覧表を参照願いたい。

上粕屋・秋山上遺跡、上粕屋・秋山遺跡調査区名一覧表

遺跡名	旧調査区名	新調査区名	遺跡名	旧調査区名	新調査区名	遺跡名	旧調査区名	新調査区名
上粕屋・秋山上遺跡	No. 20 東	ピア18(上9)	上粕屋・秋山遺跡	No. 23 南	ピア15(下9)	上粕屋・秋山遺跡	No. 25	ピア13
	No. 20 西	ピア18(下9)		No. 23 北	ピア15(上9)		23～25 側道①・②～⑤	側道①・③～⑤
	No. 20-2	ピア18 道路		No. 23-2 南	ピア15(下9) 本路		側道②	側道②
上粕屋・秋山遺跡	No. 21 南	ピア17(下9)		No. 23-2 北	ピア15(上9) 水路		23～25 側道⑥	側道⑥
	No. 21 北	ピア17(上9)		No. 24-2 南	ピア14(下9) 本路		ベント2	ベント2
	No. 22 南	ピア16(下9)		No. 24-2 北	ピア14(上9) 水路		ベント9	ベント9
	No. 22 北	ピア16(上9)		No. 24 南	ピア14(下9)		ベント12	ベント12
	No. 22-2	ピア16 道路		No. 24 北	ピア14(上9)		ベント13	ベント13

調査区名は報告書作成にあたり調査時と変更となったため、新旧調査区名を一覧に示した。

今回の報告では、新調査区名でピア18(上9)区(旧調査区名:No.20 東区)、ピア18(下9)区(旧調査区名:No.20 西区)およびピア18 道路区(旧調査区名:No.20-2 区)を対象としている。なお、ピア18(上9)(下9)両区については、同時に調査した関係からピア18区と通称している。

目 次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査中の協議	5
第2章 遺跡概観	7
第1節 遺跡の地形と地理的環境	7
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	7
第3節 本報告調査区周辺の発掘調査について	19
第3章 調査経過	22
第1節 調査区の設定と発掘調査の方法	22
第2節 調査経過	22
1 発掘作業の経過	22
2 出土品等整理作業の経過	25
第4章 基本層序	28
第1節 層序	28
第5章 発見された遺構と遺物	33
第1節 ビア17（下り）区の調査	33
1 近世	33
(1) 土坑	33
(2) ビット	38
(3) 遺構外出土遺物	38
2 中世	38
(1) 土坑	41
(2) ビット	41
(3) 遺構外出土遺物	41
3 奈良・平安時代	41
(1) 住居跡	42
(2) 掘立柱建物跡	56
(3) ビット	60
(4) 遺構外出土遺物	60
4 縄文時代	63

(1) 配石	63
(2) 土坑	78
(3) ビット	79
(4) 遺構外出土遺物	83
第2節 ピア17(上り)区の調査	85
1 近世	85
(1) 土坑	85
(2) 溝	90
(3) 遺構外出土遺物	90
2 中世	94
(1) 掘立柱建物跡	94
(2) 土坑	97
(3) 段切	98
(4) 溝	98
3 古墳時代後期～奈良・平安時代	98
4 縄文時代	99
(1) 土坑	99
(2) ビット	106
(3) 遺構外出土遺物	106
第3節 ピア16(下り)区の調査	111
1 近世	111
(1) 溝	112
(2) 道路状遺構	123
(3) 畠跡	126
(4) 掘立柱建物跡	126
(5) 土坑	129
(6) ビット	134
(7) 遺構外出土遺物	134
2 中世	134
(1) 掘立柱建物跡	134
(2) 溝	136
(3) 土坑	138
(4) ビット	140
(5) 遺構外出土遺物	140
3 奈良・平安時代～古墳時代後期	140
(1) 住居跡	143
(2) ビット	144
(3) 遺構外出土遺物	144

4 縄文時代	145
(1) 住居跡	145
(2) 土坑	153
(3) 焼土址	174
(4) 埋設土器	178
(5) 配石	183
(6) ビット	183
(7) 陥し穴	184
(8) 遺構外出土遺物	186
5 旧石器時代	201
(1) 石器集中	201
(2) 礫群	202
(3) 炭化物集中	202
(4) 石器	202
(5) 石器の石材	220
第4節 ピア16(上り)区の調査	223
1 近世	226
(1) 溝	226
(2) 土坑	226
(3) ビット	239
(4) 遺構外出土遺物	239
2 中世	240
(1) 掘立柱建物跡	240
(2) 溝	240
(3) 硬化面	253
(4) 土坑	256
(5) ビット	261
(6) 遺構外出土遺物	261
3 古墳時代	261
(1) 住居跡	261
(2) 遺構外出土遺物	276
4 縄文時代	277
(1) 住居跡	277
(2) 柱穴群	286
(3) 配石	289
(4) 土坑	294
(5) ビット	314
(6) 遺構外出土遺物	322

第5節	ピア15（下り）区の調査	323
1	近 世	325
	(1) 段切	325
	(2) 溝	326
	(3) 地下式坑	340
	(4) 土坑	340
	(5) 井戸	353
	(6) ビット	357
	(7) 畝状遺構	360
	(8) 遺構外出土遺物	361
2	中 世	361
	(1) 遺構外出土遺物	361
3	奈良・平安時代	361
	(1) 住居跡	361
	(2) 焼土址	363
	(3) ビット	363
	(4) 遺構外出土遺物	363
4	縄文時代	366
	(1) 遺構外出土遺物	366
第6節	ピア15（上り）区の調査	371
1	近 世	371
	(1) 段切	371
	(2) 土坑	371
	(3) 畝状遺構	378
	(4) 溝	378
	(5) 遺構外出土遺物	380
2	中 世	380
	(1) 土坑	380
	(2) 遺構外出土遺物	380
3	縄文時代	380
	(1) 住居跡	380
	(2) 土坑	386
	(3) 遺構外出土遺物	386
第7節	ピア16道路区の調査	387
1	近 世	387
	(1) 溝	387
	(2) ビット	387
	(3) 遺構外出土遺物	387

2 中 世	387
(1) 遺構外出土遺物	387
3 古墳時代後期～奈良・平安時代	387
(1) 遺構外出土遺物	390
第8節 ベント1区の調査	391
1 近 世	391
(1) 溝	391
(2) 遺構外出土遺物	393
2 縄文時代	393
(1) ビット	393
(2) 遺構外出土遺物	393
第9節 ベント2区の調査	400
1 近 世	400
(1) 溝	401
(2) 土坑	401
(3) 遺構外出土遺物	401
2 縄文時代	401
(1) 土坑	401
(2) ビット	401
(3) 遺構外出土遺物	402
第10節 ビア14(下り)水路区の調査	406
1 縄文時代	406
(1) ビット	406

第6章 自然科学分析

第1節 出土黒曜石の産地推定	443
第2節 石器石材の岩種同定	449
第3節 出土骨類の同定	459

第7章 ま と め

第1節 秋山遺跡グループの成果と課題	465
1 近 世	465
2 中 世	466
3 奈良・平安時代～古墳時代後期	467
4 弥生時代後期～古墳時代前期	468
5 縄文時代	468
6 旧石器時代	476
第2節 結語	476

挿図目次

第2章 遺跡概観	
第1図 調査地点位置図 [1/25,000]	8
第2図 周辺の道跡 [1/25,000]	9
第3図 道跡周辺の地形区分図 [1/25,000]	20
第4図 上柏屋・秋山道跡周辺の地形 [1/3,000] ...	21
第3章 調査経過	
第5図 道跡周辺地形図 [1/2,500]	23
第6図 グリッド概念図・試掘位置図 [1/1,200] ...	24
第4章 基本層序	
第7図 土層柱状図 (1) [1/50]	28
第8図 土層柱状図 (2) 記録箇所 [1/1,200]	30
第9図 土層柱状図 (3) [1/100]	31
第5章 発見された遺構と遺物	
第1節 ビア17 (下り) 区	
第10図 近世遺構配置図 [1/200]	34
第11図 K1～7号土坑 [1/40]	35
第12図 K8～13・21・22号土坑 [1/40]・近世遺構 外出土遺物 [1/3]	36
第13図 中世遺構配置図 [1/200]	39
第14図 C14～19号土坑 [1/40]	40
第15図 奈良・平安時代遺構配置図 [1/200]	43
第16図 H1号住居跡 (1) [1/60]	44
第17図 H1号住居跡 (2) [1/40]	45
第18図 H1号住居跡カマド (1)・(2) [1/30]	46・47
第19図 H1号住居跡出土遺物 (1) [1/4]	48
第20図 H1号住居跡出土遺物 (2) [1/4・1/3]	49
第21図 H2号住居跡 [1/60]	50
第22図 H2号住居跡 カマド [1/30]	51
第23図 H2号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]	52
第24図 H3号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]	52
第25図 H3号住居跡 [1/60]	53
第26図 H4号住居跡 (1) [1/60]	54
第27図 H4号住居跡 (2)・(3) [1/30] ...	55・56
第28図 H4号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]	57
第29図 H1～3号掘立柱建物跡 [1/60]	58
第30図 H1号掘立柱建物跡 [1/60]	59
第31図 H2号掘立柱建物跡 [1/60]	60
第32図 H3号掘立柱建物跡 [1/60]	61
第33図 奈良・平安時代掘立柱建物跡・ビット・遺構 外出土遺物 [1/3]	61
第34図 Hビット全体図 [1/100]	62
第35図 縄文時代遺構配置図 [1/200]	64
第36図 J1号配石 [1/30]	65
第37図 J1号配石出土遺物 [1/5・1/3]	66
第38図 J2号配石 [1/30]	67
第39図 J2号配石出土遺物 [1/3]	68
第40図 J3号配石 [1/30]	69
第41図 J4・5号配石 (1) [1/30]	71
第42図 J4・5号配石 (2) [1/30]	72
第43図 J3・4号配石出土遺物 (1) [1/3]	73
第44図 J4号配石出土遺物 (2) [1/4]	74
第45図 J6・10号配石 [1/30]	75
第46図 J7・8・9号配石 [1/30]	76
第47図 J5～7号配石・J23号土坑出土遺物 [1/3・1/4]	77
第48図 J23・25・28・33～36号土坑 [1/40] ...	80
第49図 Jビット全体図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200]	81
第50図 遺構外出土遺物 (1) [1/3]	82
第51図 ビット・遺構外出土遺物 (2) [1/2・1/3]	83
第2節 ビア17 (上り) 区	
第52図 近世遺構配置図 [1/200]	86
第53図 K1・2・4～7・10～15号土坑 [1/40]	87
第54図 K1・3号溝 [1/120・1/80]	88
第55図 近世出土遺物 [1/2・1/3]	90
第56図 中世遺構配置図 [1/200]	91
第57図 C1号掘立柱建物跡 (1) [1/60]	92
第58図 C1号掘立柱建物跡 (2)・C2号掘立柱建物 跡 [1/60]	93
第59図 C8・9・16・17・18号土坑 [1/30・1/40]	94
第60図 C2段切・C4号溝 (1) [1/120]	95
第61図 C2段切・C4号溝 (2) [1/100・1/60]	96
第62図 中世出土遺物 [1/2・1/3]	98
第63図 縄文時代遺構配置図 [1/200]	100
第64図 J19号土坑 [1/30]	101
第65図 J20～24・28号土坑 [1/40]	102
第66図 J25号土坑 [1/30]	103
第67図 J26・27・29号土坑 [1/40]	104
第68図 J19・25号土坑出土遺物 [1/2・1/3]	105

第69図	Jビット全体図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200]	107
第70図	遺構外出土遺物 (1) [1/2・1/3・1/4]	108
第71図	遺構外出土遺物 (2) [1/2・1/3]	109
第3節 ビア16 (下り) 区		
第72図	近世遺構配置図 [1/200]	113
第73図	K1・2号溝 [1/100・1/60]	114
第74図	K1号道路状遺構、K3・7・8号溝 (1) [1/100]	115
第75図	K1号道路状遺構、K3・7・8号溝 (2) [1/60・1/100]	116
第76図	K1号道路状遺構、K3・7・8号溝 (3) [1/60・1/100]	117
第77図	K4号溝 [1/60]	118
第78図	K5・6号溝 [1/100・1/60]	119
第79図	K1号溝出土遺物 (1) [1/3]	121
第80図	K1号溝出土遺物 (2) [1/3]	122
第81図	K5・6号溝出土遺物 [1/3]	123
第82図	K7号溝 (1)・K3号土坑・K1号道路状遺 構出土遺物 [1/3]	124
第83図	K7号溝 (2)・K1号道路状遺構・K1号高 跡・K1・5～7号土坑・遺構外出土遺物 [1/3・1/2]	125
第84図	K1号高跡 [1/60]	127
第85図	K1号掘立柱建物跡 [1/60]	128
第86図	K2号掘立柱建物跡 [1/60]	129
第87図	K1～3・5号土坑 [1/40]	131
第88図	K6～10号土坑 [1/40]	132
第89図	中世遺構配置図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200]	135
第90図	C3号掘立柱建物跡 [1/60]	136
第91図	C4号掘立柱建物跡 [1/60]	137
第92図	C1号柱穴 [1/60]	138
第93図	C9号溝・C11号土坑 [1/100・1/40]	139
第94図	中世出土遺物 [1/3・1/2]	140
第95図	奈良・平安時代遺構配置図 [1/200]	141
第96図	H1号住居跡 (1) [1/60]	142
第97図	H1号住居跡 (2) [1/60]	143
第98図	古墳時代出土遺物 [1/4・1/3]	144
第99図	縄文時代遺構配置図 [1/200]	146
第100図	J2号住居跡 (1) [1/60]	147
第101図	J2号住居跡 (2) [1/60]	148
第102図	J2号住居跡 (3) [1/60・1/30]	149
第103図	J2号住居跡 (4) [1/60]	150
第104図	J2号住居跡出土遺物 (1) [1/4]	151

第105図	J2号住居跡出土遺物 (2) [1/4]	152
第106図	J2号住居跡出土遺物 (3) [1/3]	153
第107図	J2号住居跡出土遺物 (4) [1/3]	154
第108図	J3号住居跡 (1) [1/60]	155
第109図	J3号住居跡 (2) [1/60]	156
第110図	J3号住居跡 (3) [1/60]	157
第111図	J3号住居跡出土遺物 [1/4]	157
第112図	縄文時代土坑配置図 [1/200]	158
第113図	J14・19号土坑 [1/40] 及び出土遺物 [1/3]	159
第114図	J17・20・21号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/2・1/3]	160
第115図	J18号土坑 [1/40] 及び出土遺物 [1/3]	161
第116図	J23～26・28・29号土坑 [1/40] 及び出土 遺物 [1/3]	163
第117図	J16・30号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/4]	164
第118図	J31～33・36～38号土坑 [1/40] 及び 出土遺物 [1/3]	165
第119図	J34・35号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/3]	166
第120図	J39・40号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/3]	167
第121図	J41・43・44・46・47号土坑 [1/30・1/40] 及び出土遺物 [1/3]	168
第122図	J1～4号焼土 [1/30] 及び出土遺物 [1/3]	172
第123図	J5・6号焼土 [1/30] 及び出土遺物 [1/3]	173
第124図	J7～9号焼土 [1/30] 及び出土遺物 [1/3]	174
第125図	J1号埋設土器 [1/30] 及び出土遺物 [1/4・1/3]	176
第126図	J2・3号埋設土器 [1/30] 及び出土遺物 [1/4]	177
第127図	J4号埋設土器 [1/30] 及び出土遺物 [1/4]	178
第128図	縄文時代配石位置図 [1/200]	179
第129図	J1・2・4号配石 [1/30] 及び出土遺物 [1/3・1/4]	180
第130図	J3号配石 [1/30] 及び出土遺物 [1/3・1/4]	181
第131図	縄文時代ビット配置図及び遺構外出土遺物分 布図 [1/200]	182

第132図	ビット他出土遺物 [1/3].....	185	第162図	K 1・4号溝 [1/100・1/40].....	225
第133図	J 48～50号土坑 (陥穴) 配置図 [1/200]	186	第163図	K 1～K 13・21号土坑 [1/40].....	228
第134図	J 48～50号土坑 (陥穴) [1/40].....	187	第164図	K 15～20・22・23・34・35・37～39・41 号土坑 [1/40].....	229
第135図	遺構外出土遺物 (1) [1/3].....	188	第165図	K 24・25～29・31～33・36・40号土坑 [1/40].....	230
第136図	遺構外出土遺物 (2) [1/3・1/4].....	189	第166図	K 44・46～48・50・53・63～66号土坑 [1/40].....	231
第137図	遺構外出土遺物 (3) [1/2].....	190	第167図	K 68～70・73・75・79号土坑 [1/40・1/30].....	233
第138図	遺構外出土遺物 (4) [1/2・1/3].....	191	第168図	近世出土遺物 (1) [1/30].....	234
第139図	遺構外出土遺物 (5) [1/3].....	192	第169図	近世ビット全体図及び遺構外出土遺物分布 図 [1/200].....	238
第140図	遺構外出土遺物 (6) [1/3].....	193	第170図	近世出土遺物 (2) [1/3・1/2].....	239
第141図	遺構外出土遺物 (7) [1/3].....	194	第171図	中世遺構配置図 [1/200].....	241
第142図	遺構外出土遺物 (8) [1/3].....	195	第172図	C 1～6号掘立柱建物跡配置図 [1/100].....	242
第143図	遺構外出土遺物 (9) [1/3].....	196	第173図	C 1・2号掘立柱建物跡 [1/60].....	243
第144図	旧石器時代全体図 [1/200].....	203	第174図	C 3号掘立柱建物跡 [1/60].....	244
第145図	旧石器時代石器分布図 (1) [1/200].....	204	第175図	C 4号掘立柱建物跡 [1/80].....	245
第146図	旧石器時代石器分布図 (2) [1/200].....	205	第176図	C 5号掘立柱建物跡 (1) [1/60].....	246
第147図	旧石器時代尖頭器 (黒曜石・チャート・頁岩) 分布図 [1/200].....	206	第177図	C 6号掘立柱建物跡 (1) [1/60].....	247
第148図	旧石器時代尖頭器 (ガラス質黒色安山岩) 分布図 [1/200].....	207	第178図	C 5号掘立柱建物跡 (2)・C 6号掘立柱建 物跡 (2) [1/60].....	248
第149図	旧石器時代ナイフ形石器・削器・掻器・彫器・ 使用痕を有する剥片分布図 [1/200].....	208	第179図	C 2・3号溝 [1/60].....	249
第150図	旧石器時代石材料 (黒曜石・チャート・頁岩・ 凝灰岩・黄色碧玉・ホルンフェルス) 分布図 [1/200].....	209	第180図	C 1・2号硬化面・C 72号土坑 [1/40].....	250
第151図	旧石器時代礫・炭化物分布図 [1/200].....	210	第181図	C 14・30・42・43・45・49・51・52・54号 土坑 [1/40].....	251
第152図	旧石器時代石材料 (ガラス質黒色安山岩) 分布図 [1/200].....	211	第182図	C 55～57・62・67・71・74・77・83号土 坑 [1/40].....	252
第153図	出土石器 (1) B 1上層出土石器1 [4/5].....	215	第183図	C 58～61号土坑 [1/40].....	253
第154図	出土石器 (2) B 1上層出土石器2 [4/5].....	216	第184図	C 76・78号土坑 [1/40].....	254
第155図	出土石器 (3) B 1上層出土石器3 [4/5].....	217	第185図	C 80～82・84・85号土坑 [1/40].....	255
第156図	出土石器 (4) B 1上層出土石器4 [4/5].....	218	第186図	中世ビット全体図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200].....	257
第157図	出土石器 (5) B 1上層出土石器5 [4/5].....	219	第187図	中世出土遺物 [1/3・1/2].....	258
第158図	出土石器 (6) B 1上層出土石器6 [4/5].....	220	第188図	古墳時代遺構配置図 [1/200].....	262
第159図	出土石器 (7) B 1中層出土石器1 [4/5].....	221	第189図	H 1号住居跡 (1) [1/60].....	263
第160図	出土石器 (8) B 1中層出土石器2 [4/5].....	222	第190図	H 1号住居跡 (2) [1/60].....	264
第4節	ピア16 (上り) 区の調査		第191図	H 1号住居跡 (3) カマド [1/30].....	265
第161図	近世遺構配置図 [1/200].....	224	第192図	H 1号住居跡 (4) 掘り方 [1/60・1/30].....	266
			第193図	H 1号住居跡出土遺物 [1/4].....	267
			第194図	H 2号住居跡 (1) [1/60].....	268
			第195図	H 2号住居跡 (2) [1/30].....	269

第196図	H2号住居跡(3) カマド [1/30] …	270			土坑 [1/3] 及び出土遺物 [1/3] ……	303
第197図	H2号住居跡出土遺物 [1/4・1/3] …	271	第229図	J 95・97号土坑 [1/30]・98・99・102・103・104号土坑 [1/40] 及び出土遺物 [1/3] ……	304	
第198図	H3号住居跡(1) [1/60] ……	272	第230図	J 100・105～108号土坑 [1/40] 及び出土遺物 [1/3・1/2] ……	305	
第199図	H3号住居跡(2) [1/60] ……	273	第231図	J 101・109号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/3] ……	307	
第200図	H3号住居跡(3) 掘り方 [1/60] …	274	第232図	J 110～116号土坑 [1/40] 及び出土遺物 [1/3] ……	308	
第201図	H3号住居跡(4) カマド・炉址 [1/30] ……	275	第233図	J 117～126号土坑 [1/40] 及び出土遺物 [1/3] ……	310	
第202図	H3号住居跡出土土器・遺構外出土土器・土製品 [1/4・1/3] ……	276	第234図	縄文時代ビット配置図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200] ……	312	
第203図	縄文時代遺構配置図 [1/200] ……	278	第235図	遺構外出土遺物(1) [1/4・1/2] ……	313	
第204図	J 4号住居跡(1) [1/60] ……	279	第236図	遺構外出土遺物(2) [1/2・1/3] ……	315	
第205図	J 4号住居跡(2) [1/60] ……	280	第237図	遺構外出土遺物(3) [1/3・1/6] ……	316	
第206図	J 4号住居跡(3) [1/60] ……	281	第238図	遺構外出土遺物(4) [1/4・1/3] ……	317	
第207図	J 4号住居跡(4) [1/30] ……	282	第5節	ピア15(下り)区		
第208図	J 4号住居跡出土遺物(1) [1/2・1/3] ……	282	第239図	近世遺構配置図 [1/200] ……	324	
第209図	J 4号住居跡出土遺物(2) [1/4] …	283	第240図	ピア15(下り)水路区近世遺構配置図 [1/200] ……	325	
第210図	J 4号住居跡出土遺物(3) [1/2・1/3] ……	284	第241図	K溝・段切(1) [1/200] ……	327	
第211図	縄文時代縦分布図 [1/200] ……	285	第242図	K溝・段切(2) [1/200・1/100] ……	328	
第212図	J 1号柱穴群 [1/60] ……	286	第243図	K溝・段切(3) [1/100] ……	329	
第213図	J 1号柱穴群上層遺物出土状態 [1/30] ……	287	第244図	K溝・段切(4) [1/100・1/50] ……	330	
第214図	J 1号柱穴群上層出土遺物 [1/3・1/4] ……	288	第245図	K 8・17～20号溝(1) [1/100・1/50] ……	331	
第215図	J 2号柱穴群A・B配置図 [1/60] …	289	第246図	K 8・17～20号溝(2) [1/50] ……	332	
第216図	J 2号柱穴群A [1/60] ……	290	第247図	K 1・3号溝 [1/80] ……	334	
第217図	J 2号柱穴群B [1/60] ……	291	第248図	K 1号地下式坑 [1/40] ……	336	
第218図	J 2号柱穴群上層遺物出土状態 [1/30] 及び出土遺物 [1/3] ……	292	第249図	K段切・K 8号溝出土遺物 [1/2・1/3] ……	337	
第219図	J 1号配石・J 2号配石 [1/30] ……	293	第250図	K 19号溝・K 1号地下式坑出土遺物 [1/3] ……	338	
第220図	縄文時代土坑配置図 [1/200] ……	295	第251図	K 1～4号土坑 [1/80・1/40] ……	341	
第221図	J 86～88号土坑 [1/40・1/30] 及び出土遺物 [1/3・1/4・1/2] ……	296	第252図	K 5～11号土坑 [1/40] ……	342	
第222図	J 89号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/3・1/2] ……	297	第253図	K 12～21号土坑 [1/40] ……	343	
第223図	J 90・92号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/3・1/4] ……	298	第254図	K 22～30号土坑 [1/40] ……	344	
第224図	J 91号土坑 [1/30] 及び出土遺物 [1/3] ……	299	第255図	K 31～34・41～43号土坑 [1/40・1/80] ……	345	
第225図	J 93号土坑 [1/30] 及び出土遺物(1) [1/3] ……	300	第256図	K 35～40号土坑(1) [1/60] ……	346	
第226図	J 93号土坑出土遺物(2) [1/4] ……	301	第257図	K 35～40号土坑(2) [1/60] ……	347	
第227図	J 94号土坑 [1/30] 及び出土遺物(1) [1/3] ……	302	第258図	K 44・45号土坑 [1/40] ……	348	
第228図	J 94号土坑出土遺物(2) [1/4]・J 96号		第259図	K 7・20・9・43号土坑出土遺物 [1/2・1/3] ……	352	

第260図	K1号井戸 [1/40]	354
第261図	K2号井戸 [1/40]	355
第262図	K3・4号井戸 [1/40]	356
第263図	K2号竈 [1/80]	357
第264図	近世ビット配置図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200]	358
第265図	K1号井戸・Kビット出土遺物 [1/2・1/3]	359
第266図	近世遺構外出土遺物 [1/2・1/3]	360
第267図	中世出土遺物 [1/3・1/4]	361
第268図	奈良・平安時代遺構配置図及び遺構外出土 遺物分布図 [1/200]	362
第269図	H1号住居跡 [1/30]	364
第270図	H2号住居跡、H2・3号焼土址 [1/30]	365
第271図	H1号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]	366
第272図	H2号住居跡・H2号焼土址出土遺物 [1/4・1/3]	366
第273図	奈良・平安時代遺構外出土遺物 [1/4・1/3]	367
第274図	遺構外出土遺物 (1) [1/2・1/3]	368
第275図	遺構外出土遺物 (2) [1/2・1/3]	369
第6節	ピア15 (上) 区	
第276図	中・近世遺構配置図 [1/200]	372
第277図	K1段切、K3・4・5号溝 [1/120・1/60]	373
第278図	K1号土坑 (1) [1/40]	374
第279図	K1号土坑 (2)、K2～5・9号土坑 [1/40]	375
第280図	K7・10号土坑 [1/30・1/40] 及び近世 出土遺物 [1/3]	376
第281図	K1・2号溝 [1/60]	377
第282図	K1号竈状遺構 [1/60]	379
第283図	C6号土坑 [1/40] 及び中世出土遺物 [1/3]	379
第284図	縄文時代遺構配置図 [1/200]	381
第285図	J1号住居跡 (1) [1/80・1/40]	382
第286図	J1号住居跡 (2) [1/40・1/30]	383
第287図	J1号住居跡出土遺物 (1) [1/3]	384
第288図	J8・11・12号土坑 [1/40]	385
第289図	J1号住居跡出土遺物 (2)・遺構外出土 遺物 [1/3]	385
第7節	ピア16道路区	
第290図	近世遺構配置図 [1/200]	388
第291図	K1号溝 [1/60]	389
第292図	近世・中世・平安時代出土遺物	

	[1/3・1/4].....	390
第8節	ベント1区	
第293図	ベント1・2区 近世遺構配置図 [1/200].....	391
第294図	K1・2号溝 [1/60] 及び近世出土遺物 [1/3]	392
第295図	ベント1・2区 縄文時代遺構配置図及び遺 構外出土遺物分布図 [1/200].....	394
第296図	縄文時代ビット配置図 [1/100].....	395
第297図	遺構外出土遺物 (1) [1/4].....	396
第298図	遺構外出土遺物 (2) [1/4].....	397
第299図	遺構外出土遺物 (3) [1/4・1/2].....	398
第300図	遺構外出土遺物 (4) [1/3].....	399
第9節	ベント2区	
第301図	K1号土坑・K1号溝 [1/40].....	401
第302図	縄文時代ビット配置図 [1/100].....	402
第303図	J2号土坑 [1/40].....	403
第304図	遺構外出土遺物 (1) [1/4・1/3].....	404
第305図	遺構外出土遺物 (2) [1/2・1/3].....	405
第10節	ピア14 (下) 水路区	
第306図	ピア14 (下) 水路区全体図 [1/200].....	406
第6章	自然科学分析	
第307図	黒曜石産地分布図.....	447
第308図	望月ダイアグラム (Rb 分率図).....	448
第309図	望月ダイアグラム (Sr 分率図).....	448
第310図	黒曜石原石 (1) [1/2].....	456
第311図	黒曜石原石 (2) [1/2].....	457
第7章	まとめ	
第312図	ピア16 (下) 区・ピア17 (上) 区 弥 生時代後期～古墳時代前期出土遺物 [1/4・1/3].....	468
第313図	秋山道跡グループ 近世遺物分布図 [1/2,000].....	469
第314図	秋山道跡グループ 中世遺物分布図 [1/2,000].....	470
第315図	秋山道跡グループ 古墳～奈良・平安時代 遺物分布図 [1/2,000].....	470
第316図	秋山道跡グループ 縄文時代中期遺物分布図 [1/2,000].....	471
第317図	秋山道跡グループ 縄文時代後期遺物分布図 [1/2,000].....	471
第318図	秋山道跡グループ 縄文時代石器遺物分布図 [1/2,000].....	472
第319図	秋山道跡グループ 縄文時代磨製石斧分布図 [1/2,000].....	472
第320図	秋山道跡グループ 縄文時代石錐分布図.....	

[1/2,000]	473
第321図 秋山道跡グループ 縄文時代黒曜石原石 分布図 [1/2,000]	473

第322図 秋山道跡グループ 旧石器時代遺物分布図 [1/2,000]	474
--	-----

表目次

第1表 発掘調査に関わる調整及び届出等文書.....	2
第2表 上柏屋・秋山上道跡。上柏屋・秋山道跡調査区 一覧表	6
第3表 周辺の主な道跡	10
第4表 調査工程表	27
第5表 ビア17(下り)区道構計測表	33
第6表 ビア17(下り)区ビット計測表	84
第7表 ビア17(上り)区道構計測表	85
第8表 ビア17(上り)区ビット計測表	110
第9表 ビア16(下り)区道構計測表	111
第10表 ビア16(下り)区ビット計測表	197
第11表 ビア16(上り)区道構計測表	223
第12表 ビア16(上り)区ビット計測表	318
第13表 ビア15(下り)区道構計測表	323
第14表 ビア15(下り)区ビット計測表	370
第15表 ビア15(上り)区道構計測表	371
第16表 ビア15(上り)区ビット計測表	386
第17表 ビア16道路区道構計測表	390
第18表 ベント1区道構計測表	400
第19表 ベント2区道構計測表	403
第20表 ビア14(下り)水路区道構計測表	406
第21表 近世 磁器・陶器・土器・瓦観察表	407
第22表 近世 石製品観察表	409
第23表 近世 鉄製品観察表	410
第24表 近世 銭貨観察表	410

第25表 近世 銅製品観察表	411
第26表 中世 磁器・陶器・土器観察表	411
第27表 中世 石製品観察表	411
第28表 中世 鉄製品観察表	412
第29表 中世 銭貨観察表	412
第30表 古墳時代～奈良・平安時代 土器観察表	412
第31表 奈良・平安時代 石製品観察表	418
第32表 古墳時代～奈良・平安時代 鉄製品観察表	418
第33表 縄文時代 土器観察表	419
第34表 縄文時代 土製品・骨角器観察表	431
第35表 縄文時代 石器・石製品観察表	433
第36表 旧石器時代 遺物器種・石材一覧表	440
第37表 旧石器時代 出土石器一覧表	440
第38表 分析の各種条件	444
第39表 試料のX線強度	445
第40表 試料の元素濃度	445
第41表 産地推定結果	446
第42表 J4号住居跡及びその他遺構の構成岩石種	453
第43表 黒曜石器種毎構成産地表	455
第44表 黒曜石原石計測表	458
第45表 出土の骨一覧表	461

写真図版目次

写真図版扉	裏 1. 新東名高速道路建設後の現況(東から)
図版1	1. 航空写真(東から) 2. 航空写真(東から)
図版2	航空写真(真上から)
図版3	道跡標準土層(西から)
図版4	1. J1号配石(南から) 2. J2号配石立石・石棒出土状況(南東から)
図版5	1. J4号配石(北から) 2. J6号配石(南から)
図版6	1. J4～6号配石(東から) 2. J7号配石(南から)
図版7	1. ビア17(下り)区 縄文時代上面全景、 奥ビア17(上り)区(南から) 2. 奈良・平安時代全景(南から)

図版8	1. H1号住居跡全景(南東から) 2. H1号住居跡掘り方(南東から)
図版9	1. H2・4号住居跡全景(南から) 2. H2・4号住居跡(西から)
図版10	1. H3号住居跡断面(西から) 2. H1・2号掘立柱建物跡(北から)
図版11	1. J23号土坑遺物出土状況(南から) 2. J4号配石掘り方(南から)
図版12	1. ビア17(上り)区 中世面全景(北から) 2. ローム上面全景(南西から)
図版13	1. K1号溝・C4号溝・C2段切全景(東から) 2. C17号土坑全景(西から)
図版14	1. C4号溝土層(西から) 2. C1号掘立柱建物跡(東から)

- 図版 15 1. 縄文包含層遺物出土状況 (西から)
2. 縄文土器 (j80) 出土状況 (西から)
- 図版 16 1. ビア 16 (下り) 区 調査前風景 (西から)
2. 近世～奈良・平安時代全景 (北から)
- 図版 17 1. K 7 号溝 (北から)
2. K 7 号土坑遺物出土状況 (北から)
- 図版 18 1. H 1 号住居跡 (東から)
2. 縄文時代全景 (東から)
- 図版 19 1. J 2 号住居跡 (南から)
2. J 2 号住居跡埋壊 (西から)
- 図版 20 1. J 2 号住居跡伏壊 (北から)
2. J 3 号住居跡 (南から)
- 図版 21 1. J 1 号埋設土器 (西から)
2. J 4 号埋設土器周辺焼土 (南から)
- 図版 22 1. J 16 号土坑 (東から)
2. J 3 号配石 (東から)
- 図版 23 1. 旧石器グリッド土層 (東から)
2. 旧石器時代全景 (西から)
- 図版 24 1. 旧石器時代遺物出土状況 (北から)
2. 旧石器時代槍先形尖頭器出土状況 (西から)
- 図版 25 1. ビア 16 (上り) 区 近世面全景 (東から)
2. 奈良・平安時代～古墳時代 (東から)
- 図版 26 1. H 1 号住居跡 (東から)
2. H 1 号住居跡カマド (東から)
- 図版 27 1. H 2 号住居跡 (東から)
2. H 2 号住居跡カマド周辺 (東から)
- 図版 28 1. H 3 号住居跡 (東から)
2. H 3 号住居跡地床跡 (東から)
- 図版 29 1. J 4 号住居跡全景 (南東から)
2. J 4 号住居跡掘り方 (南東から)
- 図版 30 1. J 1 号柱穴群全景 (西から)
2. J 1 号柱穴群上面遺物出土状況 (東から)
- 図版 31 1. J 2 号柱穴群全景 (南東から)
2. J 2 号柱穴群上面遺物出土状況 (南東から)
- 図版 32 1. J 87 号土坑全景 (南から)
2. J 91 号土坑全景 (西から)
- 図版 33 1. J 93 号土坑全景 (南から)
2. J 94 号土坑全景 (西から)
- 図版 34 1. J 100 号土坑全景 (南から)
2. J 109 号土坑全景 (南から)
- 図版 35 1. ビア 15 (下り) 区全景 (南から)
2. K 1 段切全景 (東から)
- 図版 36 1. K 3 号井戸 (西から)
2. K 35 号土坑 (南から)
- 図版 37 1. K 44 号土坑 (南から)
2. K 2 号畝状遺構 (西南から)
- 図版 38 1. H 1 号住居跡カマド (東から)
2. H 2 号住居跡遺物出土状況 (東から)
- 図版 39 1. ビア 15 (上り) 区 近世面全景 (東から)
2. K 1 段切畝状遺構検出状況 (東南から)
- 図版 40 1. J 1 号住居跡景 (南西から)
2. J 1 号住居跡跡址 (北から)
- 図版 41 1. ベント 1・2 区 縄文面全景 (西から)
2. K 1 号溝断面 (東から)
- 図版 42 1. 縄文時代包含層遺物出土状況 (東から)
2. 縄文時代包含層遺物出土状況 (北から)
- 図版 43 1. ベント 2 区 縄文面全景 (北から)
2. 縄文時代包含層遺物出土状況 (東から)
- 図版 44 1. ビア 16 道路区 近世全景 (東から)
2. K 1 号溝 (東から)
- 図版 45 ビア 16 (下り) 区 近世出土遺物 (1)
- 図版 46 ビア 16 (下り) 区 近世出土遺物 (2)
- 図版 47 ビア 16 (上り) 区 近世出土遺物 (3)、ビア 15 (下り) 区 近世出土遺物 (1)
- 図版 48 ビア 15 (下り) 区 近世出土遺物 (2)、ビア 15 (上り) 区、ビア 17 (上り) 区、ビア 16 道路区 近世出土遺物
- 図版 49 近世 瓦
- 図版 50 近世 石製品
- 図版 51 近世銭貨・中世銭貨出土遺物
- 図版 52 近世・中世・奈良・平安時代鉄製品及び近世銅製品
- 図版 53 ビア 17 (下り) 区 出土土器
- 図版 54 ビア 17 (下り) 区 出土土器
- 図版 55 ビア 17 (下り) 区 出土土器
- 図版 56 ビア 16 (上り) 区 出土土器
- 図版 57 ビア 16 (上り) 区 出土土器
- 図版 58 ビア 17 (上り) 区・ビア 16 (上り) 区・ビア 16 (下り) 区・ビア 15 (下り) 区・ビア 16 道路区 出土土器
- 図版 59 ビア 17 (下り) 区 出土土器
- 図版 60 ビア 17 (下り) 区 出土土器
- 図版 61 ビア 17 (上り) 区 出土土器・土製品・骨角器
- 図版 62 ビア 16 (下り) 区 J 2 号住居跡出土土器 (1)
- 図版 63 ビア 16 (下り) 区 J 2 号住居跡出土土器 (2)
- 図版 64 ビア 16 (下り) 区 J 3 号住居跡出土土器
- 図版 65 ビア 16 (下り) 区 土坑出土土器 (1)
- 図版 66 ビア 16 (下り) 区 土坑出土土器 (2)
- 図版 67 ビア 16 (下り) 区 J 2・3・4 号埋設土器
- 図版 68 ビア 16 (下り) 区 配石・焼土・ビント出土土器

- 図版 68 ビア 16（下り）区 遺構外出土土器（1）
 図版 69 ビア 16（下り）区 遺構外出土土器（2）
 図版 70 ビア 16（上り）区 J 4 号住居跡出土土器
 図版 71 ビア 16（上り）区 柱穴群・土坑出土土器（1）
 図版 72 ビア 16（上り）区 土坑出土土器（2）
 図版 73 ビア 16（上り）区 土坑出土土器（3）
 図版 74 ビア 16（上り）区 土坑出土土器（4）・
 遺構外出土遺物
 図版 75 ビア 15（下り）区 遺構外出土土器
 ビア 15（上り）区 第 1 号住居跡・遺構外出
 土土器
 図版 76 ベント 1 区 遺構外出土土器（1）
 図版 77 ベント 1 区 遺構外出土土器（2）
 ベント 2 区 遺構外出土土器
 図版 78 各地区遺構外出土土製品（土偶・土製円板・
 手捏土器）
 図版 79 ビア 17（下り）区 J 1 号配石出土石皿
 図版 80 ビア 17（下り）区 J 4 号配石出土土器
 図版 81 ビア 17（下り）区 J 2 号配石・ビット・遺
 構外出土土器
 図版 82 ビア 17（上り）区 出土土器
 図版 83 ビア 16（下り）区 J 2 号住居跡・土坑・配
 石出土土器
 図版 84 ビア 16（下り）区 遺構外出土土器（1）
 図版 85 ビア 16（下り）区 遺構外出土土器（2）
 図版 86 ビア 16（下り）区 遺構外出土土器（3）
 図版 87 ビア 16（下り）区 遺構外出土土器（4）
 図版 88 ビア 16（上り）区 遺構出土土器
 図版 89 ビア 16（上り）区 遺構出土土器
 図版 90 ビア 16（上り）区 遺構外出土土器（1）
 図版 91 ビア 16（上り）区 遺構外出土土器（2）
 図版 92 ビア 15（下り）区 遺構外出土土器
 ビア 15（上り）区 J 1 号住居跡・遺構外出
 土土器
 図版 93 ベント 1 区 遺構外出土土器
 図版 94 ベント 2 区 遺構外出土土器
 図版 95 ビア 16（下り）区 出土土器（1）B 1 上層
 図版 96 ビア 16（下り）区 出土土器（2）B 1 上層
 図版 97 ビア 16（下り）区 出土土器（3）B 1 上層
 図版 98 ビア 16（下り）区 出土土器（4）B 1 上層
 図版 99 ビア 16（下り）区 出土土器（5）B 1 上層
 図版 100 ビア 16（下り）区 出土土器（6）B 1 中層

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本報告書で報告する発掘調査は、中日本高速道路株式会社が進める新東名高速道路（法定路線名：第二東海自動車道横浜名古屋線、以下、新東名と表記）建設事業に伴うもので、秋山高架橋建設部分およびその周辺の伊勢原市秋山地区の調査である。

日本道路公団東京建設局厚木工事事務所（平成17（2005）年10月から中日本高速道路横浜支社厚木工事事務所、平成20（2008）年7月28日から中日本高速道路東京支社厚木工事事務所、以下中日本厚木工事事務所と表記）は、伊勢原市内の新東名建設に向けて、事業予定地域内の埋蔵文化財の有無を神奈川県教育委員会（以下県教委と表記）に平成11（1999）年5月25日付けで照会した。これを受けて神奈川県教育委員会教育局生涯学習文化財課（以下、県生涯学習文化財課と表記、平成22年度から教育局生涯学習部文化遺産課、以下県文化遺産課と表記）は現地調査を実施し、事業予定地域内に周知の埋蔵文化財包蔵地が存在し、また周知の埋蔵文化財包蔵地以外の範囲にも埋蔵文化財が存在する可能性が高いため、試掘調査が必要と平成11年7月15日付けで回答した。

平成17（2005）年度から、中日本厚木工事事務所と県文化遺産課の間で、事業予定地域内の試掘調査実施に係る協議が進められた。中日本厚木工事事務所から平成18（2006）年1月に西富岡地区の試掘調査の依頼を受けた県生涯学習文化財課は、事業予定地域内の試掘調査を開始した。その結果、遺構・遺物が確認されたため、本格調査が必要な旨を中日本厚木工事事務所に回答した。

試掘調査結果の回答を受け、平成19年1月10日に中日本厚木工事事務所より発掘調査の依頼がなされ、伊勢原市域の事業地における本格調査実施のために、中日本厚木工事事務所・県教委・財団法人かながわ考古学財団（平成23年度から公益財団法人かながわ考古学財団、以下財団と表記）の三者は、平成19年2月20日付けで「第二東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域埋蔵文化財調査の実施に関する協定」を締結し、平成19年4月2日から財団は伊勢原市域の事業地の発掘調査を開始した。

中日本厚木工事事務所は、秋山地区を含む新東名事業予定地について、平成19年10月12日付けで県教委に試掘調査が必要な範囲を照会した。これを受けて県生涯学習文化財課は、現地調査を実施した上で、試掘調査対象範囲を確定し、平成20年2月19日付けで回答した。

秋山地区は厚木秦野道路事業用地であったため、県生涯学習文化財課は、同事業に伴い平成20年2月、平成21年4・6・7月、平成22年11・12月に試掘調査を実施した。新東名高速道路建設事業に伴う試掘調査は、中日本厚木工事事務所から平成21年1月に試掘調査の依頼を受け、平成26年5・6月に試掘調査を実施し、厚木秦野道路事業用地で実施した試掘調査結果と合わせて、本格調査が必要な埋蔵文化財が発見されることが予測される範囲について、平成26年8月8日付けで発掘調査が必要である旨を回答した。

秋山地区の発掘調査は、平成27年4月1日から開始したが、協定変更は平成28年12月9日付け第11回の協定変更の際に、秋山地区の発掘調査を追加することになった。

これまで上粕屋地区では、北西の御伊勢ノ森遺跡、神成松遺跡などが周辺で調査されているが、秋山地区では県道603号建設に伴う発掘調査が、平成24・25年度に上粕屋・秋山上遺跡で行われたのが最初である。今回の秋山地区の調査は、調査当初は全体にかかる伊勢原市No.74遺跡糟屋館跡として文化財保護法第92

第1表 発掘調査に関わる調整及び届出等文書

文書種別・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
1 埋蔵文化財所在の有無の照会					
照会	東建厚工第401号	平成11年5月25日	事業者の長	県教育長	
回答	生文第110号	平成11年7月15日	県教育長	事業者の長	要図と回答
照会	中高横支厚工第1559号	平成19年10月12日	事業者の長	県教育長	
回答	生文第889号	平成20年2月19日	県教育長	事業者の長	試掘調査範囲の回答
2 試掘調査					
依頼	横国計第1号	平成20年1月21日	国土交通省	県教育長	
調査結果の回答	生文第917号	平成20年2月27日	県教育長	国土交通省	H20.2.8実施
依頼	横国調19号	平成20年12月8日	国土交通省	県教育長	
調査結果の回答	生文第346号	平成21年7月23日	県教育長	国土交通省	H21.4.30, 6.5・18・19実施
調査結果の回答	生文第537号	平成21年9月25日	県教育長	国土交通省	H21.7.21・22・27・28実施
依頼	横国調第35号	平成22年7月2日	国土交通省	県教育長	
調査結果の回答	生文第767号	平成23年3月23日	県教育長	国土交通省	H22.11.24・25, 12.20・27実施
依頼	中高東支厚工第111号	平成21年1月30日	事業者の長	県教育長	
調査結果の回答	文遺第334号	平成26年8月8日	県教育長	事業者の長	H26.5.1・14・27・28, 6.24・25, 7.23実施
3. 発掘調査の協定					
発掘調査の依頼	中高横支厚工第9号	平成19年1月10日	事業者の長	県教育長	
見積作成の依頼	生文第851号	平成19年1月15日	生文課長	財団理事長	
見積の回答	財考総第78号	平成19年1月26日	財団理事長	生文課長	
調査者の推薦/指定、見積の提出	生文第909号	平成19年1月30日	県教育長	事業者の長	
協定の締結(当初)		平成19年2月20日	事業者の長	財団理事長 県教育長	三者協定
発掘調査内容変更の依頼	中高東支厚工第206号	平成28年2月16日	事業者の長	県教育長	
変更見積作成の依頼	文遺第744号	平成28年2月24日	文遺課長	財団理事長	
変更見積の回答	公財考第210号	平成28年3月8日	財団理事長	文遺課長	
調査者の推薦/指定、変更見積の提出	文遺第793号	平成28年3月25日	県教育長	事業者の長	
発掘調査内容変更の依頼(再協議)	中高東支厚工第1256号	平成28年8月22日	事業者の長	県教育長	
変更見積作成の依頼	文遺第366号	平成28年9月13日	文遺課長	財団理事長	
変更見積の回答	公財考第136号	平成28年10月3日	財団理事長	文遺課長	
調査者の推薦/指定、変更見積の提出	文遺第444号	平成28年10月18日	県教育長	事業者の長	
変更協定の締結(第11回)		平成28年12月9日	事業者の長	財団理事長 県教育長	三者協定
発掘調査内容変更の依頼	中高東支厚工第1263号	平成30年12月3日	事業者の長	県教育長	
変更見積作成の依頼	文遺第2526号	平成30年12月10日	文遺課長	財団理事長	
変更見積の回答	公財考第242号	平成31年3月22日	財団理事長	文遺課長	
調査者の推薦/指定、変更見積の提出	文遺第3273号	令和元年5月7日	県教育長	事業者の長	
変更協定の締結(第12回)		令和元年6月21日	事業者の長	財団理事長 県教育長	
発掘調査内容変更の依頼	中高東支厚工第370号	令和5年8月16日	事業者の長	県教育長	
変更見積作成の依頼	文遺第1871号	令和5年8月21日	文遺課長	財団理事長	
変更見積の回答	公財考第102号	令和5年10月31日	財団理事長	文遺課長	

調査者の推薦/指定、変更見積の提出	文選第2463号	令和5年11月27日	県教育長	事業者の長	
変更協定の締結(第13回)		令和6年2月7日	事業者の長	財団理事長 県教育長	三者協定
4 発掘調査の委託契約					
契約締結(平成27年度)		平成27年4月1日	事業者の長	財団理事長	
第1回変更契約締結		平成27年6月16日	事業者の長	財団理事長	
第2回変更契約締結		平成28年3月31日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(平成28年度)		平成28年4月1日	事業者の長	財団理事長	
第1回変更契約締結		平成29年3月31日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(平成29年度)		平成29年4月1日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(平成30年度)		平成30年4月1日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(平成31・令和元年度)		平成30年4月1日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(令和2年度)		令和2年3月30日	事業者の長	財団理事長	
第1回変更契約締結		令和3年3月29日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(令和3年度)		令和3年3月29日	事業者の長	財団理事長	
第1回変更契約締結		令和4年3月31日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(令和4年度)		令和4年3月31日	事業者の長	財団理事長	
第1回変更契約締結		令和5年3月31日	事業者の長	財団理事長	
第2回変更契約締結		令和5年4月24日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(令和5年度)		令和5年3月31日	事業者の長	財団理事長	
第1回変更契約締結		令和6年3月29日	事業者の長	財団理事長	
契約締結(令和6年度)		令和6年3月31日	事業者の長	財団理事長	
5 文化財保護法第94条に基づく土木工事等の通知					
通知	中高東工第837号	平成26年6月10日	事業者の長	県教育長	伊勢原市経由
通知に対する報告	文選第61036号	平成26年6月18日	県教育長	事業者の長	伊勢原市経由
6 文化財保護法第92条に基づく発掘調査の届出					
届出(平成27年度1)	公財考第213号	平成27年2月27日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
届出に対する指示	文選第50099号	平成27年3月11日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
届出内容変更の報告(第1回)	公財考第19号	平成27年4月1日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査担当者の変更)
届出内容変更の報告(第2回)	公財考第60号	平成27年6月4日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当者の変更)
届出内容変更の報告(第3回)	公財考第215号	平成28年3月7日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当者の変更)
届出(平成27年度2)	公財考第244号	平成27年3月25日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
届出に対する指示	文選第50104号	平成27年3月31日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
届出内容変更の報告(第1回)	公財考第22号	平成27年4月1日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査担当者の変更)
届出内容変更の報告(第2回)	公財考第162号	平成28年1月28日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当者の変更)
届出内容変更の報告(第3回)	公財考第146号	平成28年10月26日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積の変更)
届出(平成28年度1)	公財考第197号	平成28年2月29日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
届出に対する指示	文選第50105号	平成28年3月10日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
届出内容変更の報告(第1回)	公財考第123号	平成28年9月30日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(土地所有者・調査面積・遺跡名・調査担当者の変更)
届出内容変更の報告(第2回)	公財考第226号	平成29年3月2日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当・調査期間の変更)
届出内容変更の報告(第3回)	公財考第159号	平成29年10月25日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積の変更)
届出(平成28年度2)	公財考第200号	平成28年2月29日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
届出に対する指示	文選第50108号	平成28年3月10日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由

届出内容変更の報告 (第1回)	公財考第240号	平成29年3月16日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当者の変更)
届出(平成29年度)	公財考第209号	平成29年2月27日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
届出に対する指示	文道第50107号	平成29年3月23日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
届出内容変更の報告 (第1回)	公財考第63号	平成29年5月29日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当者の変更)
届出内容変更の報告 (第2回)	公財考第131号	平成29年9月15日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・所在地・道路の名称・員数・調査担当者の変更)
届出内容変更の報告 (第3回)	公財考第199号	平成30年1月15日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査担当者の変更)
届出内容変更の報告 (第4回)	公財考第306号	平成30年3月29日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由(調査面積・調査期間の変更)
7 出土品の手続き					
埋蔵物発見届 (平成27年度1)		平成28年4月6日	財団理事長	伊勢原警察署長	
出土文化財保管証の提出 文化財認定と県帰属の通知	公財考第5号	平成28年4月6日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
		平成28年5月11日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
埋蔵物発見届 (平成27年度2)		平成28年4月6日	財団理事長	伊勢原警察署長	
出土文化財保管証の提出 文化財認定と県帰属の通知	公財考第4号	平成28年4月6日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
		平成28年5月2日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
埋蔵物発見届 (平成28年度1)		平成29年4月4日	財団理事長	伊勢原警察署長	
出土文化財保管証の提出 文化財認定と県帰属の通知	公財考第2号	平成29年4月4日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
		平成29年5月2日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
埋蔵物発見届 (平成28年度2)		平成29年4月4日	財団理事長	伊勢原警察署長	
出土文化財保管証の提出 文化財認定と県帰属の通知	公財考第1号	平成29年4月4日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
		平成29年5月2日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由
埋蔵物発見届 (平成29年度)		平成30年4月4日	財団理事長	伊勢原警察署長	
出土文化財保管証の提出 文化財認定と県帰属の通知	公財考第13号	平成30年4月4日	財団理事長	県教育長	伊勢原市経由
		平成30年5月17日	県教育長	財団理事長	伊勢原市経由

- ・事業者の長：日本道路公団東京建設局厚本工事事務所長(～H17年9月30日)
日本高速道路横浜支社厚本工事事務所長(～H20年7月27日)
日本高速道路東京支社厚本工事事務所長(H20年7月28日～)

- ・国土交通省：国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所長
- ・財団理事長：財団法人かながわ考古学財団理事長(～H23年3月)
公益財団法人かながわ考古学財団理事長(H23年4月～)

- ・県教育長：神奈川県教育委員会教育長
- ・生涯課長：神奈川県教育委員会教育局生涯学習文化課長(～H22年3月)
- ・文道課長：神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課長(H22年4月～)

条の発掘届出を提出していたが、調査終了に際して、市道を挟んで、西側を上粕屋・秋山上遺跡、東側を上粕屋・秋山遺跡と分けて呼称することとした。秋山地区の報告は、第1分冊が上粕屋・秋山上遺跡、第2分冊が上粕屋・秋山遺跡である。なお、上粕屋・秋山上遺跡が県道調査に続く第2次調査、上粕屋・秋山遺跡が第1次調査となる。

発掘調査に係る調整及び届出等の文書は、第1表に示した。

第2節 調査中の協議

本報告に係る「第二東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域埋蔵文化財調査の実施に関する協定」は、西富岡・向畑遺跡など伊勢原市域の広域調査の協定であり、ここでは秋山地区の遺跡に関わる部分のみ記載することとする。

財団は平成27年2月27日及び平成27年3月25日付けで文化財保護法第92条に基づく発掘調査の届出を提出した。中日本厚木工事事務所と財団で発掘調査の委託契約を平成27年4月1日付けで締結し、発掘調査を平成27年4月1日から開始した。第1分冊報告の上粕屋・秋山上遺跡第2次調査は、ピア18区とピア18道路区の調査を断続的に、平成29年1月23日に調査を終了した。

第2分冊報告の上粕屋・秋山遺跡は、平成27年度にピア17（下り）区、ピア17（上り）区、ピア16（上り）区、ピア16道路区、ピア14（下り）、ピア14（上り）、ピア13区、側道①・③～⑤を主に調査し、平成28年度にピア16（下り）（～27年）、ピア15（下り）区（～27年）、ピア15（上り）区（～27年）、ピア15（下り）水路区、ピア15（上り）水路区、ピア14（下り）水路区、側道②⑥、ベント1区を主に調査した。平成29年度はベント2区（～28年）、ベント9・12・13区を主に調査した。ピア17（下り）区とピア17（上り）区の調査を平成27年4月1日から開始し、平成28年度中に調査を完了する予定であったが、ベント地区の調査が追加となったため、平成29年12月31日まで調査を行った。

ピア18区調査時に、調査区西側について盛土が厚く積まれているため、トレンチ状に土層の確認を行ったところ、平成27年4月16日に厚さ3mの盛土下に旧表土が確認された。4月20日に県文化遺産課と協議を行い、ピア18区西半部の盛土下に遺跡が継続する可能性が高いため、盛土範囲（4000㎡以上）を調査対象とすることを確認した。その後工程会議で報告し、中日本厚木工事事務所の了承を得た。また、ピア18区北西部について、掘削深度が深く、安全上大走状の平坦面をつける必要が生じたが、調査範囲より西側は県有地（県道603号施工予定地）で一部調査未実施範囲が存在したことから、平成27年8月に三者で打合せ簿を取り交わし、調査未実施範囲については掘削時に状況を確認し埋蔵文化財が存在する場合には必要な記録を作成することとした。

調査区の名称については、当初の調査区東側調査範囲だったためピア18区としていたが、新たに拡張した範囲についてピア18（下り）区、当初の範囲をピア18（上り）区として区分した。ただし、連続した調査区だったためその後もピア18区と通称している。

縄文谷については盛土及び表土を除去して、遺構確認を行った。その後谷底まで深い深度があることが判明したため、縄文層までさらに掘り下げるためにセットバック部分を残して調査を進めることとした。そのため新東名高速道路建設事業では施工範囲一杯まで調査を行い、施工外となる範囲について安全対策としてセットバックとして残り、発掘調査はしないこととなった。このことは工程会議で報告し、中日本厚木工事事務所の了承を得た。なお、調査範囲の東側と南側の隣接地については厚木桑野道路建設事業に伴う発掘調査がその後、行われている。

また、工事用通路として掘削が必要な箇所が発生し、ピア18道路区として調査を行った。調査区東側は攪乱によってローム層上面まで削平されていた（第4図）。

ピア18区北側の用水路との境界付近の取り扱いについては、7月3日の工程会議で確認事項となった。そ

の後、中日本厚木工事事務所が用水路の管理者に確認したところ、ピア18区北側の用水路については河川法の法的制限がかかる河川ではないとの回答を得たと7月22日に中日本厚木工事事務所から連絡があった。

ピア16道路区については、橋脚等施工のために、仮設の工事用道路を設置する必要が生じたため、地盤入れ替え等で掘削が生じる範囲について、平成27年10月に三者で打合せ簿を取り交わし、発掘調査範囲に追加された。

ピア15（上り）（下り）水路区、ピア14（上り）（下り）水路区については、排水路部分の施工計画が確定したことを受け、平成27年12月に三者で打合せ簿を取り交わし、発掘調査範囲に追加された。

ベント1・2・9・12・13については、支保工設置が計画されたことから、平成28年12月に三者で打合せ簿を取り交わし、発掘調査範囲に追加された。

ピア16（下り）区は地表下約3mで旧石器時代の遺物が確認され、西側及び南側のセットバック範囲にも広がると予測されたが、新東名高速道路建設事業では施工範囲外となるため、平成29年2月に三者で打合せ簿を取り交わし、セットバック範囲の発掘調査は実施しないこととなった。なお、当該範囲については厚木茶野道路事業で埋蔵文化財に影響があるため、同事業で今後発掘調査を実施予定である。

第2表 上粕屋・秋山上遺跡、上粕屋・秋山遺跡調査区一覧表

旧調査区 No.	新調査区名	調査期間	調査面積 (㎡)
上粕屋・秋山上遺跡 (財団 333 集)			
No. 20 東	ピア 18 (上り)	平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 1 月 15 日 (8 月 1 日～1 月 15 日、10 月 1 日～12 月 15 日中断)	3290
No. 20 西	ピア 18 (下り)	平成 27 年 8 月 1 日～平成 28 年 5 月 30 日	
No. 20-2	ピア 18 道路	平成 28 年 6 月 15 日～平成 29 年 1 月 15 日 (9 月 16 日～12 月 15 日中断)	
上粕屋・秋山遺跡 調査区部分が本報告収録			
No. 21 南	ピア 17 (下り)	平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日	271
No. 21 北	ピア 17 (上り)	平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日	629
No. 22 南	ピア 16 (下り)	平成 27 年 7 月 1 日～平成 29 年 2 月 15 日 (4 月 1 日～9 月 30 日中断)	385
No. 22 北	ピア 16 (上り)	平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 (7 月 15 日～9 月 30 日中断)	385
No. 22-2	ピア 16 道路	平成 28 年 1 月 1 日～2 月 15 日	334
No. 23 南	ピア 15 (下り)	平成 27 年 8 月 1 日～平成 28 年 6 月 15 日 (1 月 1 日～3 月 31 日中断)	643
No. 23 北	ピア 15 (上り)	平成 27 年 8 月 1 日～平成 28 年 7 月 30 日 (1 月 1 日～3 月 31 日中断)	323
No. 23-2 南	ピア 15 (下り) 水路	平成 28 年 4 月 1 日～30 日	151
No. 23-2 北	ピア 15 (上り) 水路	平成 28 年 4 月 1 日～30 日	
No. 24-2 南	ピア 14 (下り) 水路	平成 28 年 4 月 1 日～30 日	
No. 24 南	ピア 14 (下り)	平成 27 年 8 月 1 日～10 月 31 日	819
No. 24 北	ピア 14 (上り)	平成 27 年 8 月 1 日～10 月 31 日	
No. 25	ピア 13	平成 27 年 6 月 16 日～7 月 31 日	792
23～25 側道①・③～⑤	側道①・③～⑤	平成 27 年 11 月 1 日～12 月 15 日 (トレンチ調査) 平成 27 年 12 月 16 日～平成 28 年 3 月 31 日	① 318 ③ 143 ④ 115 ⑤ 90
23～25 側道②	側道②	平成 27 年 6 月 16 日～7 月 31 日	792
23～25 側道⑥	側道⑥	平成 29 年 2 月 1 日～2 月 28 日	119
No. 28	ピア 10	平成 27 年 7 月 28 日～10 月 9 日	100
ベント 1	ベント 1	平成 29 年 2 月 16 日～3 月 31 日	176
ベント 2	ベント 2	平成 29 年 2 月 16 日～3 月 31 日	
ベント 2	ベント 2	平成 29 年 4 月 1 日～5 月 31 日	232
ベント 9	ベント 9	平成 29 年 4 月 1 日～5 月 31 日	
ベント 12	ベント 12	平成 29 年 9 月 16 日～12 月 31 日	169
ベント 13	ベント 13	平成 29 年 9 月 16 日～12 月 31 日	

第2章 遺跡概観

第1節 遺跡の地形と地理的環境

本遺跡が所在する伊勢原市は、北西は丹沢山地の一部である大山麓から、南は平塚市に続く平野部と、山地・丘陵・台地・平野を内包する表情豊かな地形をなしている。

上粕屋・秋山上遺跡は伊勢原市№74 遺跡として登録された範囲内に所在する(第2図)。伊勢原市№74 遺跡は、伊勢原市の中央部、小田急小田原線の伊勢原駅より北へ約1.7 km、渋田川と東名高速道路が交差する付近を中心とした、南北約1.7 km、東西約0.6 kmの広大な範囲にわたる遺跡である。周知された範囲は、渋田川と鈴川に挟まれた上粕屋扇状地内に位置する南東向き緩斜面の台地で、この部分では本件発掘調査と同一事業による、上粕屋・秋山遺跡、上粕屋・辻遺跡の発掘調査が行われている。今回の調査範囲は、台地北縁部分の北西向きの緩斜面に位置し、西側に北向きの埋没谷が存在した。北側を東西方向に流れる渋田川支流の支谷に画されている。

上粕屋・秋山遺跡は、伊勢原市№205 と重複している。周辺では今回が初めて調査を行ったため、上粕屋・秋山上遺跡とわけて、遺跡名は字名をとって「上粕屋・秋山遺跡」と呼称されたものである。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

本遺跡が所在する伊勢原市域には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が発見、報告されている(第2図、第3表)。その中でも新東名高速道路建設関連の隣接する遺跡としては、台地の北縁沿いの上粕屋・秋山遺跡があげられるほか、路線に沿ってみると、東側に上粕屋・辻遺跡、西富岡・下ノ田遺跡、西富岡・向畑遺跡、西側に上粕屋・一ノ郷遺跡、上粕屋・雷遺跡などが分布する。

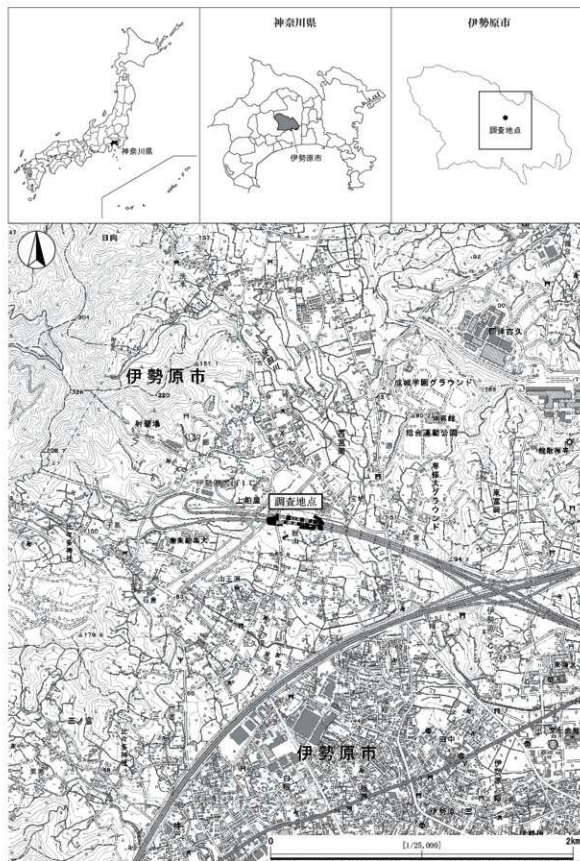
上粕屋・秋山上遺跡第1次調査は、県道603号改築工事に伴い平成25年に調査された。縄文時代の遺構は、縄文時代後期の住居跡4軒が検出されている。また、古墳時代から平安時代にかけての掘立柱建物跡を中心とする遺構が発見された。中世の遺構は、掘立柱建物跡や地下式坑などと埋納銭が検出された。近世では斜面地を段切り造成し、屋敷地を形成する。

また、市道を挟んで本遺跡と同時期に調査を行った上粕屋・秋山遺跡では、縄文時代後期の配石遺構や奈良・平安時代の住居跡などが発見された。本遺跡と上粕屋・秋山遺跡の周辺では、現在国道246号線バイパスの厚木桑野道路建設に先立つ発掘調査が行われており、さらなる遺構の広がりが確認されている。

上粕屋地区周辺では、調査事例が多く認められ、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の各時代の遺跡が分布する。

旧石器時代の遺跡は、西富岡・向畑遺跡(No.160)、西富岡・長竹遺跡(No.14)、上粕屋・秋山遺跡(No.205)などが上粕屋扇状地や富岡丘陵に分布する。

縄文時代の遺跡は、集落としては中期後半から後期中葉にかけて、継続する集落が多く、西富岡・向畑遺跡(No.160)、上粕屋・秋山遺跡(No.205)、神成松遺跡(No.74)、上粕屋・和田内遺跡(No.206)などで敷石住居を中心とする集落遺跡が見つかる。





第2図 周辺の遺跡(国土地理院地形図「伊勢原」、遺跡地図は令和3年12月31日現在) [1/25,000]

第3表 周辺の主な道路

台帳番号	道路名	立地	所在地	種別	時期	文献
伊勢原1	八幡台・宮ノ前道路	台地	伊勢原市八幡台	集落跡	縄	1
	伊勢原市No.1道路		伊勢原市八幡台、東大竹	集落跡、散布地	旧～近	
	東大竹・稲荷久保道路		伊勢原市東大竹稲荷久保	散布地	縄、古、奈～近	47-51・69
	東大竹・山王塚道路		伊勢原市東大竹山王塚	集落跡、散布地	旧、縄、奈、中	6
	東大竹・下谷戸道路		伊勢原市東大竹下谷戸	集落跡、散布地	縄、古～近	13・90
	八幡台道路		伊勢原市東大竹山王塚外	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈、中、近	2・5・13
	東大竹・八幡谷戸道路		伊勢原市東大竹八幡谷戸	集落跡、散布地	縄、古	18-23
伊勢原2	岡崎・東久保道路	台地	伊勢原市岡崎東久保	集落跡、散布地	縄、奈	17
	三ノ宮・宮前道路		伊勢原市三ノ宮宮ノ前・宮ノ上・前原	集落跡、散布地、古墳、その他の道路（歴史道路）	旧、縄、奈、古、奈、中、近	96
	三ノ宮・南原道路					42
伊勢原3	三ノ宮・宮上道路	台地	伊勢原市三ノ宮宮上	集落跡、散布地	縄	
伊勢原4	勢尾山古墳	古墳	伊勢原市坪ノ内権理山	古墳	古墳	
伊勢原5	伊勢原市No.6道路	山頂	伊勢原市日向洗水	古墳	古墳	
伊勢原6	伊勢原市No.7道路	台地	伊勢原市三ノ宮御石	散布地	縄	
伊勢原7	三ノ宮・下谷戸道路	丘陵	伊勢原市三ノ宮下谷戸	集落跡、古墳群、散布地	旧、縄、奈、古、奈、中、近	7
伊勢原8	木津根道路	丘陵	伊勢原市三ノ宮木津根	散布地、古墳	縄、古	
伊勢原9	新所谷戸道路	丘陵	伊勢原市三ノ宮新所谷戸	歴史道路	縄	
伊勢原10	西富岡・長竹道路	台地	伊勢原市西富岡	散布地	旧、縄、古、奈、中、近	16-23・79 +83-84・85
	伊勢原市No.14道路	丘陵	伊勢原市西富岡	散布地	縄、古、奈、近	19-21
伊勢原11	日向・洗田道路	台地	伊勢原市日向洗田	古墳、その他の墓（火葬墓）	古、中	
	日向・西新田原道路		伊勢原市日向西新田原	古墳、散布地	縄、古、近	
	日向・洗水道路		伊勢原市日向洗水	古墳	古	
	池端・寺久保道路		伊勢原市伊勢原一丁目	散布地	縄、平、中	
伊勢原12	池端・久保道路	丘陵	伊勢原市池端久保	集落跡、その他の墓	縄、古、奈～近	
	池端・駒形東道路		伊勢原市池端駒形	集落跡	奈	
	沼目・清水谷道路		伊勢原市沼目二丁目	集落跡、散布地	縄、古、奈、中	53
	沼目・天王塚道路		伊勢原市沼目二丁目外	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	24-54
	沼目・吹上道路群		伊勢原市沼目一丁目	散布地	縄、古、中	50
	沼目・諏訪田道路		伊勢原市沼目二丁目	集落跡	奈、中	
	池端地区道路群		伊勢原市池端	集落跡、散布地	縄、奈～近	
	伊勢原市No.16道路		伊勢原市池端、沼目	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	40
	サシ七塚周辺道路		伊勢原市日向	散布地	縄	
	三ノ宮・下尾崎道路		伊勢原市三ノ宮下尾崎、下東原	横穴墓、散布地	縄、古、中	98
伊勢原13	伊勢原市No.19道路	丘陵	伊勢原市東富岡、東富岡下刀屋	散布地	古、奈、近	
伊勢原14	伊勢原市No.22道路	丘陵	伊勢原市菅生	散布地	奈	
伊勢原15	比々多第2地区道路群	丘陵	伊勢原市坪ノ内、中塚	集落跡、散布地	縄、奈、古、奈、中、近	9
	坪ノ内・宮前道路		伊勢原市坪ノ内宮ノ前	集落跡、散布地	縄、奈、古、奈、中、近	39
	坪ノ内・坂戸道路		伊勢原市坪ノ内宮ノ前	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈	
	中塚・宮ノ前道路		伊勢原市中塚宮ノ前・後原	集落跡、横穴墓、その他の墓、散布地	縄、奈、古、奈、中、近	
	雷電神社境内道路		伊勢原市中塚宮ノ前	集落跡、散布地	縄、奈、奈	
	伊勢原市No.23道路		伊勢原市中塚、神戸、坪ノ内	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈～近	
	神戸・上原道路		伊勢原市神戸馬毛	集落跡、散布地	旧、縄、古、平、中、近	34
伊勢原16	山王塚古墳	台地	伊勢原市東大竹	古墳	古	
伊勢原17	市ノ坪古墳	丘陵	伊勢原市白根市ノ坪	古墳	古	
伊勢原18	新堀保古墳	平地	伊勢原市伊勢原四丁目	古墳	古	
伊勢原19	伊勢原市伊勢原三丁目	台地	伊勢原市伊勢原三丁目	古墳、散布地	奈、古～近	
伊勢原20	神明社古墳	台地	伊勢原市伊勢原	古墳	古	
伊勢原21	伊勢原市No.33道路	丘陵	伊勢原市白根秋所戸	集落跡	不明	
伊勢原22	伊勢原市No.34道路	台地	伊勢原市東大竹八幡谷戸	古墳	古	
伊勢原23	伊勢原市No.35道路	台地	伊勢原市東大竹八幡谷戸	古墳	古	

台帳番号	遺跡名	立地	所在地	種別	時期	文献
伊勢原 36	神明南古墳	台地	伊勢原市台帳	古墳	古	
伊勢原 37	遺集古墳	台地	伊勢原市台帳遺集	古墳	古	
伊勢原 38	神明内古墳	台地	伊勢原市台帳	古墳	古	
伊勢原 39	子基古墳群遺跡	台地	伊勢原市上柏屋、子基	古墳、集落跡、散布地	縄、古、奈、平、中、近	
伊勢原 40	三ノ宮・下原田原遺跡	台地	伊勢原市三ノ宮中田川	集落跡、その他の遺	縄、古、奈、中、近	103
	三ノ宮・下原田遺跡		伊勢原市三ノ宮下原田	散布地	平、中、近	
	上柏屋・ノ引東遺跡		伊勢原市上柏屋東ノ引	集落跡、散布地	中、近	103
	上柏屋・ノ引西遺跡		伊勢原市上柏屋西ノ引	集落跡、散布地	縄、奈、近	33
	上柏屋・ノ引南遺跡		伊勢原市上柏屋南ノ引	集落跡、散布地	中、近	103
	上柏屋・ノ引北遺跡		伊勢原市上柏屋北ノ引	城館跡、集落跡、散布地	縄、奈、中、近	33
	上柏屋・石倉中遺跡		伊勢原市上柏屋	集落跡	縄、奈、中、近	104・105・106
	上柏屋・石倉下遺跡		伊勢原市上柏屋	集落跡	縄、奈、中、近	108・109
	新道大町石倉内遺跡		伊勢原市上柏屋西ノ引	集落跡、散布地	縄、平～近	7
	白根・秋柄戸遺跡		伊勢原市白根秋柄戸	散布地	縄、中、近	
	白根・下原遺跡		伊勢原市白根下原	集落跡	縄、古、奈、中	
	白根・中屋敷遺跡		伊勢原市白根中屋敷	集落跡	古、奈	
伊勢原 41	伊勢原市 No. 40 遺跡	台地	伊勢原市白根、上柏屋、三ノ宮	散布地	縄、古、奈、中、近	107・108
	上柏屋・島崎崎遺跡		伊勢原市上柏屋島崎崎	散布地	奈	109・110・111
伊勢原 42	山王原古墳群	台地	伊勢原市上柏屋山王原	古墳	古	
伊勢原 44	野宮古墳群	台地	伊勢原市三ノ宮野宮	古墳	古	
伊勢原 45	仙母様古墳群	台地	伊勢原市三ノ宮仙母様	古墳	古	
伊勢原 46	真壁塚古墳群	山頂	伊勢原市三ノ宮宮下	古墳	古	
伊勢原 47	三ノ宮古墳群	丘陵	伊勢原市三ノ宮原田	古墳	古	
伊勢原 48	松山古墳	丘陵	伊勢原市三ノ宮	古墳	古	
伊勢原 56	上御階谷戸古墳	丘陵	伊勢原市三ノ宮	古墳	古	
伊勢原 62	半橋・豊り道古墳	台地	伊勢原市半橋	古墳	古	
伊勢原 63	宮ノ根古墳	丘陵	伊勢原市半橋	古墳	古	
伊勢原 64	経塚古墳群	台地	伊勢原市西富岡経塚	古墳	古	14
伊勢原 65	北実路部遺跡	丘陵	伊勢原市西富岡原	古墳	古	
伊勢原 66	さんせ塚古墳	丘陵	伊勢原市日向東新田原	古墳	古	
伊勢原 67	新田古墳群	台地	伊勢原市日向新田	古墳	古	
伊勢原 70	川上横穴墓群	台地	伊勢原市上柏屋川上	横穴墓	古	
伊勢原 71	弥生・上ノ台遺跡	台地	伊勢原市下柏屋	集落跡、散布地	縄、奈、奈、中、近	21・55
	下柏屋・上町並遺跡		伊勢原市下柏屋上町並	城館跡、集落跡、その他の遺	印、縄、古、中、近	13
	下柏屋・栗原遺跡		伊勢原市下柏屋栗原	散布地	縄	
	下柏屋・丸山遺跡		伊勢原市下柏屋丸山	城館跡、散布地	縄、中	44-56-57-58
	成瀬第二地区遺跡群		伊勢原市下柏屋、高森	城館跡、散布地	印、縄、奈、古、奈、中、近	10-35-44-46
	下柏屋・下町並遺跡		伊勢原市下柏屋	集落跡、散布地	縄、古	45
	東富岡・中島遺跡		伊勢原市東富岡	散布地	縄、奈、古、中、近	10-11
	栗原・林庄遺跡		伊勢原市下柏屋	集落跡、散布地	印、縄、奈、奈、中、近	
伊勢原 72	岡崎遺跡	丘陵	伊勢原市岡崎他	城館跡、散布地	縄、古、中、近	8
伊勢原 73	伊勢原市 No. 73 遺跡	丘陵	伊勢原市西富岡宝池、八幡谷戸	散布地	縄	
伊勢原 74	柏屋遺跡	台地	伊勢原市上柏屋	城館跡	中	
	神成松遺跡		伊勢原市上柏屋神成松	城館跡、集落跡、散布地	縄、奈、古、奈、中、近	15-22-36-66～68-70-72-76・88・112
	上柏屋・止遺跡		伊勢原市上柏屋止	集落跡、散布地	印、縄、古、奈、中、近	
	上柏屋・秋山上遺跡		伊勢原市上柏屋秋山の場	城館跡、集落跡、散布地	印、縄、古、平、中、近	37-69
	上柏屋・秋山遺跡		伊勢原市上柏屋秋山	集落跡、散布地	印、縄、古、奈、中、近	
伊勢原 79	伊勢原市 No. 40 遺跡	台地	伊勢原市上柏屋秋山下	集落跡、散布地	縄、中、近	
	伊勢原市 No. 40 遺跡		伊勢原市三ノ宮上竹ノ内	社寺跡	中、近	64-101
	伊勢原市 No. 40 遺跡		伊勢原市板台四丁目	集落跡、散布地	平	
伊勢原 80	伊勢原市 No. 40 遺跡	台地	伊勢原市板台一丁目	集落跡、散布地	中、近	48
	伊勢原市 No. 40 遺跡		伊勢原市板台一丁目	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	27-52・114・115

台帳番号	遺跡名	立地	所在地	種別	時期	文献
伊勢原 80	沼目・原之宿道跡	台地	伊勢原市板倉三丁目	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	41・116
伊勢原 81	東大竹・下原道跡	台地	伊勢原市板倉一丁目	集落跡、散布地	縄、中、近	49・113
伊勢原 84	伊勢原市 No.84 道跡	丘陵	伊勢原市三ノ宮中谷	散布地	奈	
伊勢原 85	伊勢原市 No.85 道跡	台地	伊勢原市西宮岡南宮崎原	散布地	近	
伊勢原 86	白根道跡	丘陵	伊勢原市白根岡田	集落跡、散布地	縄、奈、奈	
伊勢原 87	伊勢原工業団地内道跡	丘陵	伊勢原市三ノ宮、板戸、白根	集落跡	縄、奈、古、奈、中	
伊勢原 87	坪ノ内・西原道跡	丘陵	伊勢原市坪ノ内西ノ原	集落跡、散布地	古、奈、平、中、近	
伊勢原 87	坪ノ内・中谷ノ道跡	丘陵	伊勢原市坪ノ内中谷ノ岡	集落跡、散布地	不明	
伊勢原 87	坪ノ内・貝ノ窪道跡	丘陵	伊勢原市坪ノ内貝ノ窪	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈、平	99
伊勢原 92	伊勢原市 No.92 道跡	山地	伊勢原市上地尾盛久保	横穴墓	古	
伊勢原 93	伊勢原大神宮境内道跡	台地	伊勢原市伊勢原三丁目	古墳、散布地	奈、古～近	
伊勢原 94	上地屋・一ノ郷北道跡	丘陵	伊勢原市上地屋一ノ郷北	横穴墓、散布地	縄、古	
伊勢原 95	伊勢原市 No.95 道跡	台地	伊勢原市日向	古墳	古墳	
伊勢原 96	太人道跡	丘陵	伊勢原市西宮岡	散布地		7・117
伊勢原 97	伊勢原市 No.97 道跡	丘陵	伊勢原市東宮岡竹林	散布地	奈	
伊勢原 100	ラチメン古墳	台地	伊勢原市三ノ宮御所ノ谷戸	古墳	古	4
伊勢原 103	伊勢原市 No.103 道跡	丘陵	伊勢原市上地屋一ノ郷北	横穴墓群	古	
伊勢原 104	下平間・大原道跡	丘陵	伊勢原市下平間長久保	散布地	古	
伊勢原 107	伊勢原市 No.107 道跡	丘陵	伊勢原市笠窪	散布地	奈	
伊勢原 108	伊勢原市 No.108 道跡	丘陵	伊勢原市笠窪	散布地	奈	
伊勢原 109	笠窪・谷戸道跡	丘陵	伊勢原市笠窪	散布地、集落跡	縄、奈、古、中	
伊勢原 110	伊勢原市 No.110 道跡	丘陵	伊勢原市市境西河内	散布地	奈	
伊勢原 111	板戸・精進道跡	丘陵	伊勢原市板戸精進橋	集落跡、散布地	縄、奈、中、近	118
	板戸・中谷ノ道跡		伊勢原市板戸中谷ノ	集落跡	古、奈、中、近	
	殿村道跡		伊勢原市板戸殿村	散布地	古、平、中、近	7・97
	板戸・大原道跡		伊勢原市板戸大原	集落跡、散布地	不明	
	伊勢原市 No.111 道跡		伊勢原市板戸	集落跡、散布地	縄、古、奈～近	
伊勢原 112	伊勢原・南園道跡	台地	伊勢原市伊勢原二丁目	集落跡、散布地	奈、中～近代	26
	伊勢原・北園道跡		伊勢原市伊勢原三丁目	散布地	古、平、中～近代	119
	伊勢原 No.112 道跡		伊勢原市伊勢原三丁目他	集落跡、散布地	古～近代	
伊勢原 115	伊勢原市 No.115 道跡	丘陵	伊勢原市串橋登道	散布地	奈	
伊勢原 116	伊勢原市 No.116 道跡	丘陵	伊勢原市串橋木ノ元	散布地	奈	
伊勢原 117	神戸・木下道跡	台地	伊勢原市神戸木下	集落跡、散布地	奈、中、近	
伊勢原 119	伊勢原一丁目道跡	台地	伊勢原市伊勢原一丁目	集落跡、散布地	平	
伊勢原 123	子基・大坪道跡	台地	伊勢原市子基大坪他	集落跡、散布地、横穴墓、比等跡	縄、奈、古、奈、平、中、近	100
	子基・町家裏道跡					100
伊勢原 124	板戸・八雲殿道跡	台地	伊勢原市板戸八雲殿	集落跡、散布地	縄、奈	120
	板戸・宮ノ内道跡		伊勢原市板戸	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	121
	伊勢原市 No.124 道跡		伊勢原市板戸八雲殿	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	
伊勢原 125	伊勢原市 No.125 道跡	台地	伊勢原市上地屋東ノ引	散布地	不明	
伊勢原 127	伊勢原市 No.127 道跡	丘陵	伊勢原市板倉谷戸	散布地	不明	
伊勢原 128	田中・梨原道跡	平地	伊勢原市三丁目田中梨原	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈、中、近	
	横土橋道跡		伊勢原市上地屋横土橋他ノ上柏三本松他	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈、中、近	29
	田中・酒林道跡		伊勢原市田中、伊勢原四丁目	集落跡、散布地	縄、古、奈	
	田中・第六天路跡		伊勢原市伊勢原四丁目	集落跡、散布地	縄、古、奈	65・94・95
	田中・天神坂道跡		伊勢原市田中天神南	集落跡、散布地	古、奈	
	田中・島井戸道跡		伊勢原市田中、伊勢原三丁目	集落跡、散布地	奈	
	田中・方代道跡		伊勢原市田中方代	集落跡、散布地	縄、奈、古、奈、中、近	43
	田中・向原道跡		伊勢原市田中向原	集落跡、散布地	平、中、近	123
	上柏屋・川上西道跡		伊勢原市上柏屋川上	集落跡、散布地	縄、近	28
	上柏屋・二本松道跡		伊勢原市上柏屋二本松	集落跡、散布地	旧、縄、古、奈	28・32・93
伊勢原 128	上柏屋団地内道跡	平地	伊勢原市上柏屋	集落跡、散布地	縄、奈、中、近	25
	伊勢原市 No.128 道跡		伊勢原市伊勢原三丁目、田中、上柏屋	集落跡、散布地	旧、縄、奈、古、奈、中、近	29

台帳番号	遺跡名	立地	所在地	種別	時期	文献
伊勢原 129	伊勢原市№.129 遺跡	丘陵	伊勢原市三ノ宮中尾崎	横穴墓群	古	
伊勢原 130	東富岡・西之窪遺跡	丘陵	伊勢原市東富岡	集落跡、散布地	平、中	61
伊勢原 131	伊勢原市№.131 遺跡	台地	伊勢原市上地屋横止橋	古墳	縄、古、森、中、近	
伊勢原 132	上柏屋・一ノ瀬上遺跡	台地	伊勢原市上地屋三本松	集落跡、散布地	縄、縄、古、森、近	62・87
伊勢原 133	伊勢原市№.133 遺跡	台地	伊勢原市上地屋横止橋	古墳	古	
伊勢原 134	伊勢原市№.134 遺跡	丘陵	伊勢原市市街	古墳	古	
伊勢原 135	伊勢原市№.135 遺跡	丘陵	伊勢原市東富岡田切、西ノ谷	散布地	森	
伊勢原 136	東富岡・杉戸遺跡	丘陵	伊勢原市東富岡太窪	集落跡	縄、森、近	27
伊勢原 137	伊勢原市№.137 遺跡	丘陵	伊勢原市東富岡西園	散布地	森	
伊勢原 138	上柏屋・香々久保遺跡	丘陵	伊勢原市上地屋地先	散布地	縄、森、森、平	62
伊勢原 147	伊勢原市№.147 遺跡	畑地	伊勢原市子島大坪他	横穴墓	古	
伊勢原 148	伊勢原市№.148 遺跡	台地	伊勢原市三ノ宮竹ノ内	散布地	縄	
伊勢原 150	伊勢原市№.150 遺跡	台地	伊勢原市東大竹	その他の遺跡（塚）	不明	
伊勢原 152	伊勢原市№.152 遺跡	台地	伊勢原市日向新田	古墳	古	
伊勢原 153	東富岡・東之窪遺跡	丘陵	伊勢原市東富岡	集落跡	縄、中、近	86
伊勢原 156	新伊勢森遺跡	台地	伊勢原市上地屋新伊勢ノ森	城館跡、集落跡、散布地	縄、森、平、中	3
伊勢原 157	伊勢原市№.157 遺跡	台地	伊勢原市上地屋北久保	散布地	縄	
伊勢原 158	伊勢原市№.158 遺跡	台地	伊勢原市日向上堤	散布地	縄	
伊勢原 159	経西原遺跡	丘陵	伊勢原市西富岡	散布地	縄	
伊勢原 160	上柏屋・川上遺跡	丘陵	伊勢原市上地屋川上	集落跡、散布地	縄、縄、古、森、近	28
	下柏屋・赤井地区遺跡群		伊勢原市下柏屋赤井	集落跡、散布地	縄、古、森、中、近	
	東富岡・北ノ隈遺跡		伊勢原市東富岡北三間	集落跡、横穴墓	縄、古、森、中、近	28・61・86
	東富岡・南三間遺跡		伊勢原市東富岡北三間他	集落跡、散布地	縄～近	61・86
	西富岡・外堀遺跡		伊勢原市西富岡外堀	集落跡	縄、縄、森	
	西富岡・内堀遺跡		伊勢原市西富岡内堀	集落跡	縄、森、中、近	59・63
伊勢原 161	伊勢原市№.160 遺跡	台地	伊勢原市西富岡	散布地	縄、森、近	19・38
伊勢原 161	伊勢原市№.161 遺跡		伊勢原市上地屋新伊勢ノ森	横穴墓	古、中、近	
伊勢原 163	伊勢原市№.163 遺跡	台地	伊勢原市上地屋	その他の遺跡（道）	中、近	
伊勢原 164	成瀬第二地区遺跡群	台地	伊勢原市下柏屋、高森	集落跡、城館跡	縄～近	40・42
	高森・馬場遺跡		伊勢原市高森馬場	散布地	縄、縄	
伊勢原 165	伊勢原市№.165 遺跡	台地	伊勢原市高森林	散布地	古	
伊勢原 166	伊勢原市№.166 遺跡	丘陵	伊勢原市三ノ宮竹ノ内	社寺跡	近	101・102
伊勢原 167	上柏屋・小山遺跡	丘陵	伊勢原市上地屋小山	城館跡、散布地	縄、森、中、近	103
	伊勢原市№.167 遺跡		伊勢原市上地屋東峰基	城館跡、散布地	縄、古、中	
伊勢原 168	伊勢原市№.168 遺跡	丘陵	伊勢原市坪ノ内宮宿	散布地	縄、古、森、平	
伊勢原 169	上柏屋・雷遺跡	台地	伊勢原市上地屋	散布地	縄、森、中、近	34
	池端・寺久保遺跡		伊勢原市伊勢原一丁目	散布地	縄、平、中	
	池端・坂戸遺跡		伊勢原市伊勢原四丁目	集落跡、散布地	縄、森、中、近	
	池端・猪山遺跡		伊勢原市池端猪山	集落跡、散布地	縄、古、森	
	沼目・坂戸遺跡		伊勢原市伊勢原四丁目	散布地	縄、縄	
	池端・駒形遺跡		伊勢原市池端駒形他	集落跡、散布地	縄、縄、森、古、森～中	30
伊勢原 170	池端・金山遺跡	台地	伊勢原市伊勢原一丁目	集落跡	縄、森、中	
	伊勢原市№.170 遺跡		伊勢原市池端、伊勢原	集落跡、散布地	縄、森、森、古、森～中	
伊勢原 171	西富岡・中島遺跡	低地	伊勢原市西富岡	集落跡、散布地	中	80・85
伊勢原 173	伊勢原市№.173 遺跡	丘陵	伊勢原市三ノ宮下瀬所ノ谷	散布地	森、古、森、平、中、近	
	東大竹遺跡群		伊勢原市東大竹	集落跡、散布地	縄、古、森	124
伊勢原 175	東大竹・市街遺跡群	台地	伊勢原市東大竹市街	集落跡、散布地	縄、古、森、中、近	12・125
	東大竹・堂田遺跡		伊勢原市東大竹	集落跡	縄、古～中	
	伊勢原市№.175 遺跡		伊勢原市東大竹	集落跡、散布地	縄、古、森、中、近	
伊勢原 177	伊勢原市№.177 遺跡	台地	伊勢原市東大竹堂田	散布地	縄	
伊勢原 178	東大竹・上谷戸遺跡	台地	伊勢原市東大竹上谷戸	散布地	縄、古、森、中、近	91・92
	伊勢原市№.178 遺跡		伊勢原市東大竹上谷戸他	散布地	森	113

台帳番号	遺跡名	立地	所在地	種別	時期	文献
伊勢部 179	伊勢部市 No. 179 遺跡	台地	伊勢部市三ノ宮宝地	集落跡	縄、古、奈、中	91-92
伊勢部 183	太郎塚古墳	台地	伊勢部市坂戸	古墳	古	
伊勢部 186	伊勢部市 No. 186 遺跡	台地	伊勢部市三ノ宮権現堂	散布地	縄	
伊勢部 192	伊勢部市 No. 192 遺跡	台地	伊勢部市上船屋西ノ引	古墳	古	
伊勢部 194	新院原遺跡群	台地	伊勢部市上船屋西ノ引	古墳	古	
伊勢部 195	上船屋・上尾崎遺跡	台地	伊勢部市上船屋上尾崎	集落跡、散布地	旧、縄、奈、中、近、古	33
	伊勢部市 No. 195 遺跡		伊勢部市上船屋上尾崎	散布地	縄、奈	
伊勢部 200	伊勢部市 No. 200 遺跡	台地	伊勢部市上船屋神成池	城郭跡、集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	112
伊勢部 201	伊勢部市 No. 201 遺跡	台地	伊勢部市上船屋久保上	散布地	奈	
伊勢部 202	伊勢部市 No. 202 遺跡	台地	伊勢部市上船屋久保上、辻東、上尾崎	散布地	奈	
伊勢部 203	伊勢部市 No. 203 遺跡	台地	伊勢部市上船屋辻	古墳	古	
伊勢部 204	伊勢部市 No. 204 遺跡	台地	伊勢部市上船屋の場	古墳	古	
伊勢部 205	上船屋・秋山上遺跡	台地	伊勢部市上船屋秋山の場	城郭跡、集落跡、散布地	旧、縄、古、平、中、近	37-69
	上船屋・秋山遺跡		伊勢部市上船屋秋山	集落跡、散布地	旧、縄、古、奈、中、近	
	上船屋・秋山下遺跡		伊勢部市上船屋秋山下	集落跡、散布地	縄、中、近	
伊勢部 206	上船屋・和田内遺跡	台地	伊勢部市上船屋和田内、一ノ郷	集落跡、散布地	縄、古、奈、中、近	71-74・75・77-78
	上船屋・一之瀬内遺跡		伊勢部市上船屋和田内、一ノ郷	集落跡、散布地	旧、縄、古、奈、中、近	75-87
伊勢部 208	伊勢部市 No. 208 遺跡	台地	伊勢部市西富岡	散布地	縄、奈、奈	
伊勢部 210	伊勢部市 No. 210 遺跡	丘陵	伊勢部市上船屋中丸	集落跡	縄	
伊勢部 211	伊勢部市 No. 211 遺跡	丘陵	伊勢部市上船屋中丸	古墳	古	
伊勢部 212	西富岡・中島2遺跡	台地	伊勢部市西富岡中島	散布地	縄	81-85
伊勢部 213	伊勢部市 No. 213 遺跡	丘陵	伊勢部市西富岡経西原	散布地	縄、中	
伊勢部 214	伊勢部市 No. 214 遺跡	丘陵	伊勢部市日向新田	狩猟場	縄	
伊勢部 215	日向新田遺跡	台地	伊勢部市日向新田	散布地	旧、縄、古、奈、中、近	
伊勢部 216	伊勢部市 No. 216 遺跡	台地	伊勢部市西富岡八幡谷戸	散布地	縄、奈	
伊勢部 217	伊勢部市 No. 217 遺跡	台地	伊勢部市日向洗水、南新田	散布地	縄	
伊勢部 218	伊勢部市 No. 218 遺跡	台地	伊勢部市日向新田、下原田、西富岡八幡谷戸	散布地	縄	
伊勢部 219	伊勢部市 No. 219 遺跡	台地	伊勢部市日向村古	古墳	古	
伊勢部 220	伊勢部市 No. 220 遺跡	台地	伊勢部市日向洗水	古墳	古	
伊勢部 221	伊勢部市 No. 221 遺跡	山地	伊勢部市日向洗水	横穴墓	古	
伊勢部 222	伊勢部市 No. 222 遺跡	台地	伊勢部市日向洗水	散布地	奈	
伊勢部 226	伊勢部市 No. 226 遺跡	台地	伊勢部市日向東新田	古墳	古	
伊勢部 229	伊勢部市 No. 229 遺跡	台地	伊勢部市日向土堤	散布地	縄	
伊勢部 230	伊勢部市 No. 230 遺跡	散乱地	伊勢部市日向土堤、西富岡北光寺原	散布地	縄、奈	
伊勢部 231	伊勢部市 No. 231 遺跡	丘陵	伊勢部市西富岡北光寺原	古墳	古	
伊勢部 232	伊勢部市 No. 232 遺跡	丘陵	伊勢部市西富岡後谷戸	散布地	縄	
伊勢部 240	伊勢部市 No. 240 遺跡	台地	伊勢部市神戸新井新工所	古墳	古	
伊勢部 250	伊勢部市 No. 250 遺跡	台地	伊勢部市坪ノ内貝ノ窪	古墳	古	
伊勢部 251	伊勢部市 No. 251 遺跡	丘陵	伊勢部市坪ノ内谷戸岡	古墳	古	
厚木 67	厚木市 No. 67 遺跡	丘陵	厚木市岡津古久宮ノ南	散布地	縄、古、奈、中、平	
厚木 68	厚木市 No. 68 遺跡	丘陵	厚木市岡津古久宮ノ南	散布地	奈、平	89
厚木 69	厚木市 No. 69 遺跡	丘陵	厚木市小野中城	集落跡、散布地	縄、奈	
厚木 70	七沢久保屋敷遺跡	丘陵	厚木市小野天台、久保	散布地	縄	
厚木 71	厚木市 No. 71 遺跡	丘陵	厚木市岡津古久宮ノ下	散布地	奈、奈、平	89
厚木 72	久保屋敷遺跡	丘陵	厚木市七沢久保屋敷	散布地	縄	
厚木 118	厚木市 No. 118 遺跡	丘陵	厚木市小野島尻、公所	集落跡、散布地	縄、平、中	
厚木 125	厚木市 No. 125 遺跡	丘陵	厚木市小野寺野、島尻	古墳	古	
厚木 126	厚木市 No. 126 遺跡	丘陵	厚木市小野中城	散布地	奈、平	
厚木 127	厚木市 No. 127 遺跡	丘陵	厚木市小野横谷	古墳	古	
厚木 212	七沢・更崎原古墳群	丘陵	厚木市小野横谷	古墳	古	

時期略称：旧：旧石器時代、縄：縄文時代、奈：弥生時代、古：古墳時代、奈：奈良時代、平：平安時代、中：中世、近：近世

弥生時代から古墳時代の初頭の遺跡としては、同じ上粕屋扇状地では、神成松遺跡 (No. 74) から集落が見つかっていて、富岡丘陵東側に立地する栗窪・林窪遺跡 (No. 71) から集落が検出されている。

古墳は、西富岡に所在する鏡塚古墳周辺の古墳群 (No. 64) と川上横穴墓群 (No. 70)、東富岡・北三間遺跡 (No. 160) の横穴墓群などが点在する。集落は、上粕屋・秋山遺跡 (No. 205)、上粕屋・辻遺跡 (No. 74)、東富岡・北三間遺跡 (No. 160) などで数軒程度で構成される小規模集落が検出されている。

奈良・平安時代になると集落が急増し、西富岡・向畑遺跡 (No. 160) では、和同開珎や帯金具の出土から古代大住郡の主要な遺跡と推定される。上粕屋・和田内遺跡からは大型掘立柱建物を伴う集落が発見された。

中世の遺跡は、東名高速道路改築工事に伴い平成2～3年に調査された上粕屋・ノ引北遺跡 (No. 40) からは13世紀後半～14世紀前半の船載陶磁器が出土し、一辺50m以上の堀に囲まれた館跡の一部が報告されている。館跡のみならず寺院の可能性も想定され、「糟屋荘政所」の可能性のある遺跡と報告されている。南に隣接する神成松遺跡 (No. 74) からは既に推定されている掘立柱建物跡が発見された。上粕屋・和田内遺跡 (No. 206) では、平場造成により作られた中世墓が2箇所検出された。この一帯は極楽寺領域内に比定され、「(伝) 糟屋一族の墓」の伝承がある。C1号中世墓は掘り込みを伴うもので、瀬美窯産の蔵骨器が出土する。周辺には五輪塔・宝篋印塔が散在しており、13～15世紀の年代が与えられている。なお、近くからは13世紀後半に構築された石組遺構が検出され、寺院に伴う湯屋の存在などが指摘されている。中世の集落や館跡が、伊勢原の丘陵部から上粕屋扇状地にかけて、集中して発見された。

近世になると、平場造成のための段切が行われたり、地下式坑が発見される遺跡が見られる。上粕屋・秋山上遺跡第1次調査でも縄文谷により形成された凹地周辺で17世紀代に最初の平場造成が行われている。

参考文献

1. 石野珠 1934 「相模国八幡台石器時代住居群調査報告」『史前学雑誌』6-1
2. 伊勢原市八幡台遺跡調査団 1979 『八幡台遺跡 神奈川県伊勢原市八幡台敷石住居遺跡調査報告書』
3. 御伊勢森中世遺跡発掘調査委員会 1979 『御伊勢森遺跡 (傳上杉定正館址) の調査』
4. 神奈川県史編纂室 1979 『神奈川県史』資料編20 考古資料
5. 神奈川県教育委員会編 1983 神奈川県埋蔵文化財調査報告 25
6. 神奈川県教育委員会編 1984 神奈川県埋蔵文化財調査報告 26
7. 県道大句石倉線内遺跡発掘調査団 1995 『神奈川県伊勢原市都市計画道路県道大句石倉線内遺跡』
8. 伊勢原市教育委員会 1985 『相模岡崎域跡総合調査報告書』
9. 伊勢原市教育委員会 1987 『比々多第二地区遺跡群詳細分布調査報告書』
10. 伊勢原市教育委員会 1987 『東富岡地区遺跡群』
11. 東海大学校地内遺跡調査団 1990 『中島遺跡分布確認調査報告』東海大学校地内遺跡調査団報告 1
12. 東大竹・市場遺跡発掘調査団 1990 『東大竹・市場遺跡 (No. 129)』
13. 神奈川県教育委員会編 1991 神奈川県埋蔵文化財調査報告 33
14. 伊勢原市教育委員会 1991 『鏡塚古墳群第1号墳発掘調査報告書』伊勢原市文化財調査報告書第16集
15. 神奈川県教育委員会編 1992 神奈川県埋蔵文化財調査報告 34
16. 上粕屋厚木線発掘調査団 1992 『神奈川県伊勢原市長竹遺跡』
17. 神奈川県教育委員会編 1993 神奈川県埋蔵文化財調査報告 35
18. 八幡谷戸遺跡調査団 1994 『神奈川県伊勢原市八幡谷戸遺跡』

19. 一般県道上粕屋厚木線埋蔵文化財発掘調査団 1994『県道上粕屋厚木線交通安全施設等整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 伊勢原市 No.14 道跡 伊勢原市 160 道跡』
20. 神奈川県教育委員会編 1994 神奈川県埋蔵文化財調査報告 36
21. 東海大学校地内遺跡調査委員会 1995『伊勢原市下粕屋弥杉・上ノ台道跡』
22. 神成松道跡発掘調査団 1995『神成松道跡発掘調査報告書』
23. 神奈川県教育委員会編 1995 神奈川県埋蔵文化財調査報告 37
24. 天王原道跡(Ⅲ)発掘調査団 1996『伊勢原市天王原道跡発掘調査報告書-第3地点-』
25. 伊勢原市上粕屋団地内道跡調査団 1996『神奈川県伊勢原市伊勢原上粕屋団地内道跡』
26. 神奈川県教育委員会編 1996 神奈川県埋蔵文化財調査報告 38
27. 神奈川県教育委員会 1997『板台一丁目V (No. 80) 他』神奈川県埋蔵文化財調査報告 39
28. (財)かながわ考古学財団 1998『東富岡・杉戸道跡 (No. 38) 東富岡・北三間道跡 (No. 4) 上粕屋・川上道跡 (No. 5・6) 上粕屋・三本松道跡 (No. 7) 上粕屋・川上西道跡 (No. 8)』かながわ考古学財団調査報告 34
29. 伊勢原市 No. 128 道跡調査団 1998『神奈川県伊勢原市味止橋道跡県道 63 号(相模原大磯線) 道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』
30. 神奈川県教育委員会編 1998 神奈川県埋蔵文化財調査報告 40
31. (財)かながわ考古学財団 1999『三ノ宮・下谷戸道跡 (No. 14) I』かながわ考古学財団調査報告 55
32. 上粕屋・三本松道跡調査団 1999『神奈川県伊勢原市上粕屋・三本松道跡 市営三本松住宅建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』
33. (財)かながわ考古学財団 1999『上粕屋・上尾崎道跡 (No. 10)、上粕屋ヰ引北道跡 (No. 11)、上粕屋・ヰ引西道跡 (No. 12 東)』かながわ考古学財団調査報告 56
34. (財)かながわ考古学財団 1999『神戸・上宿道跡 (No. 15)』かながわ考古学財団調査報告 57
35. 成瀬第二地区道跡調査会 1999『神奈川県伊勢原市成瀬第二地区道跡群高森地区発掘調査報告書』
36. 粕上原土地地区画整理事業区域内道跡埋蔵文化財発掘調査団 1999『神奈川県伊勢原市粕上原道跡発掘調査報告書』
37. 神奈川県教育委員会編 1999 神奈川県埋蔵文化財調査報告 41
38. 伊勢原市 No. 160 道跡調査団 2000『伊勢原市 No. 160 道跡発掘調査報告書 県道 63 号(相模原大磯線) 道路改良工事に伴う事前調査』
39. (財)かながわ考古学財団 2000『坪ノ内・宮ノ前道跡』かながわ考古学財団 77
40. 池端地区道跡群発掘調査団 2000『神奈川県伊勢原市池端地区道跡群発掘調査報告書』
41. 沼目原之宿道跡発掘調査団 2000『神奈川県伊勢原市原之宿道跡発掘調査報告書』
42. 神奈川県教育委員会 2000『三ノ宮・宮ノ上道跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告 42
43. (財)かながわ考古学財団 2001『田中・万代道跡』かながわ考古学財団調査報告 103
44. 成瀬第二地区道跡調査会・都市整備公団 2001『神奈川県伊勢原市成瀬第二地区道跡群下粕屋C地区第2・3地点発掘調査報告書』
45. (財)かながわ考古学財団 2001『下糟屋・下町並道跡』かながわ考古学財団調査報告 108
46. 成瀬第二地区道跡調査会・都市整備公団 2002『神奈川県伊勢原市成瀬第二地区道跡群下粕屋C地区第1地点 下糟屋D地区 丸山E地区発掘調査報告書』
47. 東大竹稲荷久保道跡発掘調査団 2002『稲荷久保道跡発掘調査報告書』
48. (有)鎌倉道跡調査会 2002『神奈川県伊勢原市牛塚下原線道跡発掘調査報告書』鎌倉道跡調査会調査報告第26集
49. (株)王川文化財研究所 2004『神奈川県伊勢原市東大竹下原道跡第2地点発掘報告書』
50. (株)王川文化財研究所 2004『神奈川県伊勢原市沼目吹上道跡発掘調査報告書』
51. (株)日本宗業史研究所 2006『神奈川県伊勢原市稲荷久保道跡第Ⅲ地点3・4調査』日本宗業史研究所報告第68冊

52. (株) 玉川文化財研究所 2008『神奈川県伊勢原市板台一丁目遺跡第Ⅷ地点発掘調査報告書』
53. (株) 玉川文化財研究所 2007『神奈川県伊勢原市沼目・清水谷遺跡第3地点発掘調査報告書』
54. (株) 玉川文化財研究所 2008『神奈川県伊勢原市沼目・天王原遺跡第Ⅺ地点発掘調査報告書』
55. 東海大学校地内遺跡調査委員会 2009『伊勢原市下粕屋上ノ台遺跡』
56. (株) 玉川文化財研究所 2009『神奈川県伊勢原市丸山遺跡第Ⅳ地点発掘調査報告書』
57. (株) 玉川文化財研究所 2010『伊勢原市丸山遺跡第5地点発掘調査報告書』
58. (財) かながわ考古学財団 2010『下粕屋・丸山遺跡(第6地点)』かながわ考古学財団調査報告 260
59. (株) 日本窯業史研究所 2010『西富岡・向畑遺跡第2地点』日本窯業史研究所報告第73冊
60. (株) 日本窯業史研究所 2011『稲荷久保遺跡第4地点』日本窯業史研究所報告第75冊
61. (公財) かながわ考古学財団 2013『東富岡・西之窪遺跡 東富岡・南三間遺跡 東富岡・北三間遺跡第2地点』かながわ考古学財団調査報告 290
62. (公財) かながわ考古学財団 2013『上粕屋・香々久保遺跡 上粕屋・一ノ郷上遺跡』かながわ考古学財団調査報告 291
63. (公財) かながわ考古学財団 2014『西富岡・向畑遺跡Ⅰ』かながわ考古学財団調査報告 298
64. 大成エンジニアリング 2013『浄業寺跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 17
65. 伊勢原市・(株) 玉川文化財研究所 2014『神奈川県伊勢原市田中・第六天遺跡第2地点発掘調査報告書』
66. (株) 玉川文化財研究所 2014『神成松遺跡第4地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 20
67. (株) バスコ 2014『神成松遺跡第5地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 23
68. (株) 吾妻考古学研究所 2014『神成松遺跡第3地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 25
69. (株) バスコ 2015『上粕屋・秋山上遺跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 29
70. (株) 玉川文化財研究所 2015『神成松遺跡第7地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 30
71. (公財) かながわ考古学財団 2015『上粕屋・和田内遺跡第3次調査』かながわ考古学財団調査報告 308
72. 大成エンジニアリング(株) 2016『神成松遺跡第6地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 39
73. (株) 玉川文化財研究所 2016『西富岡・長竹遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 42
74. (株) バスコ 2016『上粕屋・和田内遺跡第5次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告 47
75. (公財) かながわ考古学財団 2016『上粕屋・一ノ郷南遺跡、上粕屋・和田内遺跡』かながわ考古学財団調査報告 312
76. (株) アーク・フィールドワークシステム 2016『神成松遺跡第9地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 51
77. (株) 玉川文化財研究所 2017『上粕屋・和田内遺跡第7次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告 53
78. 国際文化財(株) 2017『上粕屋・和田内遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 40
79. 国際文化財(株) 2017『西富岡・長竹遺跡第4次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 56
80. (株) 玉川文化財研究所 2018『西富岡・中島遺跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 61
81. 国際文化財(株) 2018『西富岡・中島2遺跡第1次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 67
82. (株) 玉川文化財研究所 2018『沼目・原之宿遺跡第2地点発掘調査報告書』
83. (株) 玉川文化財研究所 2019『西富岡・長竹遺跡第5次調査、上粕屋・石倉下遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 72
84. (株) 玉川文化財研究所 2019『西富岡・長竹遺跡第3次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 74
85. (株) バスコ 2020『西富岡・中島遺跡第3次調査 西富岡・中島2遺跡第4次調査 西富岡・長竹遺跡第6次調査 西富岡・長竹2遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 78
86. (公財) かながわ考古学財団 2021『東富岡・南三間遺跡第2次調査、東富岡・北三間遺跡第3地点、東富岡・東之窪遺跡』かながわ考古学財団調査報告 322
87. (公財) かながわ考古学財団 2022『上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査 上粕屋・雷遺跡 上粕屋・一ノ郷南遺跡第2次調査』かながわ考古学財団調査報告 328

88. (公財) かながわ考古学財団 2022『神成松道跡第8地点Ⅰ』かながわ考古学財団調査報告 331
89. 厚木市史編纂室 1998『厚木市史』古代資料編(2)
90. (株) 玉川文化財研究所 2008『東大竹・下谷戸(八幡台) 道跡発掘調査報告書』
91. 東大竹上谷戸道跡第Ⅱ地点発掘調査団 2003『東大竹上谷戸道跡第2地点発掘調査報告書』
92. 日本窯業史研究所 2007『東大竹・上谷戸道跡第Ⅲ地点』
93. 伊勢原市内道跡調査団 2001『上粕屋・三本松道跡第2次調査発掘調査報告書』
94. 伊勢原市・(株) 玉川文化財研究所 2015『田中・第六天道跡第3地点発掘調査報告書』
95. 伊勢原市・(株) 玉川文化財研究所 2016『田中・第六天道跡第4地点発掘調査報告書』
96. (株) 玉川文化財研究所 2016『三ノ宮・前畑道跡第2地点発掘調査報告書』
97. 殿村道跡発掘調査団 1989『殿村道跡』
98. 伊勢原市教育委員会 1995『三ノ宮・下尾崎道跡、三ノ宮・上栗原道跡発掘調査報告書一横穴墓群の調査一』
99. (財) かながわ考古学財団 2000『坪ノ内・貝ヶ窪道跡 (No. 18・19・43) 笠窪・谷戸道跡 (No. 20・42)』かながわ考古学財団調査報告 67
100. (公財) かながわ考古学財団 2013『子易・大坪道跡 子易・町屋裏道跡』かながわ考古学財団調査報告 292
101. 大成エンジニアリング (株) 2016『浄業寺跡第2次調査 三ノ宮・上竹ノ内道跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 38
102. 大成エンジニアリング (株) 2018『三ノ宮・上竹ノ内道跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 64
103. (財) かながわ考古学財団 1999『上粕屋・小山道跡 (No. 9・39) 三ノ宮・下御領原道跡 (No. 12 西) 上粕屋・八引東道跡 (No. 40) 上粕屋・八引南道跡 (No. 41)』かながわ考古学財団調査報告 52
104. (公財) かながわ考古学財団 2013『上粕屋・石倉中道跡』かながわ考古学財団調査報告 294
105. (株) パスコ 2017『上粕屋・石倉中道跡第3次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 57
106. (株) パスコ 2017『上粕屋・石倉中道跡第4次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 58
107. (株) 玉川文化財研究所 2018『上粕屋・石倉下道跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 63
108. 国際文化財 (株) 2019『上粕屋・石倉下道跡第3次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 75
109. 大成エンジニアリング (株) 2014『上粕屋・鳥居崎道跡』道跡神奈川埋蔵文化財発掘調査報告書 21
110. (株) パスコ 2015『上粕屋・鳥居崎道跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 33
111. (株) 玉川文化財研究所 2016『上粕屋・鳥居崎道跡第3次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 48
112. (株) パスコ 2012『神成松道跡第2地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 7
113. 東大竹下原道跡発掘調査団 1999『東大竹下原道跡発掘調査報告書』
114. (有) 吾妻考古学研究所 2019『板台一丁目道跡第9地点』
115. 国際文化財 (株) 2021『板台一丁目道跡第10地点』
116. (株) 玉川文化財研究所 2009『原之宿道跡第3地点発掘調査報告書』
117. 大入道跡発掘調査団 1984『大入道跡発掘調査報告書』
118. 盤古堂 2012『板戸・精進場道跡第3地点』
119. (有) 鎌倉道跡調査会 2004『伊勢原・北側道跡第Ⅲ地点発掘調査報告書』
120. (株) 日本窯業史研究所 2007『板戸・八雲殿道跡第3地点』
121. (株) 玉川文化財研究所 2005『板戸・宮ノ前道跡第Ⅱ地点発掘調査報告書』
122. 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合 2006『板戸・宮ノ前道跡第Ⅲ地点』
123. 伊勢原市田中・向原道跡発掘調査団 2000『田中・向原道跡』
124. 伊勢原市教育委員会 1990『東大竹道跡群Ⅰ』
125. (株) 玉川文化財研究所 2012『東大竹・市場道跡第9地点発掘調査報告書』

126. (公財) かながわ考古学財団 2021『上粕屋・一ノ郷上遺跡 第2次調査, 上粕屋・雷遺跡, 上粕屋・一ノ郷南遺跡 第2次調査』かながわ考古学財団調査報告 328
127. (公財) かながわ考古学財団 2023『上粕屋・秋山上遺跡遺跡 第2次調査』かながわ考古学財団調査報告 333
128. (公財) かながわ考古学財団 2023『栗塚・林道遺跡 栗塚・林台遺跡 栗塚・四石田遺跡』かながわ考古学財団調査報告 334
129. (公財) かながわ考古学財団 2024『御伊勢森遺跡第3次調査 上粕屋・黒岩遺跡 上粕屋・北久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告 339

第3節 本報告調査区周辺の発掘調査について

本報告の調査区周辺では、新東名高速道路の発掘調査以降地点を変えながら継続して、毎年発掘調査が進められていて、新たな遺跡の内容が明らかにされている。ここでは財団刊行の年報記載の内容を概観したい。

上粕屋・秋山上遺跡

第3次調査(厚木秦野道路建設事業)

平成28年度(2017)	1区 6,288 m ²	奈良・平安時代住居跡・掘立柱建物他	厚木秦野道路
平成29年度(2018)	1～3、5・6区 8,679 m ²	近世地下式坑、縄文時代後期住居跡他	厚木秦野道路
平成30年度(2019)	5・6・7区 3,028 m ²	縄文時代後期住居跡他	厚木秦野道路
令和3年度(2022)	8・9区 5,531 m ²	縄文時代後期住居跡他	厚木秦野道路
令和4年度(2023)	8・9区 3,882 m ²	旧石器時代LH層下部～B1層相当層の石器群	厚木秦野道路

上粕屋・秋山遺跡

第1次調査(新東名高速道路建設事業、第Ⅲ分冊掲載)

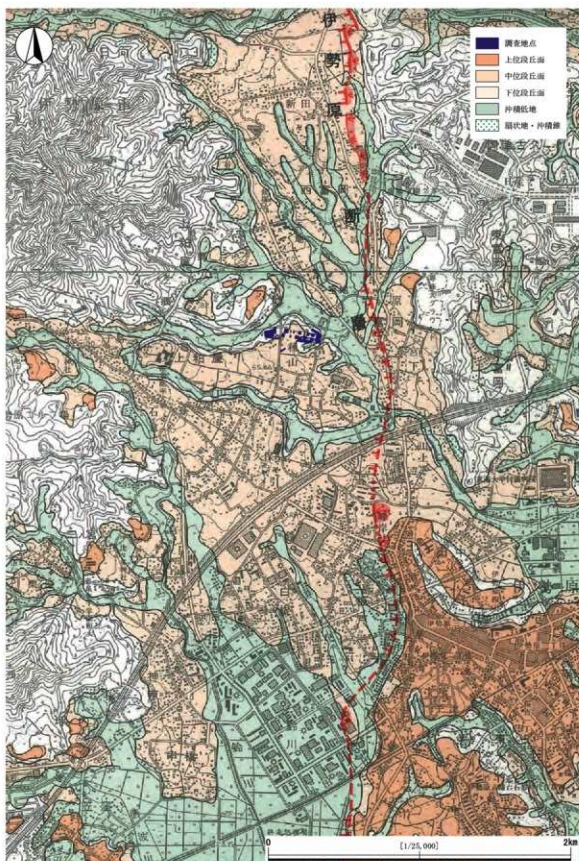
平成27年度(2016)	2,867 m ²	ピア13・14・23～25側道 縄文時代後期住居跡他	新東名高速道路
平成27年度(2016)	100 m ²	ピア10 近世旧河道他	新東名高速道路
平成28年度(2017)	ピア23～25側道 1,577 m ²	近世遺構他	新東名高速道路
平成29年度(2018)	ベント2・9・12・13 401 m ²	縄文時代後期配石遺構他	新東名高速道路

第2次調査(厚木秦野道路建設事業)

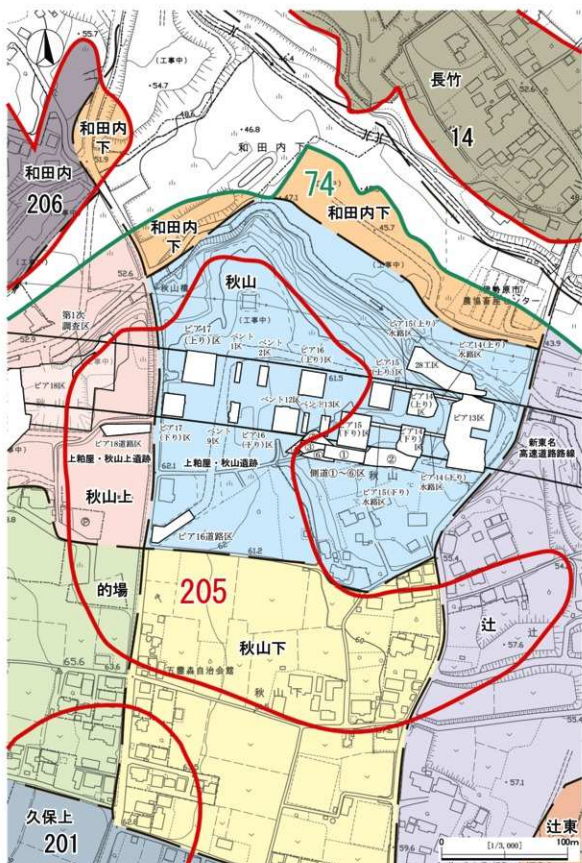
平成28年度(2017)	5区 4,989 m ²	縄文時代後期住居跡、水場遺構他	厚木秦野道路
平成29年度(2018)	2・3区 631 m ²	近世土坑、中世溝他	厚木秦野道路
平成30年度(2019)	2・3区 631 m ²	縄文時代住居跡、配石遺構他	厚木秦野道路
令和元年度(2020)	4区 2,073 m ²	近世の遺構	厚木秦野道路
令和2年度(2021)	4・5・6区 3,869 m ²	縄文時代中期・後期の住居跡、配石遺構他	厚木秦野道路
令和3年度(2022)	4・5・6区 2,802 m ²	旧石器時代B1層の石器群他	厚木秦野道路
令和4年度(2023)	7・8区 6,583 m ²	縄文時代後期環礫方形配石遺構、配石遺構他	厚木秦野道路

参考文献

- 『年報 23 平成27年度』 2017 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 24 平成28年度』 2018 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 25 平成29年度』 2019 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 26 平成30年度』 2020 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 27 令和元年度』 2021 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 28 令和2年度』 2022 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 29 令和3年度』 2023 公益財団法人かながわ考古学財団
- 『年報 30 令和4年度』 2024 公益財団法人かながわ考古学財団



第3図 遺跡周辺の地形区分図(都市圏活断層図) [1/25,000]



第4図 上粕屋・秋山道路周辺の地形 [1/3,000]

第3章 調査経過

第1節 調査区の設定と発掘調査の方法

今回の調査範囲は、新東名高速道路の伊勢原大山インターチェンジ周辺にあたり、上粕屋・秋山遺跡は、秋山高架橋建設に伴うピア部分と周辺の道路部分の調査である。ピア13～17区は、一体とした橋脚建設部分で、調査時には、ピア番号の上りと下り分をそれぞれ、ピア17（上り）区・ピア17（下り）区とに分けて呼称した。ピア14・15には、それぞれ接続する水路分の調査区が付帯する。また、側道①～⑥は高速道路南側に隣接する側道部分で、ピア16道路区は工事用道路予定地の調査である。このほかに各ピア建設に伴い工事施設としてのベント（架設桁を支持する構台）をもうける必要が発生して、掘削を伴うベント1・2・9・12・13区を設け調査を行った。

今回の調査区全体に、世界測地系IX系（世界測地系（JGD2011）IX系）に基づいた10 m方眼のグリッドを設定し、これにより測量を行った。将来の周辺調査を見越して台地の広域にグリッドを設定して、A1グリッド（X＝－65,000.00、Y＝－49,600.00）を基点とした。グリッド名称は、南から北に向かって1・2・・・と西から東に1A・1B・・・と呼称した。南西隅の10 mメッシュ部分は「1A-1グリッド」というように呼称した。

各地区とも、県文化遺産課の試掘結果に基づき、面的に調査を行った。

第2節 調査経過

1 発掘作業の経過

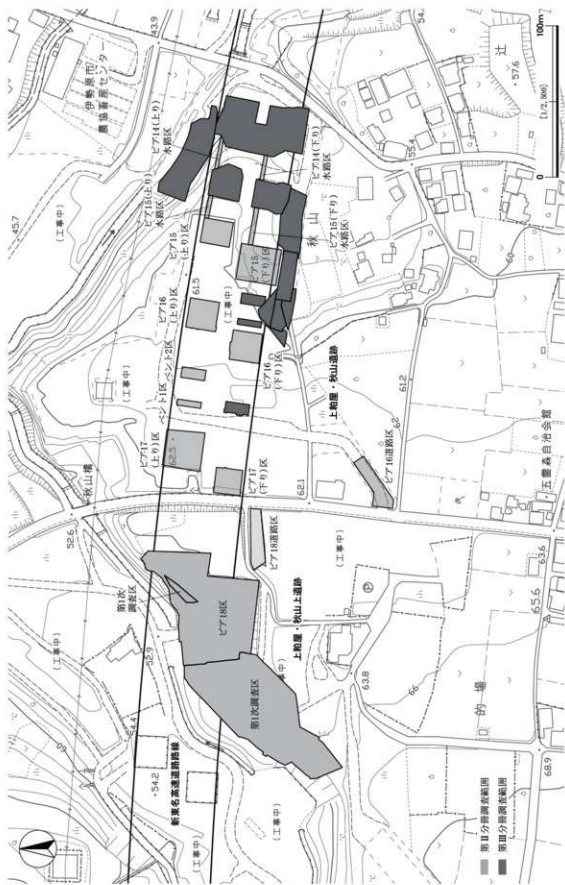
今回報告する発掘調査は、上粕屋・秋山遺跡のピア13～17区、14・15区水路分、ピア16道路区、ベント1・2区の調査である（第4図、第3表）。

平成27年4月6日 調査前風景を撮影し、同13日から基準点測量を開始した。それぞれの地区ごとに調査経過を記載していく。

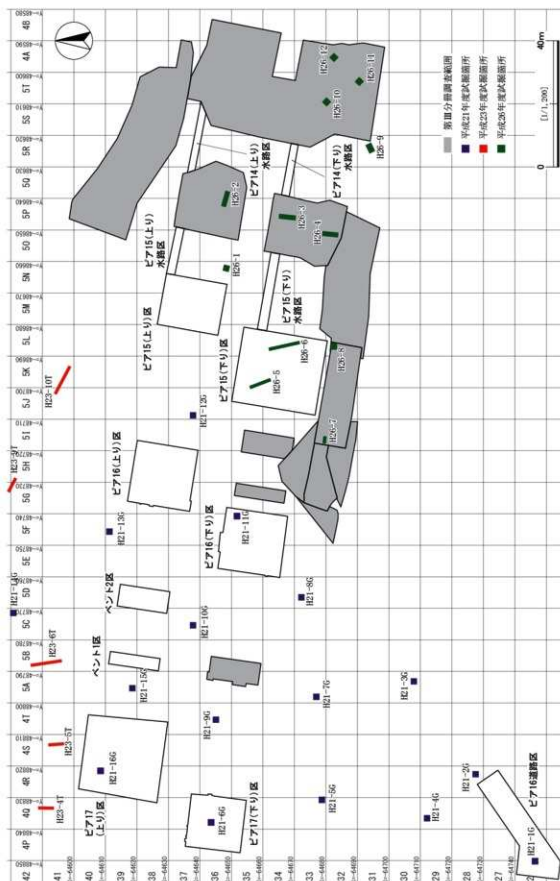
ピア17（下り）区は、平成27年4月14日に表土機械掘削を開始した。同15日から近世遺構の調査を開始し、同21日に近世遺構全景撮影後、奈良・平安時代の調査を開始した。5月1日から住居跡の調査をして、6月4日に全景写真を撮影しその後、縄文時代包含層の調査を開始し、7月7日から縄文時代の遺構調査を行った。9月4日に配石遺構の写真測量を実施して、実測図を作成する。同16日からVI層の調査を始める。10月1日から旧石器時代グリッド調査を始め、同6日に完掘写真を撮影し、調査を終了した。

ピア17（上り）区は、平成27年5月14日に表土機械掘削を開始した。28日に近世遺構の調査を開始し、調査終了後6月8日に中世遺構の調査を始める。7月17日に縄文時代包含層の調査を始め、縄文時代の遺構調査を行った。9月2日に旧石器時代グリッド開始し、10月6日に21区南と一緒に完掘写真を撮影し、調査を終了した。

ピア16（下り）区は、平成27年10月9日から表土掘削を行い、同15日に近世遺構の調査を開始した。平成28年1月14日に奈良・平安時代遺構の調査を開始した。3月20日から奈良・平安時代の調査を終えたところで、ピア15区の調査を優先するため調査を中断した。10月14日から再開し、縄文時代の包含層・



第5圖 遺跡周辺地形図 [1/2,500]



第6図 グリッド概念図・試掘位置図 [1/1,200]

遺構を調査した。平成29年1月12日から旧石器時代グリッド調査を開始したところ、同16日に旧石器の出土を確認した。同19日から旧石器調査区を設定して、調査を開始した。2月10日に旧石器時代の完掘写真を撮影し、追加のグリッド調査を終えて同17日に調査を終了した。

ピア16(上り)区は、平成27年10月7日に表土機械掘削を開始したが、遺構確認まで行った後一時中断した。12月15日に近世遺構の調査を再開した。平成28年3月20日に近世以降の調査を終えたところ、23区の調査を優先するため調査を中断した。4月8日から中世遺構の調査を再開した。5月6日に奈良・平安時代調査を開始した。9月28日に縄文時代遺構の調査を開始した。10月26日から縄文時代の調査と並行して、旧石器時代グリッド調査を開始した。11月26日に完掘写真を撮影して、調査を終了した。

ピア15(下り)区は、平成27年11月5日に北側部分の台地部分の表土機械掘削を行い、同9日に近世遺構の調査を開始した。12月2日にピア18区の調査を優先するため調査を中断した。4月21日に近世遺構から再開し、6月9日から調査区南側の近世谷の調査を開始した。7月30日から旧石器時代グリッド調査を開始し、8月10日に完了写真を撮影して調査を終了した。

ピア15(上り)区は、平成28年3月3日から表土機械掘削を行い、同17日に近世遺構の調査を開始した。近世遺構の調査終了後、同25日から縄文時代遺構の調査を開始した。6月6日に旧石器時代グリッド調査を開始し、同13日に調査を終了した。

ピア16道路区は、平成28年12月24日に表土機械掘削を開始した。1月7日から近世遺構を調査した。27日に近世面の全景写真を撮影し、開発深度が近世面までであったため、調査を終了した。

ピア15(上り)水路区は、平成28年3月23日に表土掘削を開始した。4月6日から近世遺構の調査を行い、同20日に完掘写真を撮影して、調査を終了した。

ピア15(下り)水路区は平成28年3月18日に表土掘削を開始した。ローム上面まで削平されていて、遺構の広がりには確認されず完掘写真を撮影後に同23日に調査を終了した。

ピア14(下り)水路区は、平成28年4月11日に表土剥ぎを開始した。同12日に近世遺構の確認を行い、同13日に旧石器グリッド調査を開始した。同22日に完掘写真を撮影して、調査を終了した。なお、ピア14(上り)区水路は、擾乱が著しく、同24日の工程会議後の現地確認でそれ以上の調査は不要と県文化遺産課が判断した。

ベント1区は、平成29年2月1日に表土掘削を開始した。2月13日から近世の遺構を調査開始した。同21日から縄文時代包含層を行い、3月17日から旧石器時代グリッド調査を開始した。同24日に完掘写真を撮影して、同31日に調査を終了した。

ベント2：平成29年2月10日の表土掘削を開始した。2月15日に縄文時代の遺構を調査開始した。3月17日から旧石器時代グリッド調査を開始した。同24日に旧石器の出土を確認した。旧石器がさらに広がることを確認し、同31日に西富班に引き継いだ。

2 出土品等整理作業の経過

出土品等整理作業は令和4年3月1日から開始した。遺構図は「遺構くん」で作成した平面図に手実測で作成した断面図を合わせていくことから開始して、データ上で図版を配置していく作業を行った。遺物は注記・分類から始めて、引き続き接合を行ったが、小破片が多く、復元できる個体は少なかった。

令和4年5月から遺構出土の遺物の実測を開始して、引き続きデジタルトレースを行った。遺物実測には、「3Dモデル化システム」を取り入れ、3次元データで作成したデータから実測図を作成した。その後、遺

物図版を組みながら、遺物観察表の作成を平行して行った。また、旧石器時代の石器類は、遺物の分類・計測を行い、母岩別に分類して、接合を行った。

遺構については遺構図版ができたものから、原稿を執筆していった。また、遺物の年代的、器種別位置づけができたものから分布図の作成を行い、調査区内における遺物の分布状況を把握した。令和5年1月から、遺物写真図版を組んでいった。

令和5年1月からは、完成した遺構図版、遺物図版、写真図版の編集を行い、原稿、表のチェックを行った。令和5年9月までに各原稿のチェックを行った。ピア15～17区、14・15区水路分、ピア16道路区、ベント1・2区まで整理を行った時点で、第Ⅱ分冊をさらに分冊として、本報告を第Ⅱ分冊1、側道①～⑥区、ベント9・12・13区については第Ⅱ分冊2として別途出土品整理を行なった後に刊行することを決定した。

報告書の印刷は令和6年11月から令和7年3月までに印刷・発送を行った。

本遺跡の自然科学分析は、今回の調査区からは、近世から縄文時代の動物遺存体が出土していて、令和4年度に動物の同定について、浪形早希子氏により現地指導いただいた。

令和4年度に旧石器時代から縄文時代の出土した黒曜石の産地同定について、東京航業研究所に委託を行い分析した。また、旧石器時代の石器や礫、中世・近世の石製品と縄文時代の石器・旧石器時代の石器・礫の石材岩石種の同定を行った。合わせて黒曜石の内眼による特徴を整理して、産地別の類型化を行ない、蛍光X線分析の結果について、反映させた。

また、脆弱遺物（鉄製品）を補強するために以下の保存処理を実施した。

令和5年度に鉄製品10点を静岡文化財研究所に委託して保存処理を行った。

主な工程は次の通りである。①処理前記録 保存処理前の資料の形状や状態をX線および自然光で写真撮影し記録した。②処理前処理 資料に付着する不要な錆や土砂等をメス、ニッパー、精密加工機、噴射加工機などで除去した。オリジナルな表面を残す錆ぶくれは原則として除去しない。③安定化処理 水酸化リチウム0.1%アルコール溶液に資料を浸漬した。約1週間ごとに溶液交換を2回程度行った。防錆処理としてジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩3%アルコール溶液に1週間程度浸漬した。④強化処理 アクリル樹脂バラロイドB72の5.6%～10%キシレン溶液に浸漬し減圧含浸した。⑤修復：折損部はシアノアクリレート樹脂（アロンアルファ）で接合し、欠損部はエポキシ樹脂（セメダインハイスーパー）とフェノールマイクロバルーンの混合ペーストを充填し、固化後に精密加工機で整形し、アクリル絵の具で彩色した。⑥処理後記録 保存処理後の資料の形状や状態を自然光で写真撮影し、使用した材料や方法等を記載した報告書を作成した。

委託した鉄製品以外については、神奈川県埋蔵文化財センターの施設を利用して、独自に保存処理を行なった。①グラインダーなどによるクリーニング、②瀬貫脱円錐を使用した脱塩処理、③アセトンにバラロイドB72を100%溶かした液につけて、真空乾燥装置による含浸強化を実施した。



新東名高速道路建設後の現況（左手前の橋脚がピア16（上り）区：東から）2024.06撮影

第4表 調査工程表

発掘調査

調査 地区	平成27年度												平成28年度												調査 面積 (㎡)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ピア17 (下り) No.21 南																									271
ピア17 (上り) No.21 北																									629
ピア16 (下り) No.22 南																									385
ピア16 (上り) No.22 北																									385
ピア16 道路 No.22-2																									334
ピア15 (下り) No.23 南																									643
ピア15 (上り) No.23 北																									323
ピア 14・15 水路																									151
ベント1																									76
ベント2																									100
合計																									3,297

出土品整理作業・報告書刊行

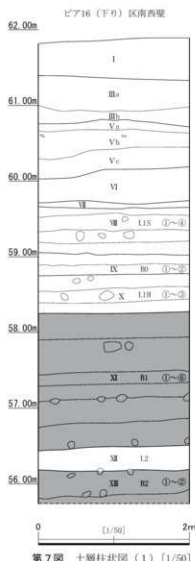
令和3年度		令和4年度												令和5年度											
出土品等整理作業	3月	4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
報告書刊行	令和6年度																								
	4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月														

第4章 基本層序

第1節 層序

上粕屋・秋山遺跡は、上粕屋扇状地北部の平坦な台地上に位置し、調査区には東側から谷が形成されている。上粕屋扇状地上では地区により、層序の状況は異なるが、上粕屋・秋山遺跡の基本土層としては、以下のとおりである（第7図、図版3）。

- I 層** 旧表土層 近世以降の耕作土。下面に径1mmの宝永火山灰を含む。径1～3mmの黒色スコリアを少量含む。しまり・粘性なし。
- II 層** 暗褐色土 全体に灰色を帯びる。径3～5mmの黒色スコリアを多量含む。しまり・粘性弱い。中世を主体とする遺物包含層で、下面が近世・中世の遺構確認面である。ピア17（下り）区付近では本層は削平されたため確認できなかった。
- III a 層** 黒褐色土 III層は上下に分かれる。上層は径1～6mmの黒スコリアを層全体に含み、径1～3mmの橙色スコリアを含む。しまり強く粘性やや弱い。肌理は非常に粗く、カリカリしている。奈良・平安時代～中世層で下面が奈良・平安時代の遺構確認面である。
- III b 層** 黒色土 下層は、径1～6mmの黒色スコリアを層全体に含み、III a 層に比べ橙色スコリアを多く含む。しまり強く粘性やや弱い。白いバミスが見られ、肌理が細くなる。古墳時代を主体とする層。
- IV 層** 暗褐色土 径1～3mmの橙色スコリアを多量含み径1mmの白色粒を少量含む層。しまり強く、粘性やや強い。弥生時代相当層で、今回の調査区内では確認されない。
- V a 層** 暗褐色土 V層は3層に分かれる。径1～3mmの橙色スコリアを多く含み、径1mmの白色バミス特徴的に含む。しまり・粘性やや強い。縄文時代後期の遺物が出土する層で中層から下面が遺構確認面である。
- V b 層** 暗褐色土 径1～2mmの橙色スコリアをやや多く含み、径2～4mmの黒色スコリアを少量含む。上層に比べ肌理が細かい。しまり強く、粘性も強い。乾燥するとクラックが入る。縄文時代中期の包含層である。
- V c 層** 暗褐色土 上層に比べやや明るい。径1～3mmの橙色スコリアをやや多く含み、径2～4mmの黒色スコリアを少量含む。上層に比べ肌理が細かい。しまり強い。粘性強い。
- VI 層** 茶褐色土 V層に比べ黄色味があり、ねっとり感がある。径1～3mmの橙色スコリアを多く含み、径2～4mmの黒色



スコリアを少量含む。締まり強い。粘性強い。縄文時代早期相当層である。

- Ⅶ層 褐色土 ローム漸移層からL1S層相当層。径3mmの橙色スコリアをやや多量に含む。色調は明るく、しまり強くややハード。粘性強い。

Ⅶ層以下は黄褐色ロームである。

- Ⅶa層 明褐色ローム L1S層① しまり強くハード。粘性非常に弱い。径3～10mmの凝灰岩片が目立つ。径2～4mmの橙色スコリアを多く、径3mm程の黒色スコリアをやや多く含む。橙・黒スコリアを含んだ白い粘土状のブロックが認められる。

- Ⅶb層 明褐色ローム L1S層② 富士系777No. Y139 (773) 含む。しまり強くハード。粘性は上層に比して弱くなる。上層と同様、径3～10mmの凝灰岩片が目立つ径2～4mmの橙色スコリアが上層より多く見られ、黒色スコリアも大粒となる。橙・黒色スコリアを含んだ白い粘土状のブロックが認められるが、上層より少ない。Y139の外郭はしっかりしておらずバラけた感である。

- Ⅶc層 赤褐色ローム L1S層③ 富士系777No. Y138 含む。しまり弱くややソフト。粘性ある。径2～5mmの橙色スコリアを多く含み、層全体が赤味を帯びる。まだらに白い粘土状のブロックが認められ、層全体にねっとり感がある。黒色スコリアはまばらに含まれる。また、径3～10mmの凝灰岩片も含まれるが少なくなる。Y138は白い粘土状ブロックの中に包含されている感がある。

- Ⅶd層 赤褐色ローム L1S層④ しまり弱くややソフト。粘性非常に強い。径3～5mmの橙色スコリアが極めて多く認められ、黒色スコリアも径4～5mmと大粒となる。白い粘土状ブロックは上層に比して少なくなる。

- Ⅸa層 暗褐色ローム B0層① しまり弱くソフト。粘性強い。径2～4mmの橙色スコリアを含むが上層に比べはるかに少ない。径4～6mmの黒色スコリアを含み、上層で認められた白色粘土状ブロックは黒味を帯び、上層に比して少ない。層全体が黒味を帯びている。

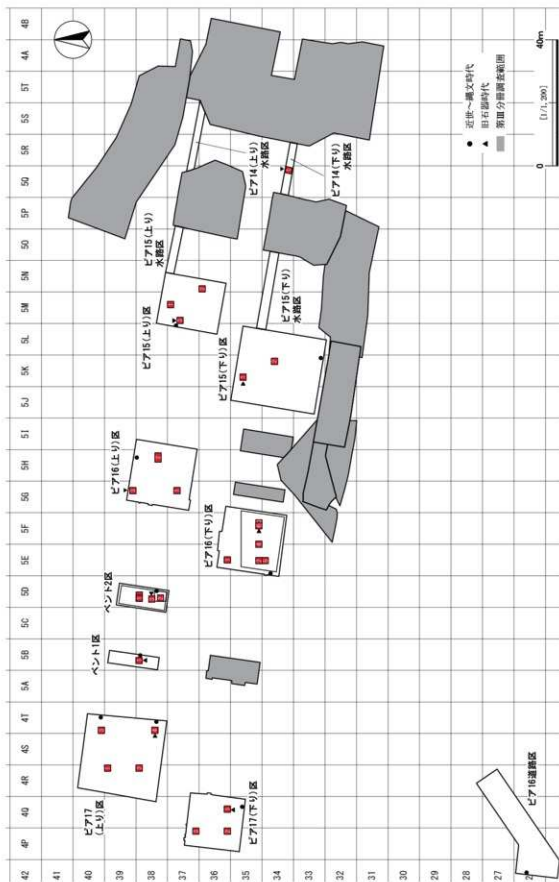
- Ⅸb層 暗褐色ローム B0層② しまり弱くソフト。粘性強い。上層に比してねっとり感があり、層全体の密度が高まっている。径2～3mmの橙色スコリアを含むが、錆色化して目立たなくなり、黒色スコリアが目立つようになる。白色バミス点存在していることがわかる。上層と同様に層全体が黒味を帯びている。

- Xa層 暗赤褐色ローム L1H層① 富士系777No. Y137-3 含む。しまりあるがややソフト。粘性弱い。径1～3mmの錆色スコリア、径3～5mmの黒色スコリアを多く含む。上面にY137-3は、径2～5mmの錆色スコリアと径6～10mmの黒色スコリアによる集合体でブロック状に点在する。

- Xb層 黄赤褐色ローム L1H層② 富士系777No. Y137-2 含む。しまりあるがややソフト、粘性弱い。上層に比してねっとり感がある。上位層と類似しているが、径10～20mmの黒色スコリアが幾分多く見られる。Y137-2の径10～15mmの黒色スコリアの集合体でブロック状に点在する。

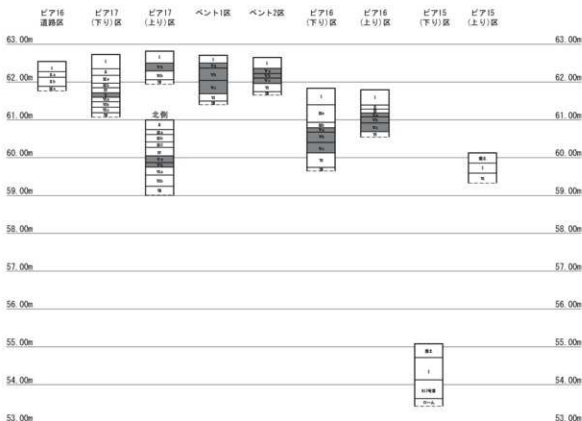
- Xc層 黄赤褐色ローム L1H層③ しまりあるがややソフト、粘性弱い。上位層と類似しているが、黒色スコリアが少なくなり、下層の錆色スコリアが含まれる。Y137-1 (777'ア) は、はっきり認められないが、スコリアとしてまばらに点在する。

- XIa層 灰褐色ローム B1層① しまり強くややハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。径1～2mmの錆色スコリアが顕著に認められる。径10～20mmの黒色スコリアも点在する。特に白色バミスが少ないが層全体に点在する。

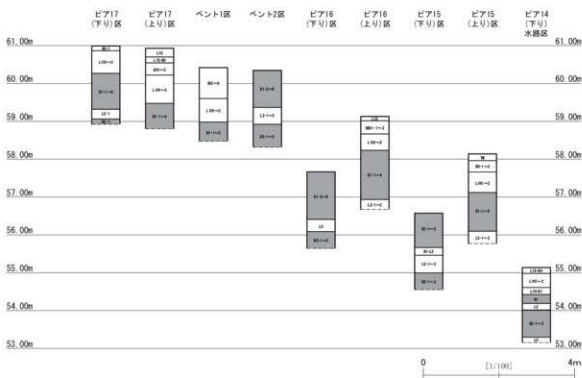


第8区 土層柱状図 (2) 記録箇所 [1/1,200]

近世～縄文時代調査区土層



旧石器時代グリッド調査区土層



第9圖 土層柱狀圖(3) [1/100]

- XI b 層 灰褐色ローム B 1 層② 富士系⁷⁷⁷No. Y 133 ? 含む。しまり強くややハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。径 1 ～ 2 mm の錆色スコリアが認められるが少なくなり、径 3 ～ 4 mm のものが目立つ。径 10 ～ 20 mm の黒色スコリアも点在し、上層に比して黒味が増す。白色バミスも層全体に点在する。下部に Y 133 ? が縦状に連なって点在することから、本層は錆色が強い。
- XI c 層 灰褐色ローム B 1 層③ しまり強くややハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。構成内容は上層とほぼ同様であるが、錆色スコリアが幾分大粒化する反面、黒色スコリアが小粒化する。またねっとり感が強い。
- XI d 層 灰褐色ローム B 1 層④ 富士系⁷⁷⁷No. Y 132 - 6 ? を含む。しまり強くややハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。径 1 ～ 2 mm の錆色スコリアが認められるが、径 3 ～ 4 mm のものが目立つ。また径 3 ～ 8 mm の黒色スコリアも目立ち、上層に比して黒味が強い。白色バミスも層全体に点在し、包含量は上層に比して多い。下層との境に Y 132-6? が存在する。テフラの上半部は錆色、下半部は赤色を呈している。
- XI e 層 灰褐色ローム B 1 層⑤ しまり強くややハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。錆色スコリアが認められるが少なくなり、径 10 mm 程の黒色スコリアが上層より増して目立つ。白色バミスも層全体に点在し、幾分大きくなり、包含量が増す。
- XI f 層 灰褐色ローム B 1 層⑥富士系⁷⁷⁷No. Y 132 - 1 ? (アカゴマ) を含む。しまり強くややハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。径 10 mm 程の黒色スコリアが上層より増して目立つ。白色バミスも層全体に点在し、幾分大きくなり、包含量が増す。下部に径 10 mm 程の黒色スコリアが集中した Y 132 - 1 ? が存在する。
- XII a 層 明灰褐色ローム L 2 層 しまり非常に強くハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。錆色スコリアが認められるが少なく、黒色スコリアも小粒になる。白色バミスが層全体に点在するとともに、粘質のねっとり感のあるブロック状となっている。この層の特徴である「ヒョウの柄」は顕著に認められない。
- XIII a 層 明灰褐色ローム B 2 層① 富士系⁷⁷⁷No. Y 126 ?、Y 125 ? を含む。しまり強くハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。錆色スコリア・黒色スコリアともに小粒となり少ないが、上層に比して黒味がある。白色バミスも層全体に点在するが、上層に比べ少ない。上端に Y126?、下端に Y125? が存在する。両者ともに錆色スコリアによる集合体である。
- XIII b 層 暗灰褐色ローム B 2 層② しまり強くハード。粘性やや弱い。肌理が細かく砂質状である。上層と構成内容は同様であるが、包含量が少なく、上層に比してさらに黒味がある。白色バミスも層全体に点在するが、上層に比べさらに少ない。

第5章 発見された遺構と遺物

第1節 ピア17（下り）区の調査

ピア17（下り）区（旧21区南）は今回報告する調査区では、最も西側に位置していて、西側を市道に

削平されている。北から、南に向けて緩やかに傾斜はするが、ほぼ平坦地に遺構が分布する。また北に位置するピア17（上り）区は、北側に向けて傾斜をしていて、周辺から見ると本調査区が微高地となっている。層位はⅣ～Ⅴ層の堆積は薄く、そのためか包含層から出土した遺物は少ない。遺構は、近世、中世、奈良・平安時代、縄文時代が発見されていて、出土遺物は近世は6点（40.5g）、中世は2点（14g）、奈良・平安時代は6,125点（41,106g）、縄文時代は967点（162,967g）で合計7,100点（204,127.5g）である。

第5表 ピア17（下り）区遺構計測表（単位：m）

位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
4Q-35	H 1号住居跡	3.58	3.38	1.20	方形	4P-35	K 12号土坑	1.36	0.80	0.33	表方	4P-36	J 30号土坑				J 4号配石配り方
4Q-36	H 2号住居跡	3.16	2.36	0.74	方形	4Q-35	K 13号土坑	2.46	0.64	0.08	表方	4P-36	J 31号土坑				J 5号配石配り方
4Q-36	H 3号住居跡	3.20	(0.58)	1.20	方形	4Q-37	C 14号土坑	1.08	(0.84)	0.14	円形	4P-36	J 32号土坑				J 2号配石配り方
4Q-36	H 4号住居跡	3.06	3.04	0.74	方形	4P-35	C 15号土坑	1.00	0.92	0.16	円形	4P-36	J 33号土坑	0.60	0.50	0.40	横円
4P-Q-36	H 1号竪立柱建物	3.90	4.10		2×3	4Q-35	C 16号土坑	1.16	(0.54)	0.46	円形	4P-Q-37	J 34号土坑	1.20	1.14	0.38	横円
4P-Q-36	H 2号竪立柱建物	3.78	3.86		2×2	4P-37	C 17号土坑	(0.84)	(0.56)	0.30	円形	4Q-37	J 35号土坑	1.50	0.28	0.40	横円
4P-Q-36-37	H 3号竪立柱建物	3.96	3.34		2×2	4Q-35	C 18号土坑	1.00	0.70	0.34	表方	4Q-37	J 36号土坑	(0.90)	1.10	0.76	横円
4Q-37	K 1号土坑	1.70	1.64	0.24	円形	4Q-35	C 19号土坑	1.34	(0.56)	0.28	横円	4P-36	J 1号配石	0.80	0.66	0.32	横円
4P-Q-37	K 2号土坑	1.86	1.72	0.18	円形	欠番	H 20号土坑				田に属する	4P-36	J 2号配石	2.54	1.00	0.22	横円
4P-36	K 3号土坑	1.40	0.54	0.34	表方	4P-36	K 21号土坑	1.42	0.56	0.23	表方	4P-36	J 3号配石	1.16	1.00	0.28	横円
4P-36	K 4号土坑	0.84	0.50	0.28	表方	4P-36	K 22号土坑	1.90	0.62	0.21	表方	4P-Q-36-37	J 4号配石	3.06	2.60	0.35	横円
4P-Q-36	K 5号土坑	1.34	1.22	0.20	方形	4P-37	J 23号土坑	1.22	1.14	0.22	横円	4P-Q-37	J 5号配石	1.70	1.14	0.33	横円
4Q-36	K 6号土坑	1.24	1.00	0.20	方形	欠番	J 24号土坑				J 3号配石配り方	4P-37	J 6号配石	2.70	1.64	0.30	横円
4Q-37	K 7号土坑	1.00	0.40	0.13	表方	4P-36	J 25号土坑	1.00	(0.88)	0.40	横円	4P-37	J 7号配石	1.55	0.75	0.14	横円
4Q-36-37	K 8号土坑	1.46	1.10	0.10	表方	欠番	J 26号土坑				J 1号配石配り方	4P-36	J 8号配石	1.18	0.30	0.08	横円
4Q-36	K 9号土坑	1.76	1.04	0.07	不整	欠番	J 27号土坑				J 6号配石配り方	4Q-37	J 9号配石	0.24	0.18	0.26	横円
4Q-36-37	K 10号土坑	0.90	0.38	0.08	表方	4P-36	J 28号土坑	0.84	0.28	0.14	横円	4P-37	J 10号配石	0.78	0.30	0.24	横円
4P-37	K 11号土坑	1.64	0.84	0.10	円形	4P-37	J 29号土坑	0.78	(0.30)	0.24	横円	欠番	J 1号風岡本				

略語：不整＝不整円形、横円＝横円形、溝丸＝溝丸形、長方＝長方形

1 近世

今回の調査で発見された近世の遺構は、土坑15基、ピット1基の合計16基となる。遺構の分布は、調査区西北にやや偏りを見せて検出されるがやや疎である。遺物は、磁器3点（8.5g）、陶器2点（8g）、鉄製品1点（24g）の計6点（40.5g）が出土している。

(1) 土坑（第10図、第5表）

土坑は15基が発見された。土坑の覆土は、いずれも基本的には第1層と類似する土層である。形状別には次の4種類に分けられる。

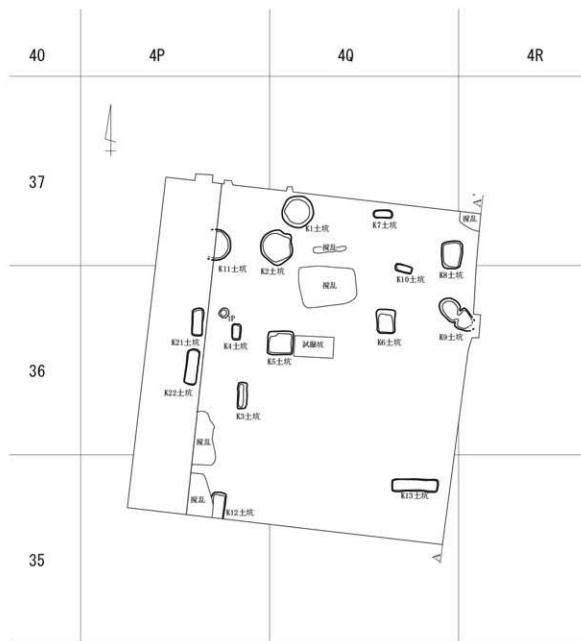
ア、円形を呈する土坑。K1号、K2号、K11号の3基。

イ、方形を呈する土坑。K5号、K6号の2基。

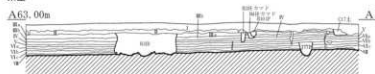
ウ、長方形を呈する土坑。K3号、K4号、K7号、K8号、K10号、K12号、K13号、K21号、K22号の9基。

エ、不定形な形状の土坑。K9号の1基。の4形態に分類できる。

長方形を呈する土坑は、長軸がほぼ南北・東西に沿って掘られている傾向がある。円形土坑や長方形土坑



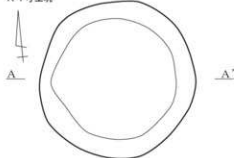
東壁



0 [1/200] 5m

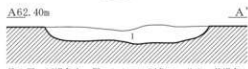
第10図 近世遺構配置図 [1/200]

K1号土坑



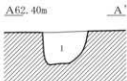
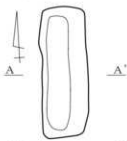
第1層 灰褐色土 径1~2mmの灰色スコリア粒を密に含む。しまり良好・粘性なし。

K2号土坑

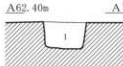
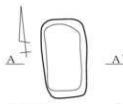


第1層 灰褐色土 径1~2mmの灰色スコリア、黄褐色粒を密に含む。しまり良好・粘性なし。

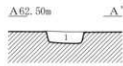
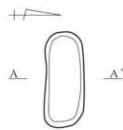
K3号土坑



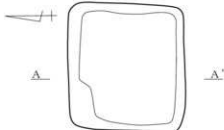
K4号土坑



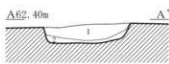
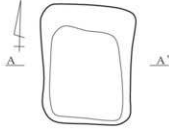
K7号土坑



K5号土坑



K6号土坑

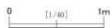


第1層 灰褐色土 径1~2mmの灰色スコリアを含む。しまりなし・粘性弱い。

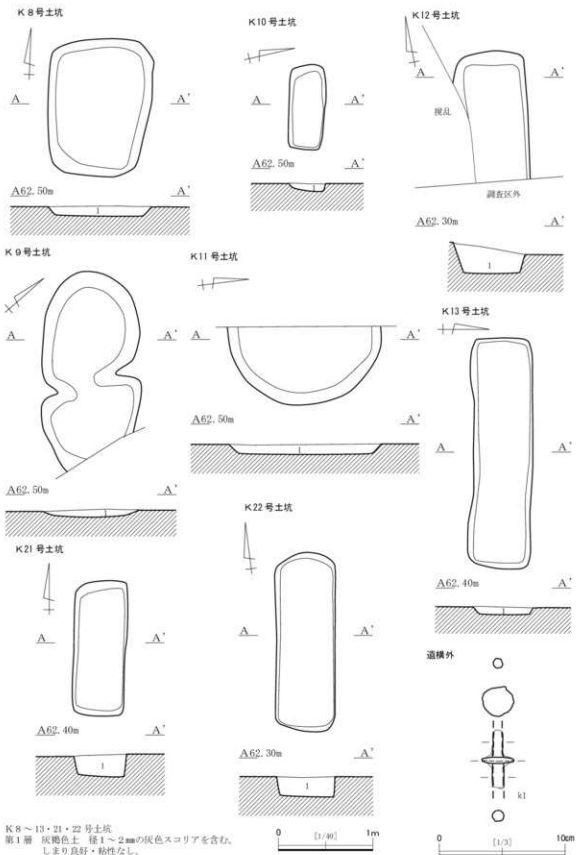
第2層 黒褐色土 径1mmの黒色スコリアを含む。しまり良好・粘性なし。V層。

K3~5・7号土坑

第1層 灰褐色土 径1~2mmの灰色スコリアを含む。しまり良好・粘性なし。



第11図 K1~7号土坑[1/40]



第12図 K 8～13・21・22号土坑 [1/40]・近世遺構外出土遺物 [1/3]

など、発見された遺構はいずれも耕作に関わる遺構と推定される。それは表土下面まで耕作地として使用されていたことを示し、近世以降現代まで、この地は畑耕作地であったことが推定される。

K1号土坑(第11図)

ビア17(下り)区北東、4P・Q-37グリッドに位置し、南にK2号土坑が隣接する。平面は円形を呈す。長軸1.70m、短軸1.64m、深さ0.24mを測り、断面は皿状で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K2号土坑(第11図)

ビア17(下り)区北東、4Q-37グリッドに位置し、北にK1号土坑が隣接する。平面はやや不整円形を呈す。長軸1.86m、短軸1.72m、深さ0.18mを測り、断面は皿状で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K3号土坑(第11図)

ビア17(下り)区中央西寄り、4P-36グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はN-5°-Eを指す。長軸1.40m、短軸0.54m、深さ0.34mを測り、断面は逆台形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K4号土坑(第11図)

ビア17(下り)区中央西寄り、4P-36グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はN-6°-Eを指す。長軸0.84m、短軸0.50m、深さ0.28mを測り、断面は箱形で底面は平坦灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K5号土坑(第11図)

ビア17(下り)区中央西寄り、4P・Q-36グリッドに位置する。平面は方形を呈し、主軸は真北を指す。長軸1.34m、短軸1.22m、深さ0.20mを測り、断面は箱形で底面は平坦灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K6号土坑(第11図)

ビア17(下り)区中央東寄り、4Q-36グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸は真北を指す。長軸1.24m、短軸1.00m、深さ0.20mを測り、断面は逆台形で底面は平坦で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K7号土坑(第11図)

ビア17(下り)区北寄り、4Q-37グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はN-90°-Eを指す。長軸1.00m、短軸0.40m、深さ0.13mを測り、断面は箱形で底面は平坦である。遺物は出土していない。

K8号土坑(第12図)

ビア17(下り)区北東隅寄り、4Q・R-36・37グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はN-2°-Eを指す。長軸1.46m、短軸1.10m、深さ0.10mを測り、断面は皿状で底面は平坦で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K9号土坑(第12図)

ビア17(下り)区東壁際、4Q・R-36グリッドに位置する。平面は不整形で中央部がくびれを持ち、東側の立ち上がりは不明瞭である。主軸はN-52°-Wを指す。長軸1.76m、短軸1.04m、深さ0.07mを測り、断面は皿状で底面は平坦灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K 10号土坑 (第12図)

ピア17(下り)区北東、4Q-36 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はN-76°-Wを指す。長軸0.90 m、短軸0.38 m、深さ0.08 mを測り、断面は皿状で底面は傾斜する。灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K 11号土坑 (第12図)

ピア17(下り)区北西、4P-37 グリッドに位置し、東にK2号土坑が隣接する。西側1/2は削平されていて残存平面は半円形を呈す。長軸1.64 m、短軸0.84 m、深さ0.10 mを測り、断面は皿状で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K 12号土坑 (第12図)

ピア17(下り)区南西、4P-35 グリッドに位置する。西側1/2は攪乱されていて、残存平面は長方形を呈す。主軸はN-11°-Eを指す。長軸1.36 m、短軸0.80 m、深さ0.33 mを測り、断面は逆台形で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K 13号土坑 (第12図)

ピア17(下り)区南東、4Q-35 グリッドに位置する。平面は長方形を呈す。主軸はN-90°-Eを指す。長軸2.46 m、短軸0.64 m、深さ0.08 mを測り、断面は逆台形で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K 21号土坑 (第12図)

ピア17(下り)区東、4P-36 グリッドに位置する。南側にK22号土坑が縦列で検出される。平面は長方形を呈す。主軸はN-0°-Eを指す。長軸1.42 m、短軸0.56 m、深さ0.23 mを測り、断面箱形で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

K 22号土坑 (第12図)

ピア17(下り)区西、4P-36 グリッドに位置する。平面は長方形を呈す。主軸はN-7°-Eを指す。長軸1.90 m、短軸0.62 m、深さ0.21 mを測り、断面箱形で灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

(2) ビット (第10図)

K4号土坑北西に近接して検出されたK1ビットの1基のみ発見された。円形を呈し、深さは0.2 mと浅く、柱穴となるようなものではない。覆土に焼土粒を含む。

(3) 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は6点(40.5g)で、その内訳は瀬戸・美濃系磁器皿1点(5g)、瀬戸・美濃系陶器皿1点(4g)・陶器碗1点(4g)、肥前系磁器碗1点(0.5g)・磁器皿1点(3g)、鉄製品1点(24g)で、そのうち鉄製品1点を図化した。

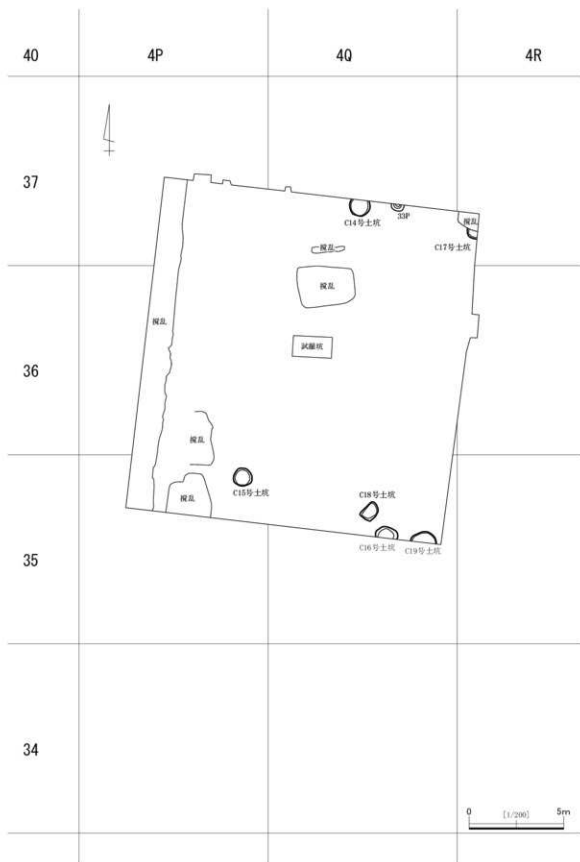
遺構外出土遺物(第12図、第23表、図版52)

k1は鉄製の紡錘車で軸の両端部を欠損する。

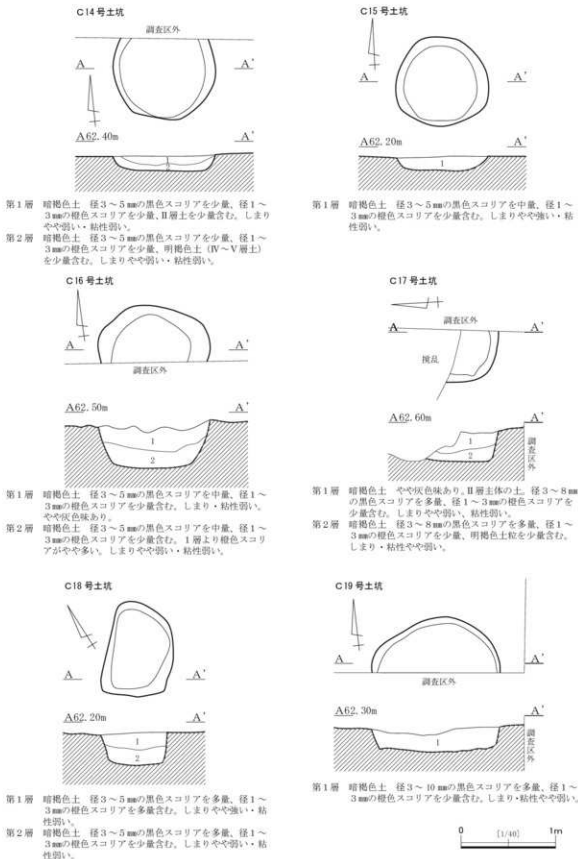
2 中世

今回の調査で発見された中世の遺構は、土坑6基、ビット1基の合計7基となる。遺構の分布は、調査区北東隅、南東隅に偏りを見せるが、やや疎らである。調査区域外へかかるものが多く、全体を把握できる遺構はC14号土坑とC15号土坑の2基だけである。遺物は、遺構外から陶器2点(14g)が出土する。

覆土は、基本土層のII層に類似する遺構を中世とした。またIIIa層に類似する覆土のC18号土坑も、H1号住居跡より新しいものであることから、中世の遺構に含めた。遺物が出土していないので、具体的な時



第13図 中世遺構配置図 [1/200]



第14図 C14～19号土坑[1/40]

期は不明で、全体的な時間幅は、平安時代の竪穴住居以降、宝永火山灰降灰以前である。土質から見たら、平安時代後半から中世前半の可能性もある。遺物が極めて少ないことや居住関連と考えられる遺構がないことから、中世の土地利用は、耕作関係に限定されていると考えられる。

(1) 土坑(第13図、第5表)

土坑は6基検出され、発見されたのはいわゆる円形土坑に類するものである。

C14号土坑(第14図)

ビア17(下り)区北東、4Q-37 グリッドに位置し、北壁際に位置していて、3/4は調査区外に広がり調査した平面は円形を呈す。長軸1.08 m、短軸(0.84) m、深さ0.14 mを測り、断面は皿状で、Ⅱ層相当である。遺物は出土していない。

C15号土坑(第14図)

ビア17(下り)区南西、4P-35 グリッドに位置する。平面はほぼ円形を呈し、長軸1.00 m、短軸0.92 m、深さ0.16 mを測り、断面は皿状を呈し、Ⅱ層相当である。遺物は出土していない。

C16号土坑(第14図)

ビア17(下り)区南東隅、4Q-35 グリッドに位置する。南側は調査区外に広がる。1/2の調査である。平面は円形を呈すと推定され、長軸1.16 m、短軸(0.54) m、深さ0.46 mを測り、断面は鍋底状を呈し、Ⅱ層相当である。遺物は出土していない。

C17号土坑(第14図)

ビア17(下り)区北東隅、4R-37 グリッドに位置する。東側は調査区外に広がる。北側は攪乱されていて、1/4の調査である。平面は円形を呈すと推定され、長軸(0.84) m、短軸(0.56) m、深さ0.30 mを測り、断面は箱形で、Ⅱ層相当である。遺物は出土していない。

C18号土坑(第14図)

ビア17(下り)区南東隅、4Q-35 グリッドで、南側にC16号土坑が位置する。また、平安時代のH1号住居跡と重複する。平面はやや歪んだ長方形を呈し、長軸1.00 m、短軸0.70 m、深さ0.34 mを測り、断面は箱形で、Ⅱ層相当である。遺物は出土していない。

C19号土坑(第14図)

ビア17(下り)区南東隅、4Q-35 グリッドに位置する。南側は調査区外に広がりを見せていて、1/2の調査である。平面は楕円形を呈すと推定され、長軸1.34 m、短軸(0.56) m、深さ0.28 mを測り、断面は皿状を呈する。遺物は出土していない。

(2) ビット(第13図)

ビットは調査区北壁にかかっているC33号ビットの1基だけである。北側は調査区外に広がりを見せて、平面形は円形を呈すと推定され、残径0.69 m、深さ0.34 mで覆土はⅡ層相当である。

(3) 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は2点(14g)である。その内訳は南伊勢産の陶器鍋片1点(5g)、産地不明陶器壺片1点(9g)である。いずれも小片のため図化していない。

3 奈良・平安時代

今回の調査で発見された奈良・平安時代の遺構(第15図、図版7)は、竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡3棟、柱穴と考えられるビット70基(掘立柱建物跡の柱穴を含む)、性格不明であるが焼土址1基の計78基である。

掘立柱建物跡はビット群の調査を行いながら、建物跡として組めるものを抽出したものである。調査区の東寄り及び南端に竪穴住居跡が分布し、調査区の中央部分で掘立柱建物跡が分布している。Ⅲb層を検出面として発見され、Ⅲa層もしくはⅢb層から掘り込まれている。覆土は主にⅢa層を基調とする黒色スコリア質の土である。竪穴住居跡の調査にあたっては、住居跡各辺のほぼ中央を通り直交する2本の土層観察用断面を設定して、住居跡を4分割して覆土を掘削した。4分割した区画は、カマドのある辺に向かって右側の区画をA区として、以下右回り（時計回り）にB区、C区、D区と呼称した。覆土中出土の一括遺物は、この区画ごとに取り上げ、おおむね上層、中層、下層、床面、掘り方（貼り床）の区分を付けた。層位区分を記していないものは、覆土一括取り上げである。主要遺物については、覆土中出土、床面出土にかかわらず、座標記録による取り上げを行い、必要に応じて出土状況図を作成した。遺物は、土師器6,015点（39,772g）、須恵器94点（1,002g）、石製品1点（39g）、鉄製品15点（293g）の計6125点（41,106g）である。

（1）住居跡

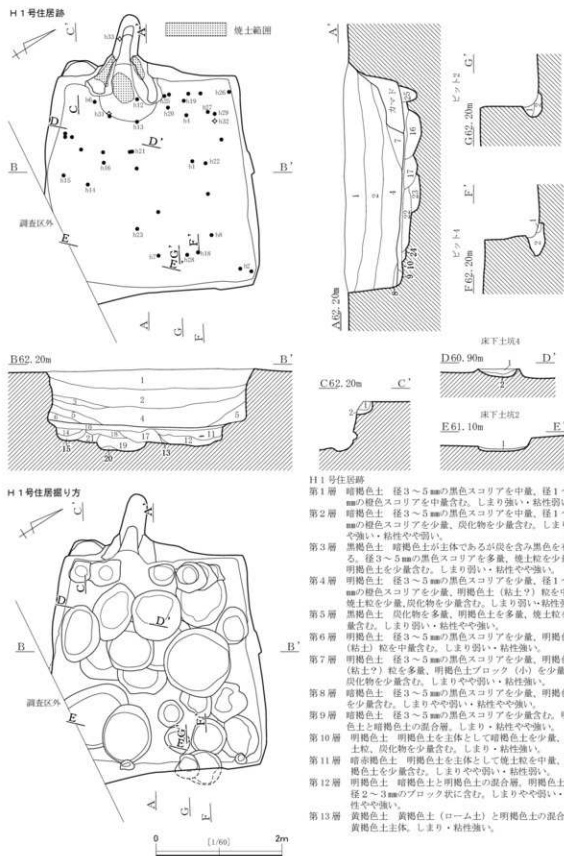
H1号住居跡（第16～18図、図版8）

調査区の南端にあり、南隅が調査区域外となる。4Q-35グリッドに位置する。主軸はN-57°-Wを指す。長軸3.58m、短軸3.38m、深さ1.20mを測る。平面形はやや歪んだ方形を呈し、西壁のやや南寄りにカマドが設置される。Ⅲa層中で存在が把握されたが、その段階では平面形状は実際の住居跡壁の位置よりも若干外側の位置で確認された。この住居跡は検出面から床面までの深さが0.8mあり、本地区で発見された竪穴住居跡の中でH3号住居跡に次いで深い。調査区南壁面で観察された掘り込み面はⅢa層で、調査区壁の土層断面で確認された床面までの深さは約1.0mで、主にⅢa層を基調とする黒色スコリア質の土である。床は貼り床でローム混じりの土であるが、顕著な硬化面は形成されていない。カマドは西壁のやや南寄りにあり、残存状況はあまり良好ではない。袖部はローム土を使って作られる。煙道は斜り抜き式で作られていたことが、断面観察で判断された。カマド燃焼部の底部および煙道立ち上がり部分の底部と側壁部分は良く焼けて赤褐色に焼土化していた。カマド天井部は残存していない。カマドの左側の住居跡壁には、幅約60cm、奥行き約20cm、深さ約20cmのテラス状の掘り込みが作られていて、その底部と壁面にはローム土が貼り付けられていた。このテラス状施設は、当初H1号住居跡に切られる土坑として把握していたのであるが、住居跡のコーナー部分に一致していることと、奈良・平安時代の覆土の土坑で住居跡より古いものが他に無いこと、ローム土を底部や壁面に貼るという作り方が本住居跡の床下土坑と同じ作り方であること等から、本住居跡に伴う施設として捉えることが妥当と判断した。また本住居跡のカマドとは対辺となる東壁には、横穴状のビットが4箇所発見された。何れも小さいもので貯蔵穴とするには小形であるが、東壁中央部の2穴は新旧があり、ほぼ床面と同じ深さから横へ掘り込まれている。貼り床を除去すると、床下のほぼ全面で土坑が検出された。土坑は20基発見されたが、土坑20はカマド左側の住居跡隅部分に位置していて、床面から掘り込まれた貯蔵穴である可能性が高い。土坑18・19はそれぞれカマド袖の真下に位置していて、カマド構築に関わる掘り込みの可能性が高い。これら以外の土坑1～17がいわゆる床下土坑に該当するものであり、直径40cmから110cmほどまでのものが重複して作られている。床下土坑の覆土は主に焼土混じりの土であるが、ほとんどの床下土坑は黄褐色土（ローム土）主体の土を貼り付けて壁が作られていたため、床下土坑相互の新旧関係は明確であった。

本住居から出土した遺物は3,616点（41,708g）で、その内訳は奈良・平安時代の土師器杯363点（21,722g）・甕3,205点（19,314g）、須恵器杯34点（289g）・蓋2点（22g）・瓶2点（57g）・甕6点（75g）、鉄鋸類4点

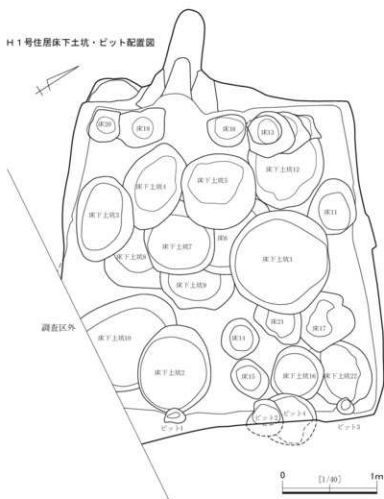


第15図 奈良・平安時代遺構配置図 [1/200]



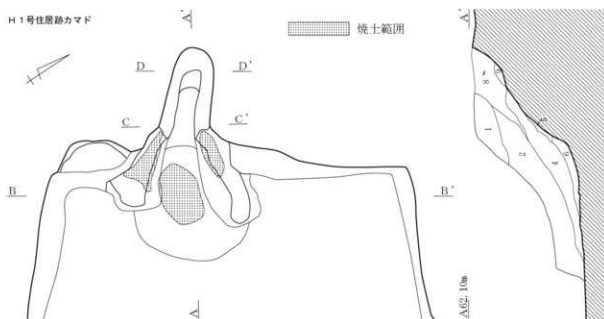
第16図 H1号住居跡（1）[1/60]

- 第14層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱い。
 第15層 明褐色土 明褐色土を主体として暗褐色土を少量。黄褐色土ブロック(径2~3cm)を中量含む。しまりやや強い・粘性強い。
 第16層 明褐色土 明褐色土と暗褐色土の混合土。暗褐色土を中量、明褐色土ブロックを少量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性やや強い。
 第17層 明褐色土 明褐色土を主体として暗褐色土と黄褐色土を少量。焼土粒を少量含む。しまり・粘性やや強い。
 第18層 暗赤褐色土 明褐色土を主体として焼土粒を少量。炭化物を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
 第19層 明褐色土 黄褐色土を少量。焼土粒を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
 第20層 明褐色土 明褐色土と黄褐色土の混合土。しまり・粘性強い。
 第21層 明褐色土 明褐色土を主体として暗褐色土を少量。黄褐色土を少量。焼土を中量。炭化物を少量含む。しまり・粘性やや強い。
 第22層 明褐色土 明褐色土を主体として暗褐色土を少量。焼土粒を少量。炭化物と灰を少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
 第23層 明褐色土 黄褐色土を少量。暗褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性強い。
 第24層 明褐色土 しまり強く、粘性強い。
 第25層 明褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。黄褐色土を少量。炭化物を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。第20層よりもやや強い。
- H11号住居跡床下土坑2
 第1層 暗赤褐色土 明褐色土主体で焼土粒を中量。黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
 H11号住居跡床下土坑4
 第1層 暗赤褐色土 明褐色土主体で焼土粒を中量。炭化物を少量。灰を少量含む。しまり・粘性やや強い。
 第2層 明褐色土 黄褐色土を中量。炭化物を少量含む。しまり・粘性強い。
 H11号住居跡ピット2
 第1層 暗褐色土 明褐色土を中量含む。しまり弱い・粘性強い。ローム粒と暗褐色土の混合層だがスコリアはほとんど含まれない。
 第2層 明褐色土 ローム粒を主体として暗褐色土粒を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
 H11号住居跡ピット4
 第1層 暗褐色土 径3~5mmの黒色スコリアを少量。径3mmの棕色スコリアを少量。明褐色土を少量含む。しまり強い・粘性やや強い。
 第2層 暗褐色土 径3~5mmの黒色スコリアを少量。明褐色土を中量。明褐色土のブロックを少量含む。しまり弱い・粘性やや強い。

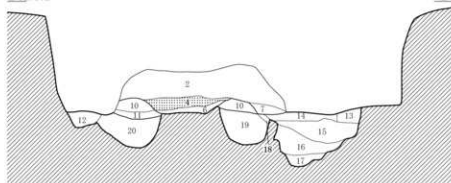


第17図 H11号住居跡(2) [1/40]

H1号住居跡カマド



B62, 10m



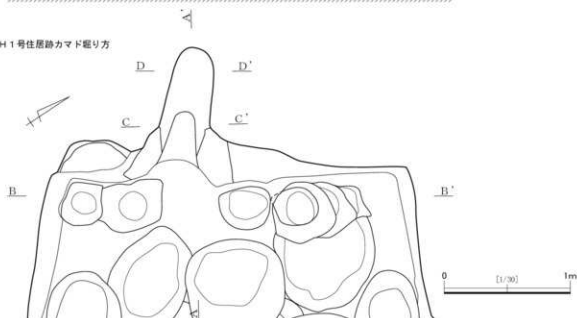
C62, 10m



D62, 10m



H1号住居跡カマド掘り方



第18図 H1号住居跡カマド(1) [1/30]

- 第1層 暗褐色土 天井部土層、Ⅲ層主体。径3～5mmの黒色スコリアを中量、径1～3mmの橙色スコリアを少量含む。しまり強い・粘性やや弱い。
- 第2層 径3～5mmの黒色スコリアを少量、暗褐色土主体で明褐色土と黄褐色土ブロックを少量含む。炭化物を少量、焼土粒を少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
- 第3層 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの橙色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第4層 暗褐色土と明褐色土の混合土。暗褐色土を少量、径3～5mmの黒色スコリアを少量含む。しまりやや弱い・粘性なし。
- 第5層 被熱した明褐色土。赤変していないが若干黒変あり。しまりやや強い・粘性なし。
- 第6層 灰白色土 灰白色土と灰の混合土。焼土粒を少量含む。しまり弱い・粘性ややあり。
- 第7層 明褐色土 明褐色土主体で暗褐色土を少量、焼土粒を少量含む。しまりやや弱い・粘性あり。
- 第8層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを中量、焼土粒を中量、明褐色土を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
- 第9層 暗褐色土 径3mmの暗色スコリアを少量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第10層 黄褐色土 黄褐色土(ローム土)と明褐色土の混合土。焼土と炭化物を少量含む。しまりやや強い・粘性強い。
- 第11層 明褐色土 明褐色土と暗褐色土の混合土。焼土を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
- 第12層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。しまりやや強い・粘性強い。床下土坑20。
- 第13層 黄褐色土 ローム土主体。暗褐色土を少量含む。しまり・粘性強い。粘り床。
- 第14層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。しまり・粘性強い。粘り床。
- 第15層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。焼土粒を中量含む全体に赤みを帯びる。しまり弱い・粘性やや弱い。床下土坑13。
- 第16層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。黄褐色土ブロックを少量含む・しまり弱い・粘性やや強い。床下土坑13。
- 第17層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。赤褐色土ブロックを少量含む。しまりなし・粘性やや強い。床下土坑13。
- 第18層 黄褐色土 黄褐色土と明褐色土の混合土。しまりやや強い・粘性強い。床下土坑18。
- 第19層 明褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。黄褐色土を少量、炭化物を少量含む。しまりやや強い・粘性強い。床下土坑18。
- 第20層 明褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。黄褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性強い。床下土坑19。

H1号住居跡カマド(2)

(229g)である。34点を図化した。

H1号住居跡出土遺物(第19・20図、第30・32表、図版52・53)

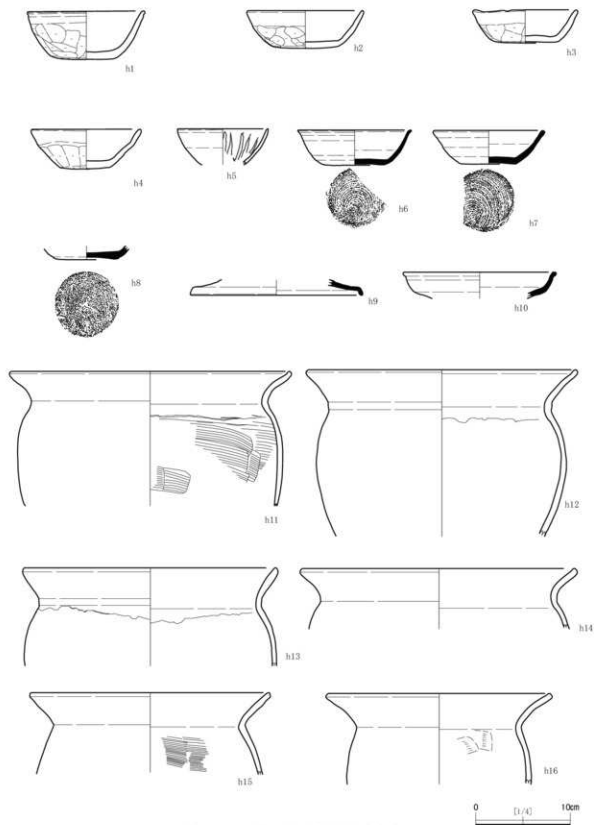
h1～h5は土師器坏、h6～h8は須恵器坏、h9は須恵器坏蓋、h10は須恵器高付盤または皿、h11～h24は土師器甕の口縁部～体部上半である。h25～h28は土師器甕の体部下半～底部である。h29は須恵器甕屑部破片である。h30・h31は鉄鍔の茎部分、h32は不明鉄製品で、断面は波状を呈する。h33も不明鉄片である。何らかの製品の破片と推測される。厚みがある。出土遺物から本遺構の帰属時期は9世紀前半と考えられる。

H2号住居跡(第21・22図、図版9)

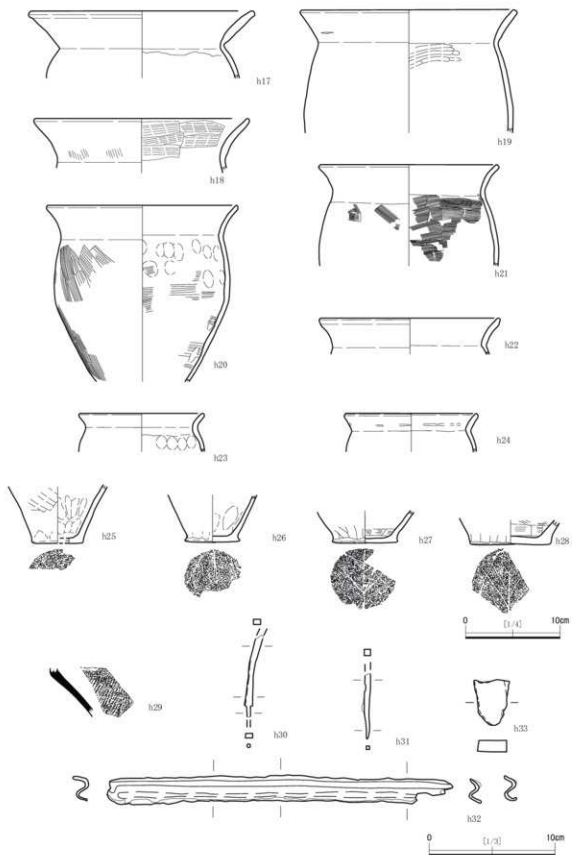
調査区中央やや北より東壁際、4Q-36グリッド付近に位置する。主軸はN-22°-Eを指し、長軸3.16m、短軸2.36m、深さ0.74mを測る。平面形はやや東西に長い方形を呈し、住居跡北東隅にカマドが作られている。H2号住居跡とH4号住居跡は隣接していて、双方のカマド先端部分が重複している。H2号住居跡の方が新しい関係にある。H2号住居跡のカマドは袖部の芯や燃焼室側壁に石を使用していて、カマド右横の住居跡床面には、カマド焚き口の天井石だった石ではないかと考えられる被熱した横長の石が置かれていた。H2号住居跡のカマド煙道部は地山割り抜き式で作られ、先端の煙出し部には、胴部下半を欠いた土師器の甕が倒立して設置されていた。カマド袖部には構築材であったと思われる粘土が少しばかり残り、焚き口部天井石と思われる石が外されて脇に置かれていたこと等と考え合わせると、カマドは解体され粘土が再利用のため除去されたと推測される。H2号住居跡の南壁際の東寄り一角には、60cm×35cmの範囲で高さ5cmほどの土壇状の高まりがローム土主体の明褐色土で作られていた。この部分からは土師器坏や石が出土していて、意図的な施設の可能性はある。また、カマド左側の壁際には、円形を呈する土坑が検出されたが、その用途は明らかではない。覆土は主にⅢa層を基調とする黒色スコリア質の土である。床は粘り床で、硬化面が形成されるが、際だって顕著なものではない。

H2号住居跡とH4号住居跡の住居跡はⅢa層中で存在が把握されたが、最初は1軒の住居跡と認識し、調査に着手したが、掘削を進めたところ2軒の住居跡であることが確認され、それぞれ別々に調査を進めた。

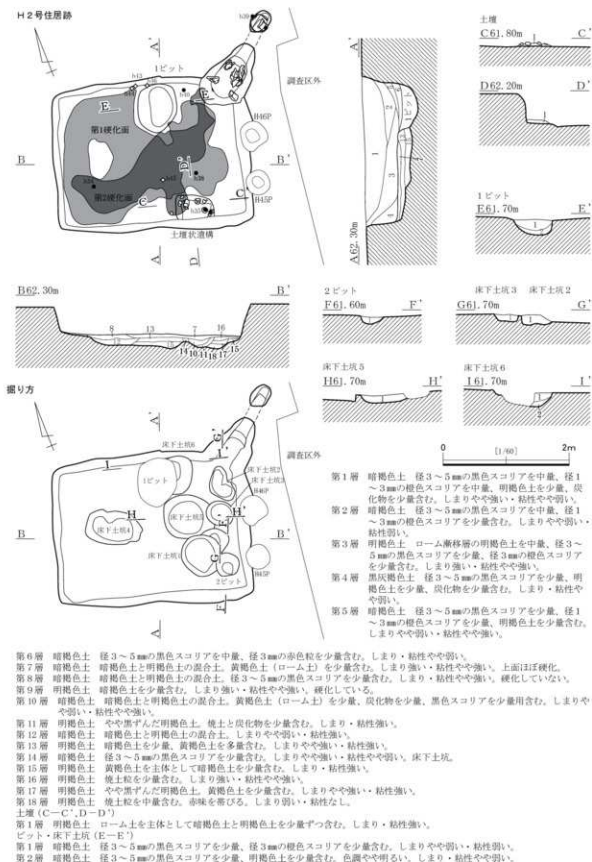
本住居から出土した遺物は751点(6,136g)で、その内訳は奈良・平安時代の土師器坏113点(687g)・甕614点(5,305g)、土師器壺3点(23g)、須恵器坏12点(68g)、須恵器坏蓋1点(16g)、須恵器甕2点(13g)、鉄製刀子類6点(24g)である。13点を図化した。



第19図 H1号住居跡出土遺物(1) [1/4]



第20図 H11号住居跡出土遺物(2) [1/4・1/3]



H2号住居跡カマド(F-F')

第1層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、炭化物を少量、明褐色土を多量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。

H2号住居跡床下土坑2・3(G-G')

第1層 暗褐色土 焼土粒を少量、炭化物を少量、明褐色土を少量含む。しまり強い・粘性やや弱い。

第2層 明褐色土 焼土粒を中量、暗褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性なし。

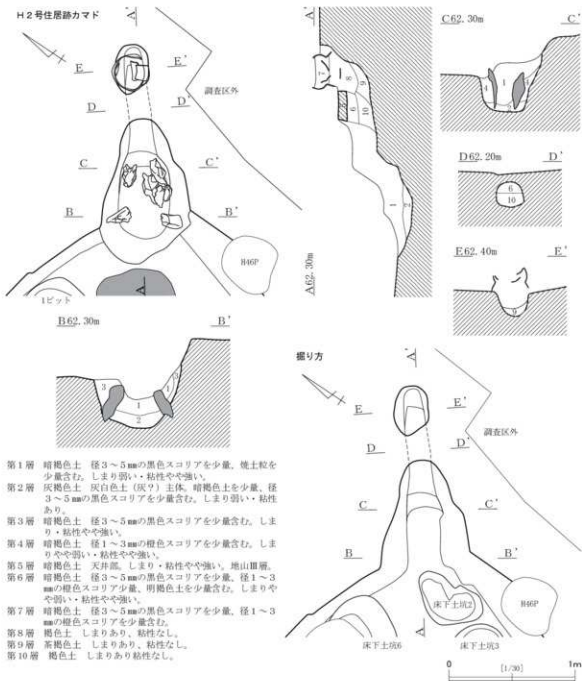
H2号住居跡床下土坑5(H-H')

第1層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを中量、径1～3mmの橙色スコリアを少量、明褐色土ブロックを少量含む。しまり・粘性やや強い。

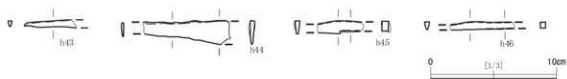
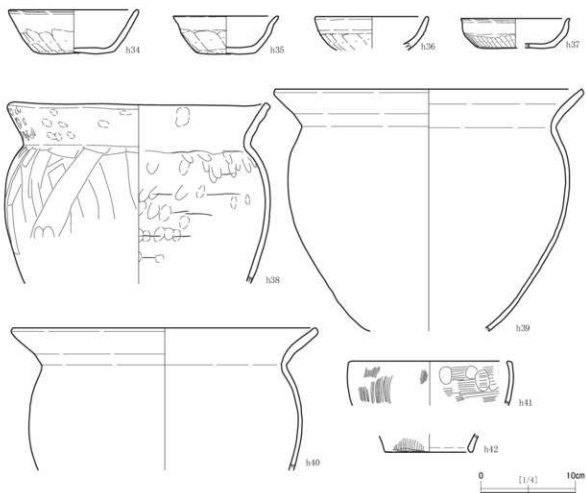
H2号住居跡床下土坑6(I-I')

第1層 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの橙色スコリアを中量、明褐色土を少量含む。しまり強い・粘性やや弱い。

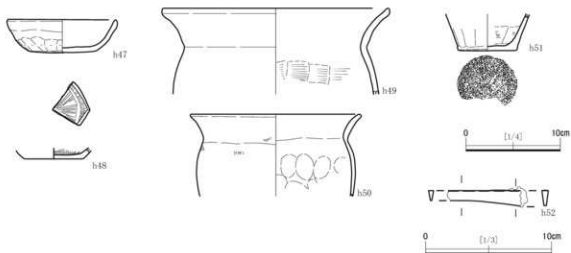
第2層 明褐色土と暗褐色土の混合土。炭化物を少量含む。しまり強い・粘性やや強い。



第22図 H2号住居跡カマド[1/30]

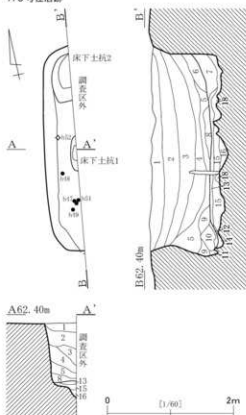


第23図 H2号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]



第24図 H3号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]

H3号住居跡



第25図 H3号住居跡[1/60]

- 第1層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを中量、径1～3mmの褐色スコリアを少量含む。しまりやや強い・粘性弱い。
- 第2層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを中量、径1～3mmの褐色スコリアを少量含む。しまりやや強い・粘性弱い。
- 第3層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、径2～3mmの明褐色土ブロックを少量、黒褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第4層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを中量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、黒褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第5層 黒褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを中量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、炭化物を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第6層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、黒褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性やや強い。
- 第7層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性やや強い。
- 第8層 褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性やや強い。
- 第9層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、黒褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性やや強い。
- 第10層 褐色土(暗褐色～明褐色土) V→VII層の崩落ブロック、1～2塊が横例しの状態。住居壁面の剥落土の可能性もあり。しまり・粘性強い。
- 第11層 褐色土 暗褐色土を少量、明褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性強い。
- 第12層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性やや強い。
- 第13層 暗褐色土(臥床床面) 暗褐色土、褐色土の混合層。明褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。あまり硬化していないが床面層と思われる。
- 第14層 明褐色土 明褐色土と暗褐色土の混合層。明褐色土を主体、暗褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性強い。
- 第15層 褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、明褐色土を少量、黒褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性やや強い。
- 第16層 褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、明褐色土を少量、黒褐色土を少量含む。第15層より暗い。しまり・粘性やや強い。
- 第17層 明褐色土 黄褐色～明褐色土を主体とする。暗褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性強い。

H2号住居跡出土遺物(第23図、第30・32表、図版52・54)

h34～h37は土師器杯、h38～h42は土師器甕、h41・h42は甕である。h43～h46は鉄製刀子で、いずれも破片である。出土遺物から本遺構の帰属時期は9世紀前半～中頃と考えられる。

H3号住居跡(第25図、図版10)

調査区中央南寄り東壁際に位置する。大部分が調査区域外にあり、ごく西壁の一部が調査された。4Q・R -36 グリッド付近に位置する。主軸はN -80° -Eを指し、長軸3.20m、短軸(0.58)m、深さ1.10mを測る。深さは検出面から床面まで0.90m、調査区東壁面での土層断面の観察では、深さ1.20mを測り、本調査区の中では最も深い。住居跡の縁辺部のためか、床面は軟弱で不明瞭であった。覆土は主にⅢA層を基調とする黒色スコリア質の土である。

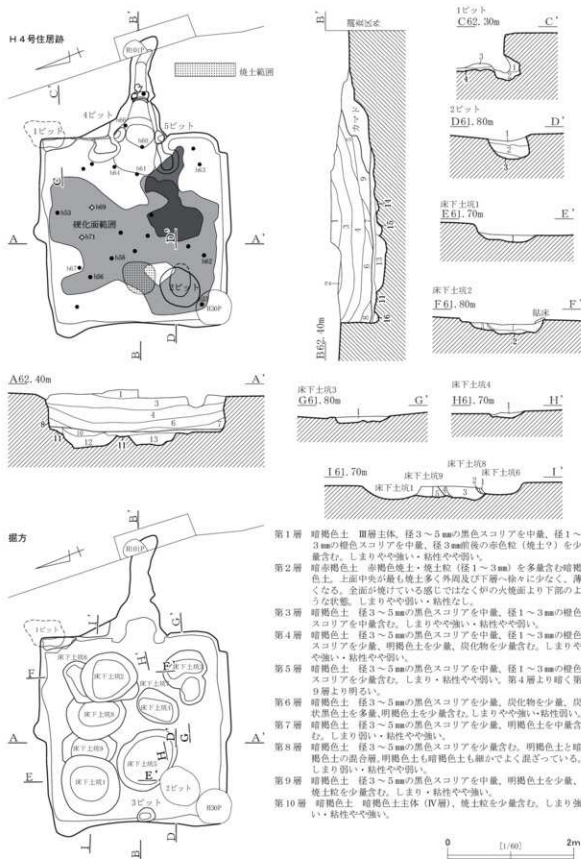
本住居跡から出土した遺物は143点(1,030g)で、その内訳は、奈良・平安時代の土師器杯30点(206g)・甕112点(818g)、鉄製刀子1点(6g)である。6点を図化した。

H3号住居跡出土遺物(第24図、第30・32表、図版52・54)

h47・h48は土師器杯、h49・h50・h51土師器甕、h52は鉄製の刀子である。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

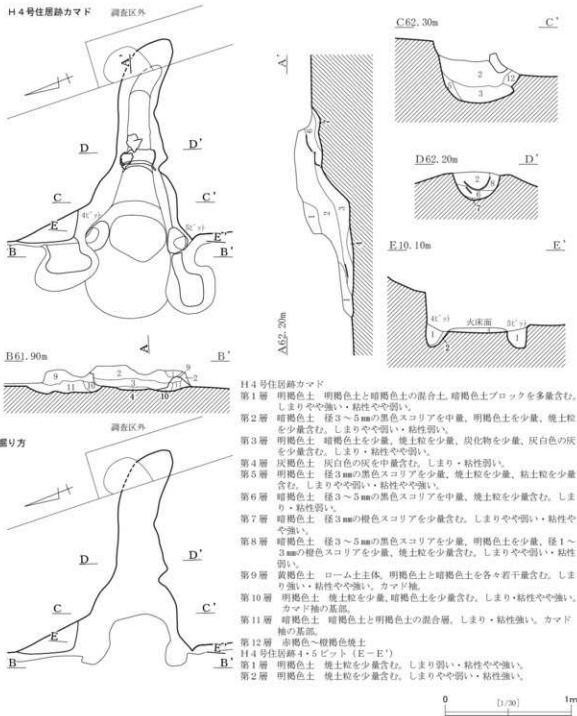
H4号住居跡(第26～27図、図版9)

調査区中央やや北より、東壁際の4Q・R -36 グリッド付近に位置する。主軸はN -69° -Wを指し、長軸3.06m、短軸3.04m、深さ0.74mを測る。覆土は主にⅢA層を基調とする黒色スコリア質の土である。平面形は方形を呈し、東壁中央部にカマドが作られている。カマドの残存状況はあまり良好ではないが、燃



第26図 H4号住居跡 (1) [1/60]

- 第11層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。明褐色土とローム土のブロックを少量含む。しまり強い・粘性やや強い。上面は硬化している部分が多い。貼り床。
 第12層 明褐色土 径2cmの明褐色土ブロックを多量、暗褐色土(IV層)を少量、ロームブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。床下土坑9。
 第13層 明褐色土 明褐色土 径2cmの明褐色土ブロックを多量、暗褐色土(IV層)を少量、ロームブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。床下土坑5。
 第14層 赤褐色焼土 赤く焼けた径3～5mmのスコリア粒を中量、炭化物を少量、灰を微量含む。しまりやや強い・粘性なし。
 第15層 暗褐色土 明褐色土を中量、径3～5mm黒色スコリアを少量含む。しまり強い・粘性やや強い。
 第16層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性やや強い。3ビット



第27図 H4号住居跡(2) [1/30]

- H4号住居床下土坑1 (E-E')
 第1層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。明褐色土を多量、黄褐色土（ローム土）を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
 H4号住居床下土坑2・6 (F-F')
 第1層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。赤褐色焼土粒を少量、炭化物を少量、黄褐色土塊を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
 第2層 暗褐色土 暗褐色土を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
 第3層 暗褐色土 暗褐色土を少量含む。径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量含む。粘性やや強い。
 貼り床 暗褐色土 明褐色土及び黄褐色土を中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性強い。
 H4号住居床下土坑3 (G-G')
 第1層 明褐色土 焼土粒を少量、炭化物を少量、灰を少量含む。しまり強い・粘性弱い。
 H4号住居床下土坑4 (H-H')
 第1層 赤褐色焼土 赤く焼けた径3～5mmのスコリア粒を中量、炭化物を少量、灰を少量含む。しまりやや強い・粘性なし。
 H4号住居床下土坑6・8・9 (I-I')
 第1層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性強い。
 第2層 黄褐色土 黄褐色土と明褐色土の混合土。しまり・粘性強い。
 第3層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。径3～5mmの黒色スコリアを少量、焼土粒を中量、明褐色土を中量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
 第4層 明褐色土 黄褐色土を少量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性やや強い。
 第5層 明褐色土 径2cmの明褐色土ブロックを多量、暗褐色土を少量、ロームブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。(4号住居跡第12層)
 H4号住居跡1ビット (C-C')
 第1層 暗褐色土 径3～5mmの黒色スコリアを少量、明褐色土を少量、炭化物を少量含む。しまり弱い・粘性やや強い。
 第2層 明褐色土 黄褐色土を少量を主体に暗褐色土と明褐色土を各少量含む。しまり弱い・粘性強い。
 第3層 暗褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。径3～5mmの黒色スコリアを少量、径1～3mmの褐色スコリアを少量含む。しまり強い・粘性やや強い。1ビット前面の両側。
 第4層 明褐色土 暗褐色土を少量含む。しまり・粘性強い。貼り床。
 H4号住居跡2ビット (D-D')
 第1層 明褐色土 暗褐色土と明褐色土の混合土。暗褐色土を少量、明褐色土を多量、ロームブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
 第2層 明褐色土 明褐色土を主体に。ロームブロックを中量含む。しまり弱い・粘性強い。
 第3層 明褐色土 ロームブロックを多量、焼土粒を少量含む。しまり弱い・粘性強い。

H4号住居跡 (3)

焼物火床面は良く焼けていた。煙道部は水平方向へ長く伸びるタイプである。カマド左側の住居跡壁面には、横穴式の土坑が穿たれていて、その前面は床面より若干小高く土堤状に作られていた。横穴状の土坑は貯蔵穴として作られたものと思われるが、内部からは何も出土しなかった。床は貼り床で硬化面が形成されていたが、全面に及ぶものではない。床面上では南西隅近くでビット2とした土坑状の掘り込みが検出されているが、用途は不明である。貼り床を除去すると土坑が9基検出された。いわゆる床下土坑とされるものであるが、覆土に焼土が堆積しているものが一部に認められたものの、粘土の堆積は認められなかった。西壁際でビット3が発見されたが、貼り床下のビットである。

本住居跡から出土した遺物は1,059点 (7,981g) で、その内訳は奈良・平安時代の土師器杯104点 (790g)・甕935点 (6,788g)・須恵器杯13点 (312g)・甕4点 (64g)・刀子・徳積具3点 (27g) である。18点を図化した。
 H4号住居跡出土遺物 (第28図、第30・32表、図版52・55)

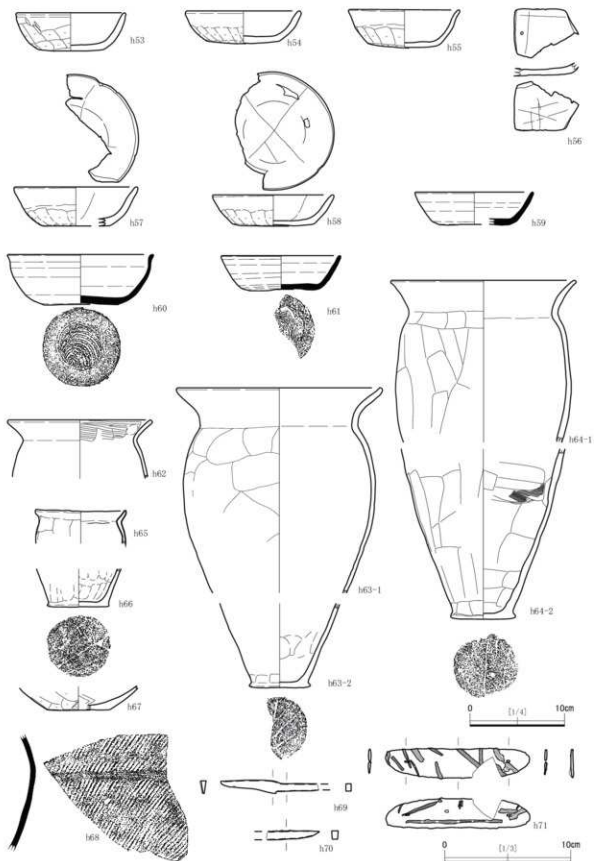
h53～h58は土師器杯、h59～h61は須恵器杯、h68は須恵器甕、h62～h67は土師器甕、h69は鉄製の刀子、h70は刀子または鉄鏝、h71は鉄製のいわゆる徳積具である。h63-1・2およびh64-1・2は接合しないがいずれも同一個体と推定される上半部と下半部が出土している。出土遺物から本遺構の帰属時期は8世紀後半と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡 (第29図)

掘立柱建物跡は3棟発見された。3棟はそれぞれ一部重複しているもので、時期が異なるものであるが、軸方向が近似している。またH3号住居跡を除く3軒の竪穴住居跡の軸方向とも近似するので、それぞれの掘立柱建物跡は竪穴住居跡に対応して作られたものの可能性がある。

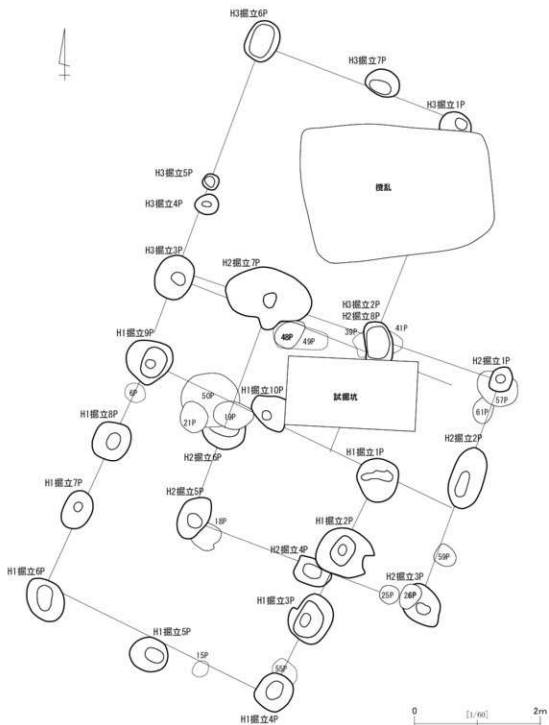
H1号掘立柱建物跡 (第30図、第5表、図版10)

調査区中央、3棟の建物の中で最も南側に位置し、4P・Q-36グリッド付近に位置する。主軸はN-26°-Eを指し、柱間が2間×3間で、桁行3.90m、梁間4.10mを測る。柱穴は覆土がⅢA層相当で、



第28図 H-4号住居跡出土遺物 [1/4・1/3]

H1～3 掘立柱建物



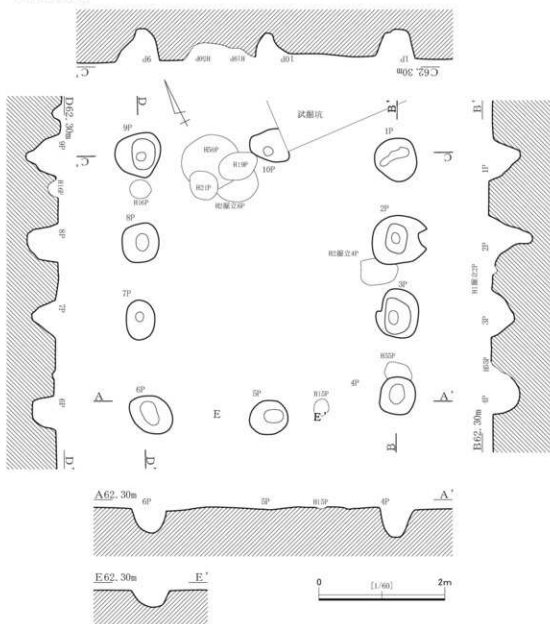
第29図 H1～3号掘立柱建物跡[1/60]

断面はU字状を呈する。平面形が円形を呈し、径0.60～0.99 m、深さ0.26～0.70 mを測る。遺物は1・2・3・4・8・10ピットから土師器片が出土する。

H2号掘立柱建物跡 (第31図、第5表、図版10)

調査区中央、3棟の建物の中でほぼ中央に位置し、4 P・Q -36 グリッド付近に位置する。主軸はN-21° - Eを指し、柱間が2間×2間で、桁行3.78 m、梁間3.86 mを測る。柱穴は覆土がⅢa層相当で、

H1号掘立柱建物



第30図 H1号掘立柱建物跡[1/60]

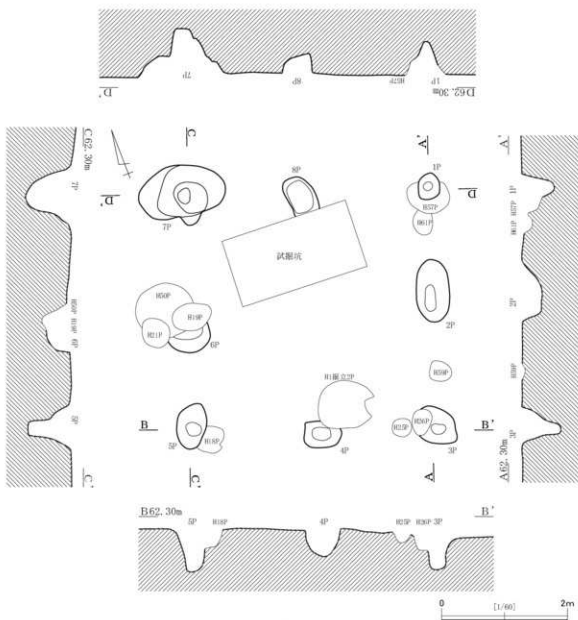
断面はU字状を呈する。平面形が円形を呈し、径0.74～0.42m、深さ0.70～0.26mを測る。遺物は1・2・3・4・5・6・7・8ビットから土師片が出土し、8ビットからは砥石1点(39g)が出土した。

H2号掘立柱建物跡出土遺物(第33図、第31表、図版54)

h72は砥石で半欠品であるが、仕上げ砥である。

H3号掘立柱建物跡(第32図、第5表)

調査区中央、3棟の建物の中で最も北にずれて位置し、4P・Q-36・37グリッド付近に位置する。主軸はN-21°-Eを指し、攪乱などによって柱穴が失われているために不明な部分があるが、2間×2間の柱間と推定される。長軸3.96m、短軸3.34mを測る。柱穴は覆土がⅢa層相当で、断面はU字状を呈する。平面形が円形を呈し、径1.39～0.42m、深さ0.77～0.31mを測る。西列の中央の柱穴ははっきりせず、建物の東側に攪乱のため東列中央の柱穴を失っている。遺物は1・5・7ビットから土師片が出土する。



第31図 H 2号掘立柱建物跡[1/60]

(3) ビット (第34図、第6表)

掘立柱建物の柱穴以外にも柱穴と考えられるビットが43基確認されているが、建物跡になるような組合せは見出せなかった。遺物の出土したビットが12基あり、古墳時代から奈良・平安時代の土師器坏・甕破片が出土する。いずれも小片のため図化していない。なお、H 72 ビットから鉄釘が出土する。

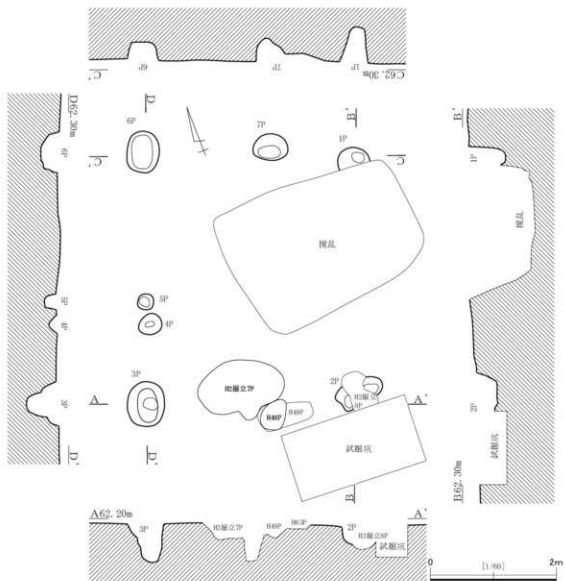
H 72 ビット出土遺物 (第33図、第32表、図版 52)

h73 は両端が欠損する角釘である。

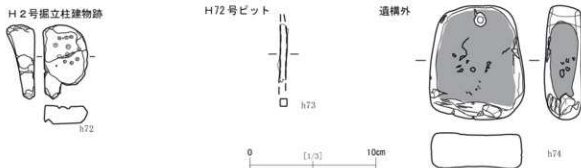
(4) 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は383点(2,715g)で、その内訳は古墳時代後期の土師器壺片1点(29g)と器種不明土師器片1点(7g)、奈良・平安時代の土師器坏片115点(531g)・甕片248点(1,728g)、須恵器坏片13点(54g)・甕片1点(13g)・瓶片3点(11g)、砥石1点(342g)である。石製品1点を図化した。

遺構外出土遺物 (第33図、第31表、図版 54)

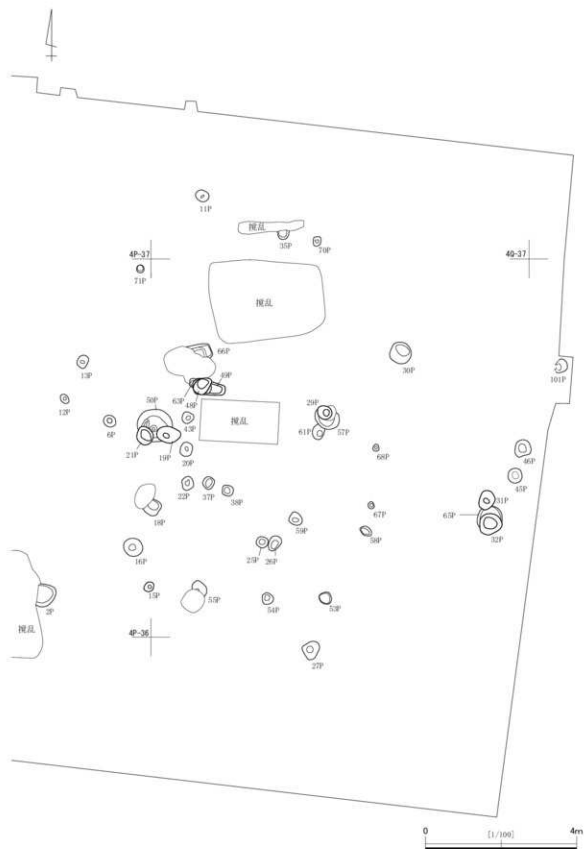


第32図 H3号掘立柱建物跡[1/60]



第33図 奈良・平安時代掘立柱建物跡・ビット・遺構外出土遺物[1/3]

h74 は砥石で、楕円形の盤状礫の四面を研磨している。上端に下げ孔が穿孔されている。遺構外出土であるが、奈良・平安時代の遺構に付帯するものと考えられる。



第34図 Hビット全体図 [1/100]

4 縄文時代

今回の調査で発見された縄文時代の遺構は、配石10基、土坑7基、ビット29基の46基である。

V層～VI層で配石が10基発見された。また配石の下位から、土坑状の掘り方が10基発見された。さらに配石や土坑とはほぼ同時期と推定されるビットが、合計29基発見された(調査区壁面で確認された断面だけのもの1基を含む)。遺構の分布は調査区北西側に多く、南東側では希薄である。緩やかな地形傾斜があつて北側が小高いことと関係していると思われる。配石や土坑は調査区域外へ続いているものがあり、西側および北西側へ遺構分布が広がっていて、分布の中心は北西側にあると思われる。

発見された配石は、J 8号配石が調査区東寄りにある以外は、調査区西側に分布していて、特に北西側に密である。調査区北西隅では、配石の縁が置かれている層位(V層の下部～VI層上面相当)にロームブロックと思われる黄褐色土を所々に含むV層類似土が分布していた。その範囲はJ 3号配石より北側で、J 4号配石を含む西側に多く見られ、J 3号配石やJ 2号配石の周辺では、一部に黄褐色土が点在しているところがあった。配石の縁を設置する際に、整地している可能性がある。配石検出面での微地形は、北側から南側へ緩やかに傾斜していて、配石等の分布の中心がビア17区からビア17区周辺の旧地形における最も小高い場所にあることが推測される。

縄文時代の遺物は縄文土器830点(13,891g)、石器137点(149,076g)が出土した。特に遺構外の縄文時代包含層からは全体的に出土量が少なく、ビア18区などの居住域とされるエリアとは大きく異なる様相である。この配石周辺は周辺から見ても、微高地上にやや高い場所でもあり、遺物包含層などが形成されない場所として維持されていたのではないかと推測される。

(1) 配石

J 1号配石 (第36図、図版4)

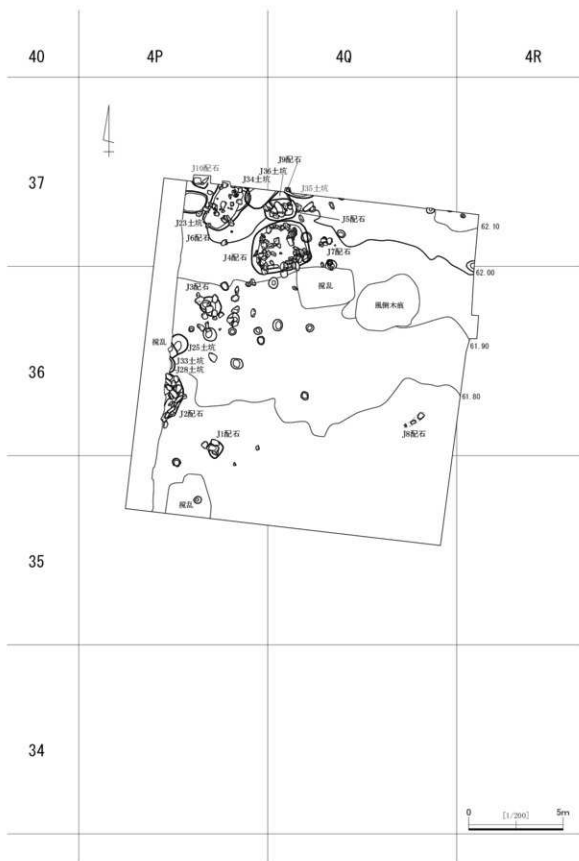
調査区の南側4P-36グリッドで、配石の中では最も南側で標高が低い場所に位置する。J 1号配石は、側面の中央部が丸味を持ち凹む大形の石皿を立石状に据えて根元を3点の平たい縁で固めている。J 1号配石のほぼ真下には楕円形の掘り方が検出され、長軸0.80m、短軸0.56mで、深さ0.32mの鍋底状を呈し、配石の埋没土はVa層相当の堆積土で掘り方の埋没土はVI層相当の堆積土である。掘り方内から遺物は出土していない。出土遺物は、据えられていた大形石皿(100,000g)と配石周辺から土器片1点(7g)や縁が出土する。

J 1号配石出土遺物 (第37図、第33・35表、図版59・79)

j1は大形の石皿である。75.2×38.5×31.7cmで、重量100kgの大形品で、変質ドレライトを素材とし、やや丸みを帯びる舟形の大形縁の曲面内側を磨いて石皿面とする。石皿面は窪んでいて磨り痕が認められる。j2は格子目文を持つ堀之内式～加曾利B式の粗製土器である。

J 2号配石 (第38図、図版4)

調査区西側4P-36グリッドで、J 2号配石の西側は市道の法面の攪乱で壊されている。やや角がある楕円形を呈し、遺構としては残存部分の方が少ないと思われ、全容は不明である。J 2号配石は掘り方を伴っていて、地山(VI層)を若干掘り込んでその中に縁を配し、一部重ねていた。縁は密集して20点残存する。配石の縁の縁の中には、立石状に立てられているものもみられた。また配石の南東側には配石の縁の外面になるような位置に、石棒の一部を立てるように置かれていた。J 2号配石の掘り方は残存部を見ると楕円



第35図 縄文時代遺構配置図 [1/200]

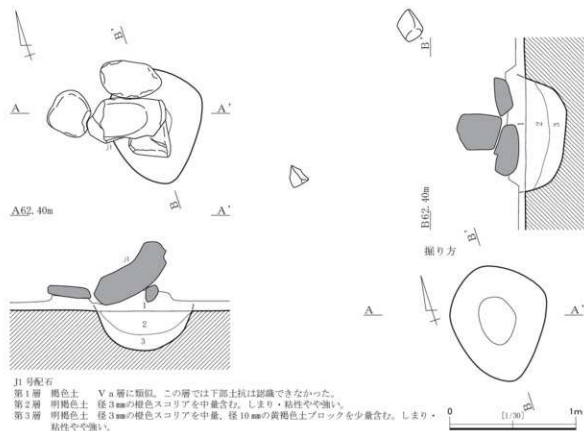
形を呈すると考えられ、長軸 2.54 m、残存短軸 1.00 m で、断面形は皿状で、深さ 0.22 m で配石の埋没土は V a 層相当の堆積土で掘り方の埋没土は VI 層相当の堆積土である。掘り込みはほぼ号配石の範囲と一致し、底部は配石の縁を据えた凹凸がある。掘り方内からも縁が出土した。出土遺物は、土器片 6 点 (216g) と石棒 (14, 400g)、黒曜石原石 1 点 (4g) が出土する。

J 2 号配石出土遺物 (第 39・310 図、第 33・35・44 表、図版 59・81)

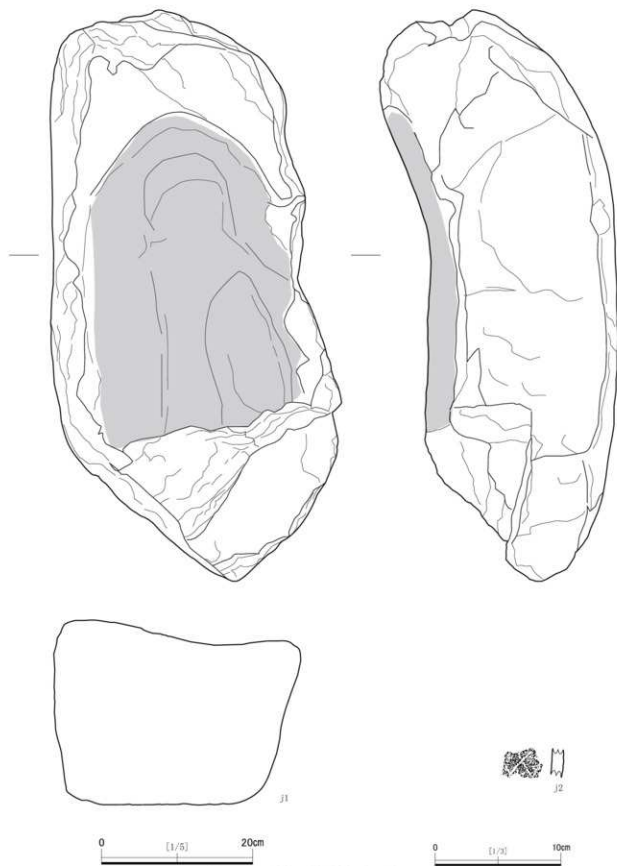
j4 は「()」状文を配する深鉢で、j5 は無文の口縁部破片である。j6 は底面に網代を残す深鉢の底部である。時期は堀之内 2 式期から加曾利 B 1 式期にあたると思われる。j3 の石棒は被熱を強く受けていて、表面はタマネギ状に剥落する。径 17 ~ 20 cm の断面が楕円形の大形石棒で上下両端を欠損する。j641 は黒曜石の原石で重さ 4.2g を量り、蛍光 X 線分析では霧ヶ峰産である。

J 3 号配石 (第 40 図)

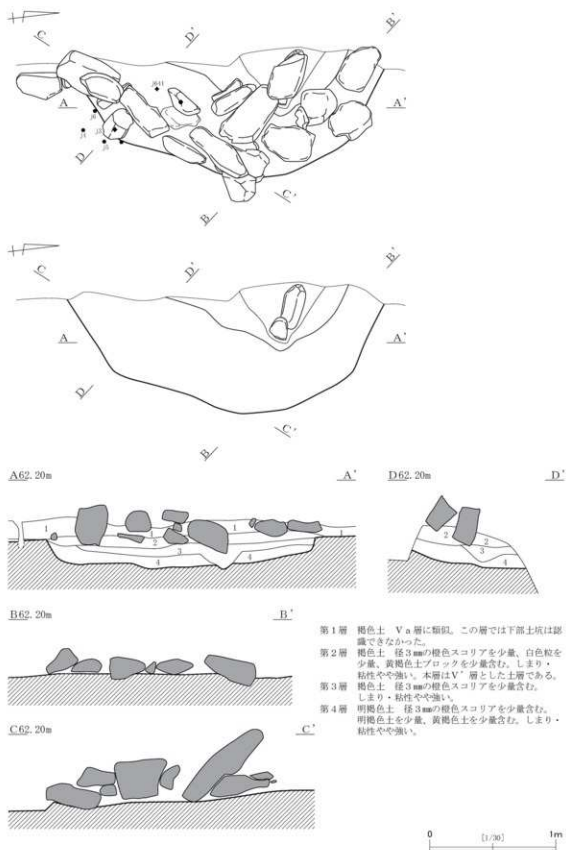
4 P-36 グリッドで、調査区北側に位置する。J 3 号配石は J 2 号配石と J 4 号配石の間にあり、長軸 3.18 m、短軸 2.16 m の円形の範囲に平たい縁がやや散漫に分布している。範囲内では、北西側に縁のまとまりがあり、その南東側に広がる縁をあわせて J 3 号配石とした。直径 30 ~ 50 cm ほどの扁平な縁 19 点を並べように配置している。J 3 号配石の北西側の縁のまとまりの下には、やや不整な円形を呈する掘り方がある。長軸 1.16 m、短軸 1.00 m で、深さ 0.28 m の鍋底状を呈し、配石の埋没土は V a 層相当の堆積土で掘り方の埋没土は VI 層相当の堆積土である。掘り方内からは縄文時代後期の土器片 1 点が出土する。掘り方の下位で、VI 層中にビットが発見されるが、配石との関連は不明である。出土遺物は、土器片 23 点 (523g) と黒曜石剥片類 2 点 (2g) が出土する。



第36図 J 1 号配石 [1/30]

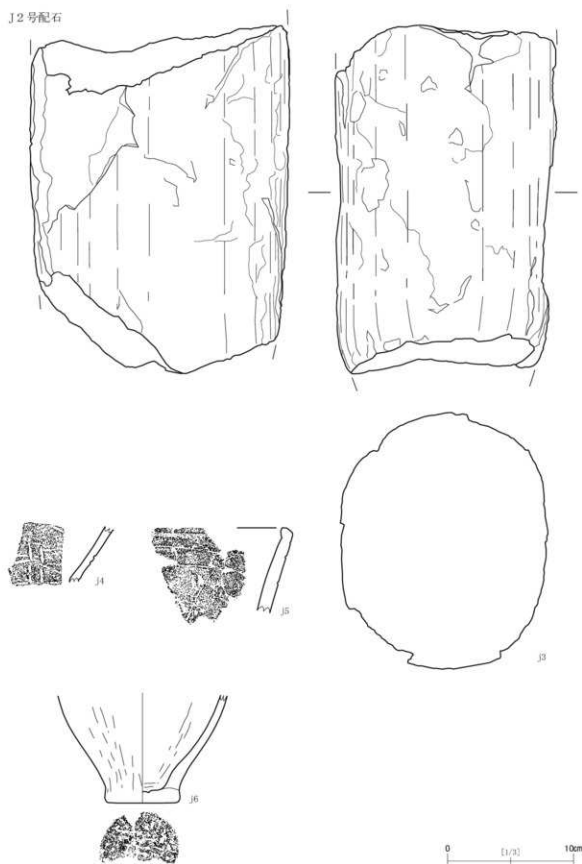


第37図 J1号配石出土遺物〔1/5・1/3〕

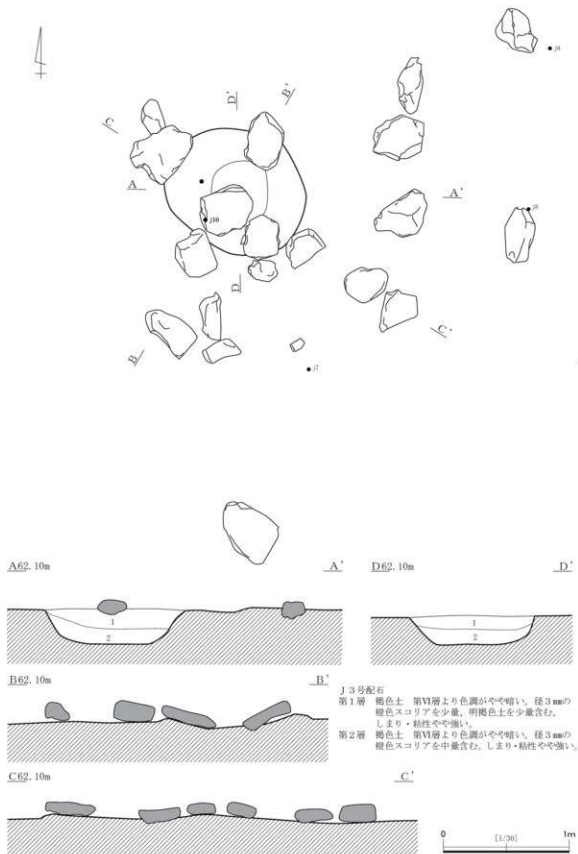


第38図 J2号配石 [1/30]

J2号配石



第39図 J2号配石出土遺物[1/3]



第40図 J3号配石 [1/30]

J 3号配石出土遺物（第43図、第33表、図版59）

j7・j9・j10は堀之内式の深鉢である。j8が口縁部に刺突文を施した突起が配され、口縁下には「()」状文を配する加曾利B 1式の深鉢である。遺構の時期は堀之内2式期から加曾利B 1式期にあたる。

J 4号配石（第41・42図、図版5・6・11）

調査区の北側4 Q-37グリッドで、J 4号配石は調査区北部にあり、やや不整な方形に配された64点の礫のまとまりである。平たい礫は少なく、立体的な礫が多い。配石内の東寄りの位置に頭部が折損した石棒が立てられていて、頭部は折れてJ 4号配石の東端に横たわっていた。また割れ口部分の破片が1号・2号配石の付近から出土している。J 4号配石の下には掘り方があり、配石とほぼ重なる位置にある。掘り方は隅丸方形を呈し、長軸3.06 m、短軸2.60 mで、深さ0.35 mで断面は鍋底状を呈し、配石の埋没土はV a層相当の堆積土で掘り方の埋没土はVI層相当の堆積土である。底面には各隅に近い四方に礫が配置されていて、北東側の下層から石皿片が、中央部の底面から磨石が出土した。出土遺物は、土器片35点（441g）と石棒・石皿片・磨石（32,300g）と黒曜石剥片類4点（4g）が出土する。

J 4号配石出土遺物（第43・44図、第33・35表、図版59・80）

j11は称名寺式である。j13・j14～j16は堀之内2式の土器である。j12は「()」状文を配する深鉢で、加曾利B 1式である。遺構の時期は堀之内2式期から加曾利B 1式期にあたると思われる。

石器は石皿・石棒・磨石が出土する。j18の石皿は表面の窪みに沿って円孔が穿たれている。裏面には円孔が不規則に並んでいる。j17の磨石は、掘り方底面中央置かれていた磨石で上面が磨られている。j19の石棒は配石内に立っていた下部のものと近くから出土した頭部が接合した無頭の石棒である。断面は楕円形を呈し、器面は良く磨かれ、被熱を受けている。元々は1 mほどの大形石棒のと考えられ、石材は安山岩で箱根方面の産出と推定される。

J 5号配石（第41・42図、図版6）

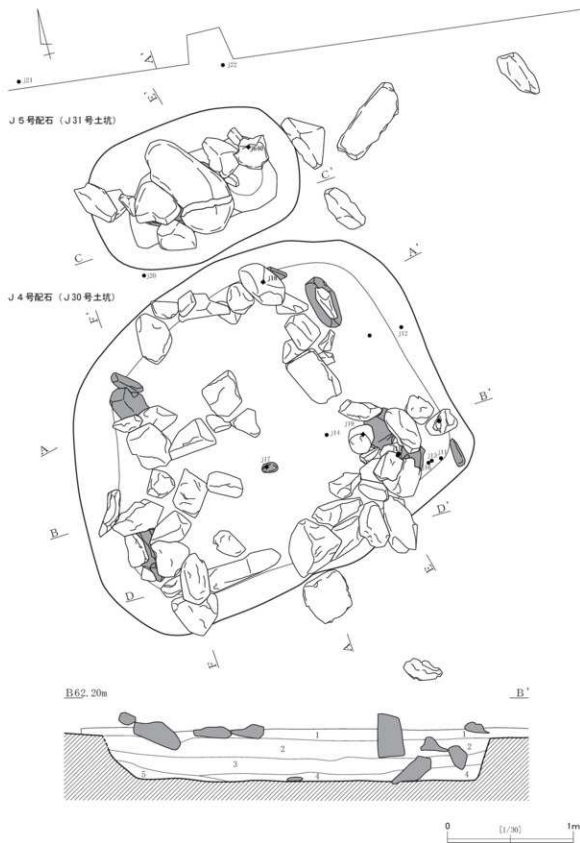
20 東区の北側4 Q-37グリッドで、J 5号配石は、J 4号配石の北隣に近接して東西に並んでいる16点の礫のまとまりである。中央部に大形礫が横たわり、その左右にやや小形の礫が並んでいる。大形礫の下には掘り込みが有り、掘り込み内のJ 5号配石の大形礫の直下には扁平な礫が2つ重ねて置かれていて、大形礫を支えているようである。長軸1.70 m、短軸1.1 mで、深さ0.33 mで断面は鍋底状を呈し、配石の埋没土はV a層相当の堆積土で掘り方の埋没土はVI層相当の堆積土である。出土遺物は、土器片36点（335.7g）と黒曜石1点（0.3g）・原石1点（12.2g）が出土する。

J 5号配石出土遺物（第47・310図、第33・44表、図版60）

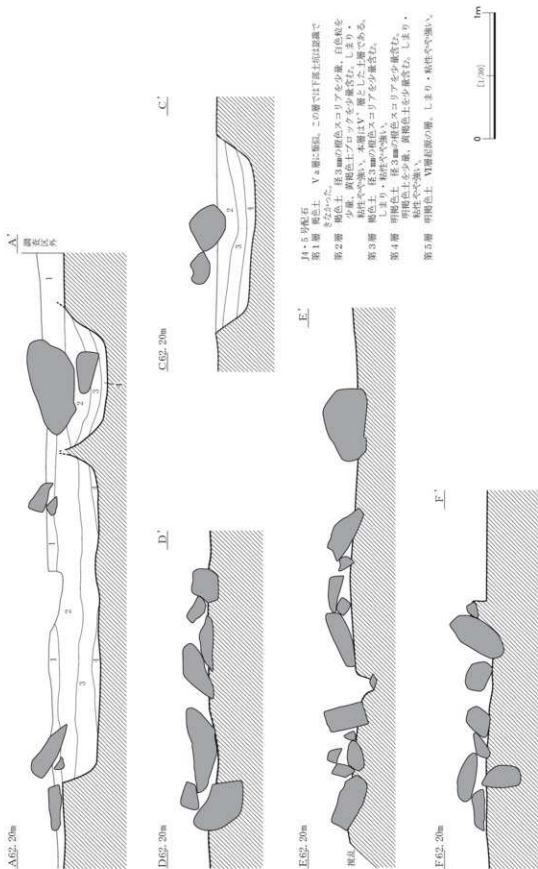
j20・j22・j23は堀之内2式の深鉢である。j21は曾利Ⅲ式の深鉢である。配石の時期は堀之内2式期にあたると思われる。j640は黒曜石の原石で重さ12gを量り、蛍光X線分析では霧ヶ峰産である。

J 6号配石（第45図、図版6）

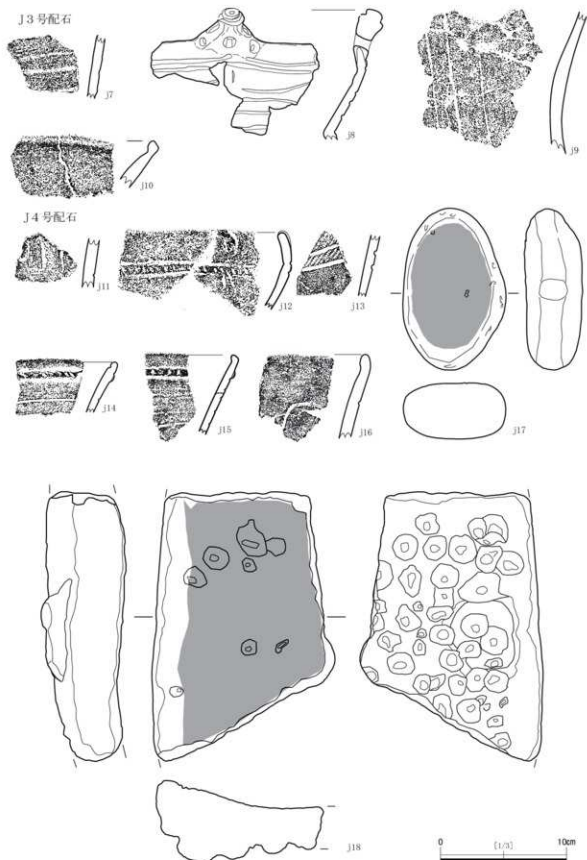
調査区の北側4 P-37グリッドで、J 6号配石は調査区北西隅で発見された23点の礫のまとまりである。北側調査区域外へ続く。礫は密集せずやや散漫な分布であるが、北側部分にやや密な様相が見られ、北側に広がる可能性がある。配石の北端部分の礫に混在して縄文時代後期の大形の土器片が出土した。長軸2.70 m、短軸1.64 mで、深さ0.30 mで断面は鍋底状を呈し、配石の埋没土はV a層相当の堆積土で掘り方の埋没土はVI層相当の堆積土である。J 6号配石の礫はほぼ平面的配置であり、掘り方内から礫は出土していない。掘り方からは、上述の縄文時代後期の土器大形破片と礫1点が北端近くで出土した。出土遺物は、土器



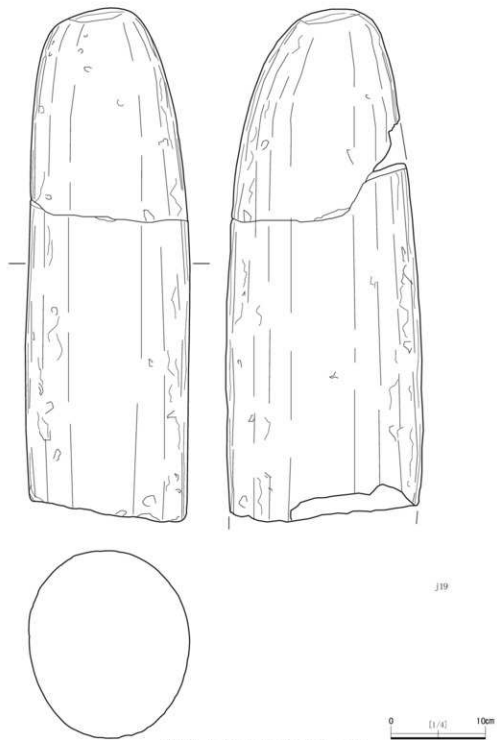
第41図 J4・5号配石 (1) [1/30]



第42図 J4・5号配石(2) [1/30]



第43図 J3・4号配石出土遺物（1） [1/3]

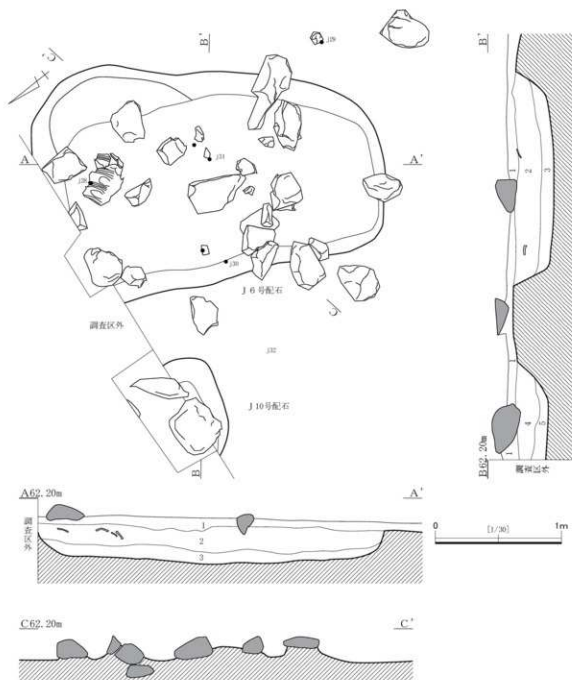


第44図 J 4号配石出土遺物 (2) [1/4]

片 25 点 (2,562g) が出土する。

J 6号配石出土遺物 (第 47 図、第 33 表、図版 59)

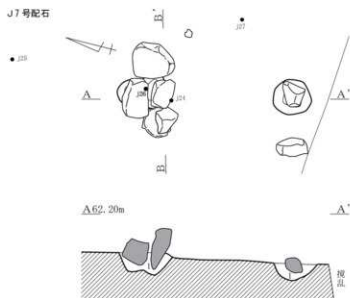
J28 は下北原式の大形深鉢である。胴部中位の大形破片で 4 条単位の垂下する沈線文と逆 U 字状文が交互に配される。J30 は堀之内 2 式の深鉢である。J29 は堀之内式の底部で網代痕を残し、J31 は粗製土器である。遺構の時期は下北原期から堀之内式期にあたりと考えられる。



- 第1層 褐色土: V層の類似土。明褐色～黄褐色土のブロックを少量、暗褐色土を少量、パミスを少量含む。色調暗い。しまり・粘性やや強い。
- 第2層 明褐色土: 径3mmの橙色スコリアを多量、径10～30mmの黄褐色ブロックを少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第3層 明褐色土: 径3mmの橙色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 第4層 褐色土: 径3mmの橙色スコリアを少量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。
- 第5層 褐色土: 径3mmの橙色スコリアを多量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。

第45図 J 6・10号配石[1/30]

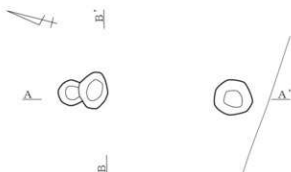
J7号配石



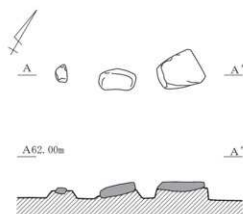
J7号配石

第1層 褐色土 径3mmの橙色スコリアを少量含む。
しまりやや強い・粘性あり。第VI層ベースの土。

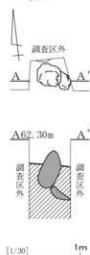
掘り方



J8号配石

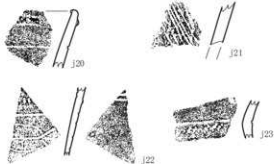


J9号配石

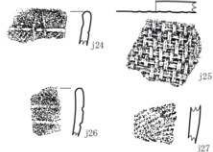


第46図 J7・8・9号配石 [1/30]

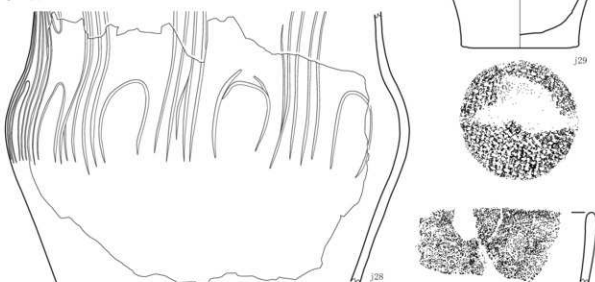
J5号配石



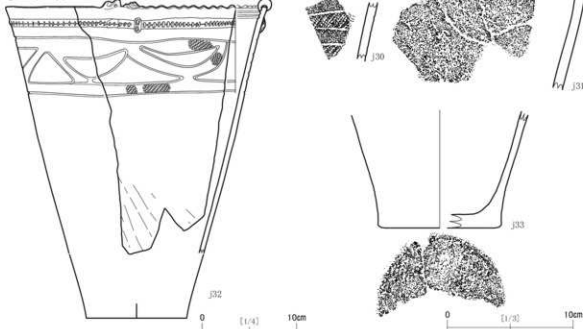
J7号配石



J6号配石



J23号土坑



第47図 J5～7号配石・J23号土坑出土遺物 [1/3・1/4]

J 7号配石 (第46図、図版6)

20 東区の北側 4 Q-37 グリッドで、J 7号配石はJ 4号配石の東隣にあり、礫5点を組むように配した小形の配石遺構である。中央にやや扁平な礫を立て、その根元をやや扁平な礫で囲んでいる。J 7号配石の下位には掘り方はなく、礫を配置したVI層相当層の凹凸が認められただけである。出土遺物は、土器片5点(75g)が出土する。

J 7号配石出土遺物 (第47図、第33表、図版60)

j26は堀之内2式の土器である。j25は堀之内期の底部で、網代底を残す。j27は堀之内式の粗製土器である。j24は加曾利B式の口縁部破片である。遺構の時期は堀之内2式期にあたると思われる。

J 8号配石 (第46図)

調査区の北側 4 Q-36 グリッドで、J 8号配石は調査区南東側にあり、3点の扁平な礫が平面的に並んでいる配石である。調査区西側にあるJ 1～7号配石と同様にほぼVI層上に礫が配され、礫間にV層土が堆積している状況で検出された。近くには他の配石は分布していない。また配石下部に掘り方は発見されていない。遺物は出土していない。

J 9号配石 (第46図)

調査区の北側 4 Q-37 グリッドで、J 9号配石はJ 5号配石の北隣の調査区壁面で立石状に見出された3点の礫を、北側へ広がりを持つ配石礫のまとまりの一部として命名したものである。この礫を取り上げる際に更に北側に礫が埋まっていることが確認されているが、調査区域外へ続くため、確認にとどめている。J 9号配石の下位にはJ 35号土坑が位置する。北側の調査が行われれば、一体の掘り方となる可能性がある。

J 10号配石 (第45図)

調査区北西隅で、4 P-37 グリッドに位置し、遺構は北側の調査区外に広がる。東側にJ 6号配石が隣接する。平面は調査範囲でみると半円形を呈し、主軸はN-66°-Wを指す。掘り方は長軸0.78m、短軸(0.30)m、深さ0.24mを測り、断面は鍋底状で底面は平坦で、配石の埋没土はV a層相当の堆積土で掘り方の埋没土はVI層相当の堆積土である。その上層からは3点の礫が出土している。この礫は調査区壁に露出している礫を取り上げるために調査区壁北壁の一部を拡張掘削したところ、更に北側へ礫が並んでいることが確認されている。ここでは、これも配石遺構として扱い配石は北側へ展開している可能性がある。遺物は出土していない。

(2) 土坑

配石と一体の、もしくは関連があるような掘り込み7基については、配石の掘り方として記したが、それ以外にも7基の土坑が発見されている。調査区西端では、J 2号配石の北側に、J 28号土坑、J 33号土坑、J 25号土坑の3基が重複して、調査区北端にはJ 5号配石の北側に、J 34号・J 35号・J 36号土坑があって、調査区域外へ続いている。調査区北西部には、J 6号配石の西側にJ 23号土坑がある。

J 23号土坑 (第48図、図版11)

調査区北西隅で、4 P-37 グリッドに位置し、西側は市道の法面で擾乱されている。東側にJ 6号配石が隣接する。平面は楕円形を呈し、主軸はN-96°-Eを指す。長軸1.22m、短軸(1.14)m、深さ0.22mを測り、断面は箱形で底面は平坦で、VI層相当層である。土坑検出面と覆土中から縄文時代後期前半の大形土器破片が出土している。出土遺物は、土器片12点(795g)と黒曜石剥片類(2g)が出土する。

J 23号土坑出土遺物 (第47図・第33表、図版59)

出土遺物は、j32は堀之内2式の土器である。j33は堀之内期の底部で、網代痕を残す。遺構の時期は堀之内2式期にあたると思われる。

J 25号土坑 (第48図)

調査区西側中央で、4P-36グリッドに位置し、西側は市道の法面で攪乱されている。南側にJ2号配石が隣接し、J33号土坑に切られている。平面は楕円形を呈し、主軸はN-22°-Eを指す。長軸1.00m、短軸(0.88)m、深さ0.40mを測り、断面は鍋底状でVI層相当層である。遺物は出土していない。

J 28号土坑 (第48図)

調査区西側中央で、4P-36グリッドに位置し、西側は市道の法面で攪乱されている。南側にJ2号配石が隣接し、J33号土坑とは重複して、本土坑が切っている。平面は楕円形を呈し、主軸はN-97°-Eを指す。長軸(0.84)m、短軸(0.28)m、深さ0.14mを測り、断面は鍋底状で、VI層相当層である。遺物は出土していない。

J 33号土坑 (第48図)

調査区西側中央で、4P-36グリッドに位置し、西側は市道の法面で攪乱されている。南側にJ2号配石が隣接し、J28・J33号土坑とは重複して、J28号土坑に切られ、J25号土坑を切っている。平面は楕円形を呈し、主軸はN-33°-Wを指す。長軸(0.60)m、短軸(0.50)m、深さ0.40mを測り、断面は鍋底状で、VI層相当層である。遺物は出土していない。

J 34号土坑 (第48図)

調査区北壁際で、4P-37グリッドに位置し、北側は調査区域外に延びている。西側にJ6号配石が隣接し、J34号・J35号・J36号土坑が重複する。J36号土坑を切っている。平面は楕円形を呈し、主軸はN-94°-Eを指す。長軸(1.20)m、短軸1.14m、深さ0.38mを測り、断面は逆台形で底面は平坦で、VI層相当層である。出土遺物は、土器片3点(20g)が出土する。

J 35号土坑 (第48図)

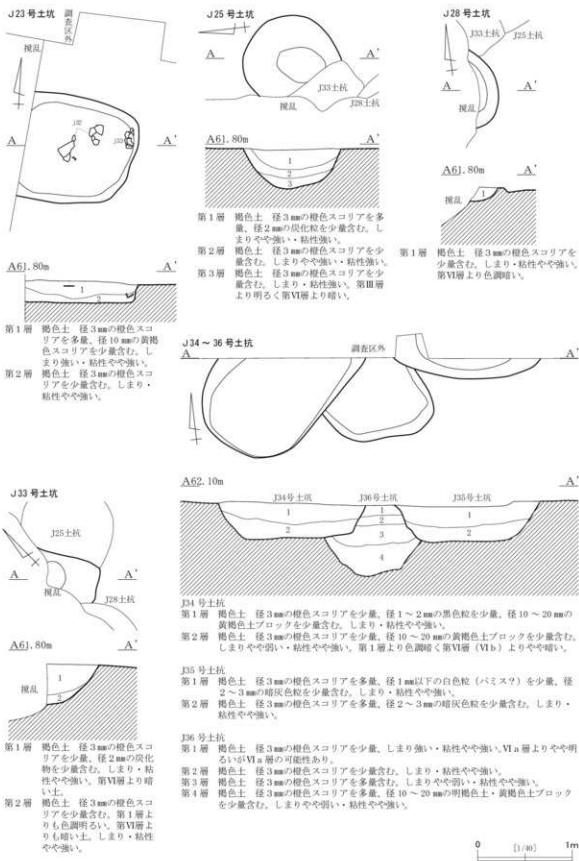
調査区北壁際で、4Q-37グリッドに位置し、北側は調査区域外に延びている。西側にJ6号配石が隣接し、J36号土坑を切っている。平面は楕円形を呈し、主軸はN-94°-Eを指す。長軸(1.50)m、短軸(0.28)m、深さ0.40mを測り、断面は逆台形で底面は平坦で、VI層相当層である。遺物は出土していない。

J 36号土坑 (第48図)

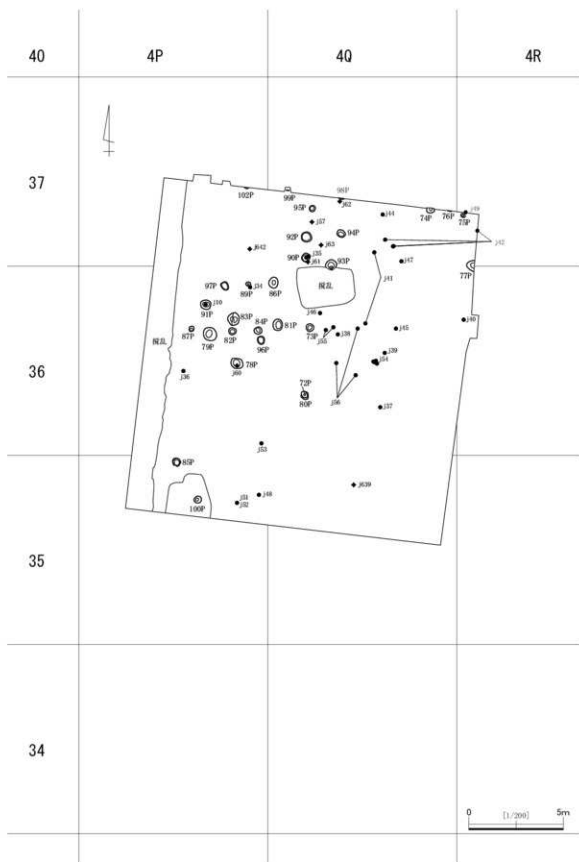
調査区北壁際で、4Q-37グリッドに位置し、北側は調査区域外に延びている。西側にJ6号配石が隣接し、J34号・J35号土坑と重複し切られる。平面は楕円形を呈し、主軸はN-12°-Wを指す。長軸(0.90)m、短軸1.10m、深さ0.76mを測り、断面は鍋底状で、VI層相当層である。遺物は出土していない。

(3) ビット (第49図、第6表)

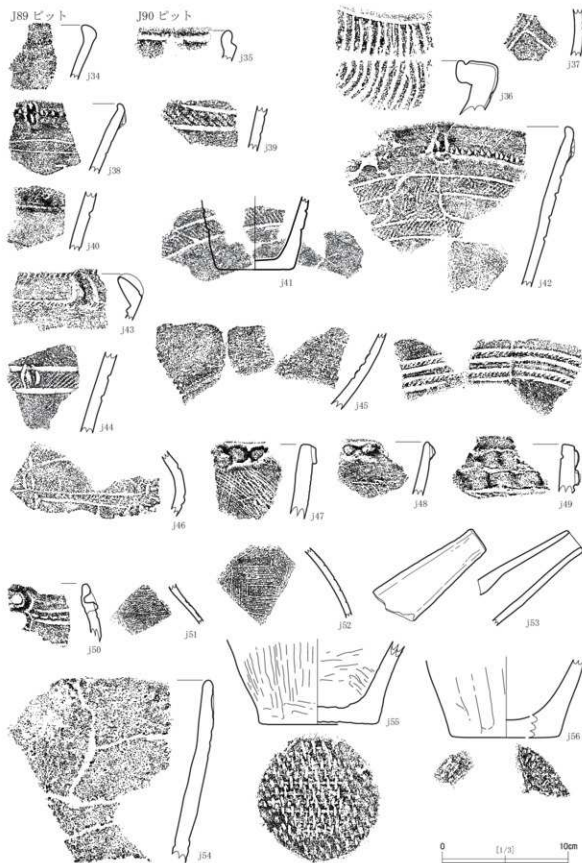
ビットはVIa層もしくはVIb層で発見されたものが多いが、出土土器は縄文時代後期のものが認められることと、調査区壁面での土層観察においてVIb層面(VIa層下面)まで立ち上がるものが確認されることから、VIa層から掘り込まれた縄文時代後期に属する遺構と推測される。縄文時代のビットの分布は、配石遺構や土坑と同様に調査区西側に分布し、東側では発見されていない。ビットの分布は、調査区西側の中程にやや多く分布しているが、建物の柱穴になるような配置は見られない。出土遺物は、6基のビット内から後期の土器が出土し、73ビットは1点(9g)、78ビット1点(33g)、79ビット1点(8g)、89ビット1点(18g)、



第48図 J23・25・28・33～36号土坑[1/40]



第49図 Jビット全体図及び遺構外出土遺物分布図 [1/200]



第50図 遺構外出土遺物 (1) [1/3]